

# 鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事

鹿児島市立病院

久米・衛藤中山設計共同企業体









共通設計概要書		設計条件(建築物等)		各建築物等の諸元	
・選択記入事項は●のついたものを適用し、○印は適用しない。		許容面積		建築物等の名称	
		建築面積(率)		鹿児島市立病院増築その他本体工事	
		容積(率)		用途区分記号	
		許容高さ			
		耐震性能		棟概要	
工事概要		耐震構造システム		棟番号	
工事名称		高耐震設計		棟名	
工事場所		官庁基準の採否		用途	
工事種別		重要度係数(I)		工事種別	
工事内容特記		地域係数(Z)		構造種別	
		設計用層間変形角(構造体)		耐火区分	
		エキスパンションジョイントの必要クリアランス		階数	
工期		室内遮音目標値		最高の高さ	
特定工程		特殊な室の仕様		最高の軒の高さ	
建築主		建築物等の概要		建築物の高さ	
代理人/設計者		主要用途		主階高	
意匠設計者		建築面積		主天井高	
構造設計者		延べ面積		備考	
建築設備に関し法適合確認及び意見を聴いた者		建築物の数		面積表	
		建築物の高さ等		ヘリポート階	
		敷地面積		塔屋	
		駐車場設置義務		8階	
		駐輪場設置義務		7階	
		公共下水道		6階	
		電柱支線移設		5階	
		道路切り下げ		4階	
		環境		3階	
		雨水流出抑制		2階	
		排水規制		1階	
		設計降雨量		地階	
		風荷重		床面積	
		積雪荷重		建築面積	
		地下水位		案内図	
		浸水対策		図面	
		寒冷地対策		設計者	
		塩害対策		図面番号	

設計条件(敷地)		建築物等の概要		案内図			
都市計画区域		主要用途					
防火地域		建築基準法				用途区分記号 08260	
その他の区域		消防法				6項(イ)	
道路		建築面積				申請部分	
		延べ面積				申請以外部分	
		敷地面積				合計	
		駐車場設置義務				備考	
		駐輪場設置義務				申請部分	
		公共下水道				申請以外部分	
		電柱支線移設				合計	
		道路切り下げ				備考	
		環境				申請部分	
		雨水流出抑制				申請以外部分	
		排水規制				合計	
		設計降雨量				備考	
		風荷重				申請部分	
		積雪荷重				申請以外部分	
		地下水位				合計	
		浸水対策				備考	
		寒冷地対策				申請部分	
		塩害対策		申請以外部分			
				合計			
				備考			

日付	2024.03	法適合を確認したもの	一級建築士 登録番号 266585号 高橋 創	図面名	設計概要	設計者	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	図面番号	A1版 A3版	図面番号	AAC-A-004
PA	富沢 照秋 横田 織間 正行	一級建築士 登録番号 257995号		図面名	設計概要	設計者	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	図面番号	A1版 A3版	図面番号	AAC-A-004
担当	増田 哲男 藤本 真二郎	設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 織間 正行		図面名	設計概要	設計者	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	図面番号	A1版 A3版	図面番号	AAC-A-004
	須田 祥吾			図面名	設計概要	設計者	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	図面番号	A1版 A3版	図面番号	AAC-A-004



	<p>c. 自主中間検査・監理者の指示する時期に、受注者の本社等の検査委員（現場関係者を除く）による自主中間検査を行い、関係法令又は設計図書に適合しない箇所等がある場合は、速やかに修補又は改造を行ったうえで、監理者に報告する。</p> <p>d. 工事期間中における、関係法令等に基づき官公署その他関係機関の検査や審査については工事の内容が関係法令や設計図書に適合している事を事前に確認し監理者に報告のうえ、適切な時期にこれを受ける。このうち、1.1.3 c.)による法定検査（発注者が申請者になるもの）については、手続を代行しその検査・審査に必要な書類・資機材・労務その他を提供し、検査・審査に立ち会うなど、受検に協力する。検査・審査後は記録を作成し、監理者に提出する。</p> <p>e. 前各号の検査・審査の結果、不適合の箇所又は指摘を受けた箇所がある場合は、監理者と協議のうえ、速やかに修補又は改造し、関係機関に対して必要な手続を行い、その結果を監理者に報告する。この修補又は改造に関する費用は受注者の負担とする。</p>	<p>●7節 完成図等</p> <p>1.7.2 [追加] 完成図</p> <p>a. 完成図は、設計図面を完成状態に修正したものである。</p> <p>b. 完成図は、完成した建物に関する情報を整理、記録し、建物の維持管理及び将来改修、増改築等を行う際に基本情報として活用することを目的として作成する。</p> <p>c. 完成図は設計図を基に、指示する期日までに作成し、監理者の承認を受ける。なお、設計図書データを利用する場合は1.1.5に準ずる。</p> <p>d. 完成図の種類及び記入内容</p> <table border="1" data-bbox="890 178 1469 514"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>記入内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2">（建築設計図）</td> </tr> <tr> <td>●特記仕様書</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●設計概要書</td> <td>建物の概要 敷地及び建物等の面積表 案内図</td> </tr> <tr> <td>●内部仕上表</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●配置図</td> <td>建物と敷地の関係 外構計画概要</td> </tr> <tr> <td>●平面図</td> <td>室名 室面積 耐震壁の位置 防火区画 防煙区画</td> </tr> <tr> <td>●立面図</td> <td>外壁の仕上げ 打継目地 伸縮目地</td> </tr> <tr> <td>●断面図</td> <td>階高、天井高等を表示し2面以上作成 標準地盤面 道路 隣地斜線</td> </tr> <tr> <td>●炬計図</td> <td>基本的寸法 対応した平面図、立面図</td> </tr> <tr> <td>●各種詳細図</td> <td>部分詳細図 平面詳細図</td> </tr> <tr> <td>●展開図</td> <td>天井高 主要仕上げ</td> </tr> <tr> <td>●各種伏図</td> <td>天井伏図 床伏図 屋根伏図</td> </tr> <tr> <td>●建具表</td> <td>防火性能</td> </tr> <tr> <td>●その他</td> <td>外構図 植栽図</td> </tr> <tr> <td>●確認申請図書</td> <td>鏡を含む一式</td> </tr> <tr> <td colspan="2">（構造設計図）</td> </tr> <tr> <td>●一式</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">（空調設備設計図）</td> </tr> <tr> <td>●一式</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">（衛生設備設計図）</td> </tr> <tr> <td>●一式</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">（電気設備設計図）</td> </tr> <tr> <td>○一式</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">（昇降機設備設計図）</td> </tr> <tr> <td>●一式</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">（施工図等）</td> </tr> <tr> <td>●総合図</td> <td>●一式</td> </tr> <tr> <td>●施工図・工作図</td> <td>●構造躯体 ●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの</td> </tr> <tr> <td>●施工計画書</td> <td>●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの</td> </tr> </tbody> </table>	種類	記入内容	（建築設計図）		●特記仕様書		●設計概要書	建物の概要 敷地及び建物等の面積表 案内図	●内部仕上表		●配置図	建物と敷地の関係 外構計画概要	●平面図	室名 室面積 耐震壁の位置 防火区画 防煙区画	●立面図	外壁の仕上げ 打継目地 伸縮目地	●断面図	階高、天井高等を表示し2面以上作成 標準地盤面 道路 隣地斜線	●炬計図	基本的寸法 対応した平面図、立面図	●各種詳細図	部分詳細図 平面詳細図	●展開図	天井高 主要仕上げ	●各種伏図	天井伏図 床伏図 屋根伏図	●建具表	防火性能	●その他	外構図 植栽図	●確認申請図書	鏡を含む一式	（構造設計図）		●一式		（空調設備設計図）		●一式		（衛生設備設計図）		●一式		（電気設備設計図）		○一式		（昇降機設備設計図）		●一式		（施工図等）		●総合図	●一式	●施工図・工作図	●構造躯体 ●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの	●施工計画書	●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの	<p>完成写真 [追加]</p>	<p>a. 完成写真の提出は、「工事監理文書作成要領」によるほか、次による。</p> <p>b. 完成写真の撮影は、指定建築写真家により監理者の指示に従って行う。</p> <p>c. 撮影機材は、原則としてデジタルビデオカメラを使用する。</p> <p>d. 完成写真は、写真データのJPGを指定の要領にて整理作成のうえ提出する。</p> <p>e. 完成写真の電子データは全撮影箇所を以下の仕様とする。 画像データの解像度：キャビネ版フルカラー600dpi以上 ファイル形式：JPG(最高画質圧縮とする) カラーモード：RGB とし、フォルダ形式、ファイル名は監理者の指示により、作成する。</p> <p>f. 担当者他・工事概要・完成写真目録を収めた工事概要Excelデータと上記の整理した完成写真のJPGデータをDVD-R又はCD-Rに指定のラベルを付けて提出する。</p> <p>g. 完成後の再撮影が必要な箇所は指示による。再撮影の時期は現場にて協議の上決定する。</p> <p>h. 完成写真の撮影箇所数及び提出部数</p> <table border="1" data-bbox="1632 304 2166 567"> <thead> <tr> <th rowspan="3">工事項目</th> <th rowspan="3">個所数</th> <th colspan="3">提出部数</th> </tr> <tr> <th colspan="2">発注者</th> <th>設計JV</th> </tr> <tr> <th>完成アルバム (冊子)</th> <th>写真データ (JPG)</th> <th>写真データ (JPG)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">建築</td> <td>内部 60箇所</td> <td rowspan="4">3部</td> <td rowspan="4">1部</td> <td rowspan="4">2部</td> </tr> <tr> <td>外部 25箇所</td> </tr> <tr> <td>※注 航空 5箇所</td> </tr> <tr> <td>再撮影 適宜</td> </tr> <tr> <td>空調</td> <td>3箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給排水</td> <td>3箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>電気</td> <td>3箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>昇降機</td> <td>3箇所</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="5">※注 ドローン撮影を含む。撮影に際しての手続等は受注者の責任において行う。</td> </tr> </tbody> </table>	工事項目	個所数	提出部数			発注者		設計JV	完成アルバム (冊子)	写真データ (JPG)	写真データ (JPG)	建築	内部 60箇所	3部	1部	2部	外部 25箇所	※注 航空 5箇所	再撮影 適宜	空調	3箇所				給排水	3箇所				電気	3箇所				昇降機	3箇所				※注 ドローン撮影を含む。撮影に際しての手続等は受注者の責任において行う。					
種類	記入内容																																																																																																												
（建築設計図）																																																																																																													
●特記仕様書																																																																																																													
●設計概要書	建物の概要 敷地及び建物等の面積表 案内図																																																																																																												
●内部仕上表																																																																																																													
●配置図	建物と敷地の関係 外構計画概要																																																																																																												
●平面図	室名 室面積 耐震壁の位置 防火区画 防煙区画																																																																																																												
●立面図	外壁の仕上げ 打継目地 伸縮目地																																																																																																												
●断面図	階高、天井高等を表示し2面以上作成 標準地盤面 道路 隣地斜線																																																																																																												
●炬計図	基本的寸法 対応した平面図、立面図																																																																																																												
●各種詳細図	部分詳細図 平面詳細図																																																																																																												
●展開図	天井高 主要仕上げ																																																																																																												
●各種伏図	天井伏図 床伏図 屋根伏図																																																																																																												
●建具表	防火性能																																																																																																												
●その他	外構図 植栽図																																																																																																												
●確認申請図書	鏡を含む一式																																																																																																												
（構造設計図）																																																																																																													
●一式																																																																																																													
（空調設備設計図）																																																																																																													
●一式																																																																																																													
（衛生設備設計図）																																																																																																													
●一式																																																																																																													
（電気設備設計図）																																																																																																													
○一式																																																																																																													
（昇降機設備設計図）																																																																																																													
●一式																																																																																																													
（施工図等）																																																																																																													
●総合図	●一式																																																																																																												
●施工図・工作図	●構造躯体 ●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの																																																																																																												
●施工計画書	●カーテンウォール ●その他監理者が指示するもの																																																																																																												
工事項目	個所数	提出部数																																																																																																											
		発注者		設計JV																																																																																																									
		完成アルバム (冊子)	写真データ (JPG)	写真データ (JPG)																																																																																																									
建築	内部 60箇所	3部	1部	2部																																																																																																									
	外部 25箇所																																																																																																												
	※注 航空 5箇所																																																																																																												
	再撮影 適宜																																																																																																												
空調	3箇所																																																																																																												
給排水	3箇所																																																																																																												
電気	3箇所																																																																																																												
昇降機	3箇所																																																																																																												
※注 ドローン撮影を含む。撮影に際しての手続等は受注者の責任において行う。																																																																																																													
<p>1.5.9 化学物質の濃度測定</p>	<p>建築工事特記仕様書5-2による。</p>	<p>1.7.3 保安に関する資料 [追加]</p> <p>(1) 保安に関する資料提出部数は、建築工事特記仕様書5-2による。</p> <p>a. 保安に関する資料は(a)に示すほか、次のものを監理者に(a)と同じ部数提出する。 ●敷地境界立会い記録 ●地中仮設残存物記録 ●総合調整・試験報告書 ●保安マニュアル ●長期修繕計画書</p> <p>b. 次に該当する建築物部位・設備・部品等については、建築物等の利用・維持管理・保安に関する説明書及び機器取扱い説明書を作成し、監理者に提出のうえ、発注者又は発注者の指定する建物管理者等に対して取扱い説明を行う。取扱い説明が完了した場合は、その記録を添えて監理者に報告する。 1) 特殊な操作を必要とするもの 2) 特殊な手入れを必要とするもの 3) 使用上・保安上特別な注意を必要とするもの 4) 専門工事業者への保安管理委託を必要とするもの 5) 定期的に状態や機能を点検する必要があるもの 6) 経年劣化等により更新・取替え等が必要なもの 7) その他、必要と思われるもの</p>	<p>完成パンフレット [追加]</p>	<p>a. 完成パンフレットは、完成写真、建物概要及び設計コンセプト等を指定の要領で作成し提出する。作成書式：A4判二つ折りカラーオフセット印刷</p> <p>b. 完成パンフレットの提出部数</p> <table border="1" data-bbox="1632 640 2166 724"> <thead> <tr> <th rowspan="2">完成パンフレット</th> <th colspan="2">提出部数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>発注者</th> <th>久米設計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●完成パンフレット</td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	完成パンフレット	提出部数		備考	発注者	久米設計	●完成パンフレット	-	-		<p>鍵合せ等 [追加]</p> <p>a. 鍵合せ・各種計量器確認等を行う。その日程・方法は監理者と協議のうえ決定する。監理者の立会いについては、監理者の指示による。</p> <p>b. 鍵の提出に当たっては、鍵に整理札を付け、それに整合した建具配置図及び鍵明細書とともに鍵箱に整理・収納して発注者に提出する。</p>																																																																																														
完成パンフレット	提出部数		備考																																																																																																										
	発注者	久米設計																																																																																																											
●完成パンフレット	-	-																																																																																																											
<p>[追加] a. 施工中における接着剤等の有機溶剤や使用材料相互の干渉による臭気について、発生のおそれのある場合は、事前に臭気測定計画書を監理者に提出のうえ、施工中の必要な時期に監理者の立会いのもと測定を行い、その結果を発注者、建物管理者及び監理者に報告する。</p> <p>●6節 工事検査及び技術検査</p> <p>1.6.1 [追加] 工事検査</p> <p>1.6.2 技術検査</p>	<p>a. 工事の完成に当たって、受注者等の自主検査を行ったうえで、受注者の本社等の検査員による自主検査を行い、関係法令、設計図書等又は総合図面に適合しない箇所等がある場合は、速やかに修補を行ったうえで、監理者に報告する。なお、事前に久米設計の竣工検査チェックシートを監理者に提出し、竣工検査を受ける。</p> <p>b. 関係法令等に基づき官公署、その他関係機関の検査については、前号の検査に合格したのち、完成検査に先立つ適切な時期にこれを受ける。このうち、1.1.3 c.)による法定検査（発注者が申請者になるもの）については、手続を代行し、検査・審査に立ち会うなど受検に協力する。検査・審査後は記録を作成し、監理者に提出する。</p> <p>c. 前号、前々号の検査の結果、修補又は改造が必要であると指摘された箇所がある場合は、監理者の指示により速やかに修補又は改造し、監理者の再検査を受けるとともに、官公署その他関係機関に対し必要な手続を行う。工事に必要な諸手続き（システム評定などを含む）、実験及び資料作成等に関する費用は受注者の負担とする。</p> <p>d. 上記各号の各検査の結果、すべての工事が完了していること及び設計図書等と契約条件並びに関係法令等の規定に適合していることが確認されたのち、監理総括者等による完成検査を受ける。</p> <p>e. 前号の検査の結果、修補又は改造が必要であると指摘された箇所がある場合は、監理者の指示により速やかに修補又は改造し監理者の再検査を受ける。この修補及び改造に関する費用は受注者の負担とする。</p> <p>f. 完成時の諸検査の日程・方法については、関連工事との調整を行い、必要により関連工事の受注者等同席のうえ、協同して検査を受ける。</p> <p>g. 工事の完成に際し、全ての機器及び装置について、原則として試運転調整を完了した状態で、受注者等による次の検査・試験を行う。また、検査結果について報告書を監理者に提出し、承認をうけたうえで監理者の竣工検査を受ける。 1) 外観検査(出来形検査)：目視・聴音又は手で触るなどにより、各機器・装置が設計図書に示す要求に合致することを確認する。 2) 個別性能機能検査(機能検査、性能検査、水質検査等)：各機器及び各装置の個別の性能・機能を設計図書と照合しその適合性を確認する。 3) 総合性能機能検査：複数の工種にまたがって性能・機能を発揮する機器・装置について関連工事の受注者と協同して総合的な性能機能検査を行い、その適合性を確認する。主な確認項目は、次による。なお、検査に先立ち検査計画書を作成し、監理者の承認を受ける。 全停電・復電総合検査 防災総合運動検査 タンク・水槽関連検査 自動制御検査 中央監視盤検査 総合運転による騒音・振動検査 完成時の室内環境測定 セキュリティシステム運動検査 その他、監理者の指示する検査 4) 完成後に確認する性能機能検査：建築物の完成時期等により、工事完成までに確認できない機器能力及び室内環境等については、完成引渡し後1年以内の夏季及び冬季で気象条件等が設計条件に近い日を選び測定し、設計図書に定める性能・機能・室内環境との適合性を確認する。完成引渡し後に確認が必要な機器能力、室内環境等の性能機能検査については、事前に性能機能検査の項目と方法、検査スケジュール、検査体制を記載した完成後の「性能機能検査計画書案」を作成し提出し、発注者及び監理者の承認を受ける。性能機能検査実施は、速やかに監理者に報告する。</p>	<p>(1) 保安に関する資料提出部数は、建築工事特記仕様書5-2による。</p> <p>a. 保安に関する資料は(a)に示すほか、次のものを監理者に(a)と同じ部数提出する。 ●敷地境界立会い記録 ●地中仮設残存物記録 ●総合調整・試験報告書 ●保安マニュアル ●長期修繕計画書</p> <p>b. 次に該当する建築物部位・設備・部品等については、建築物等の利用・維持管理・保安に関する説明書及び機器取扱い説明書を作成し、監理者に提出のうえ、発注者又は発注者の指定する建物管理者等に対して取扱い説明を行う。取扱い説明が完了した場合は、その記録を添えて監理者に報告する。 1) 特殊な操作を必要とするもの 2) 特殊な手入れを必要とするもの 3) 使用上・保安上特別な注意を必要とするもの 4) 専門工事業者への保安管理委託を必要とするもの 5) 定期的に状態や機能を点検する必要があるもの 6) 経年劣化等により更新・取替え等が必要なもの 7) その他、必要と思われるもの</p> <p>c. 完成図等の提出形式及び部数は下記による。</p> <table border="1" data-bbox="890 1228 1469 1564"> <thead> <tr> <th>提出図書</th> <th>形式</th> <th>発注者</th> <th>設計JV</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">●完成図</td> <td>●原図一式</td> <td>一式</td> <td>一式(二原)</td> <td>普通紙出力</td> </tr> <tr> <td>○金文字製本(判)</td> <td>部</td> <td>---</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●二つ折背張り製本</td> <td>3部</td> <td>--</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●縮小二つ折製本(A4判)</td> <td>3部</td> <td>2部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●PDFデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>PDF/A</td> </tr> <tr> <td>●CADデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>●DWG ●JWW</td> </tr> <tr> <td>○マイクロフィルム</td> <td>---</td> <td>一式</td> <td>○JIS Z 6018</td> </tr> <tr> <td>●総合図</td> <td>●PDFデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>PDF/A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●CADデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>●DWG ●JWW</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●製本</td> <td>3部</td> <td>---</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●施工図・工作図</td> <td>●PDFデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>PDF/A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●CADデータ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>●DWG ●JWW</td> </tr> <tr> <td></td> <td>●製本</td> <td>一式</td> <td>---</td> <td></td> </tr> <tr> <td>●施工計画書</td> <td>●電子データ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>PDF</td> </tr> <tr> <td>●保安に関する資料</td> <td>●電子データ</td> <td>一式</td> <td>2部</td> <td>PDF</td> </tr> </tbody> </table> <p>1) CADデータは、AutoCAD(商標)のDWG形式を原則とし、外部参照図形利用の時はバイントシ、図面名が分かるファイル名を付けて作成する。 2) PDFデータは、図面名が分かるファイル名を付けて作成する。 3) CADデータ、PDFデータ、電子データとも、JIS Z6017に示す方法で、所定のCD-R又はDVD-Rに、所定の方法で収録し、指定のラベルを付けて提出する。 4) マイクロフィルムは普通紙出力図に押印した図面を撮影する。樹脂製穴あきリールを用い中性紙製の箱に収め、指定のラベルを付けて提出する。</p>	提出図書	形式	発注者	設計JV	備考	●完成図	●原図一式	一式	一式(二原)	普通紙出力	○金文字製本(判)	部	---		●二つ折背張り製本	3部	--		●縮小二つ折製本(A4判)	3部	2部		●PDFデータ	一式	2部	PDF/A	●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW	○マイクロフィルム	---	一式	○JIS Z 6018	●総合図	●PDFデータ	一式	2部	PDF/A		●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW		●製本	3部	---		●施工図・工作図	●PDFデータ	一式	2部	PDF/A		●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW		●製本	一式	---		●施工計画書	●電子データ	一式	2部	PDF	●保安に関する資料	●電子データ	一式	2部	PDF	<p>引渡し [追加]</p>	<p>a. [1.6.1]による通知又は請求に基づく検査終了後、設計図書に定める各種の図書類、物品又はこれに代わる目録を添えて、発注者に工事事目的物を引渡す。なお、引渡しは監理者の立会いのもとに行う。</p>																															
提出図書	形式	発注者	設計JV	備考																																																																																																									
●完成図	●原図一式	一式	一式(二原)	普通紙出力																																																																																																									
	○金文字製本(判)	部	---																																																																																																										
	●二つ折背張り製本	3部	--																																																																																																										
	●縮小二つ折製本(A4判)	3部	2部																																																																																																										
	●PDFデータ	一式	2部	PDF/A																																																																																																									
	●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW																																																																																																									
○マイクロフィルム	---	一式	○JIS Z 6018																																																																																																										
●総合図	●PDFデータ	一式	2部	PDF/A																																																																																																									
	●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW																																																																																																									
	●製本	3部	---																																																																																																										
●施工図・工作図	●PDFデータ	一式	2部	PDF/A																																																																																																									
	●CADデータ	一式	2部	●DWG ●JWW																																																																																																									
	●製本	一式	---																																																																																																										
●施工計画書	●電子データ	一式	2部	PDF																																																																																																									
●保安に関する資料	●電子データ	一式	2部	PDF																																																																																																									

	鹿児島市立病院	久米・衛藤中山設計共同企業体	日付 2024.03 P A 高沢照秋 横岡 織間正行 担当 増田哲男・藤木真二郎 須田祥吾	法適合を確認したもの 一級建築士 登録番号257995号 設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 織間正行	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創 鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事 共通特記仕様書02	専名 鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事 設計番号 0220801 図面名 A1版 A3版 図面番号 AAC-A-006
--	---------	----------------	---	---	--	--



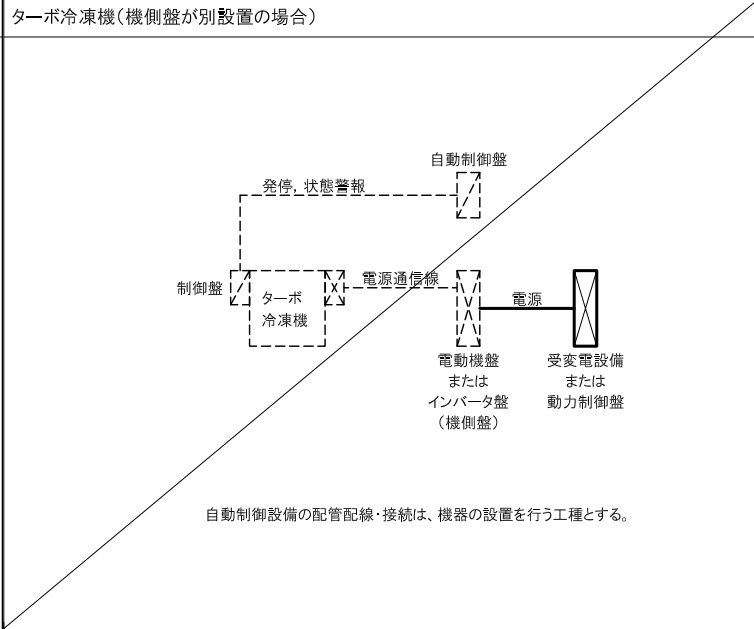
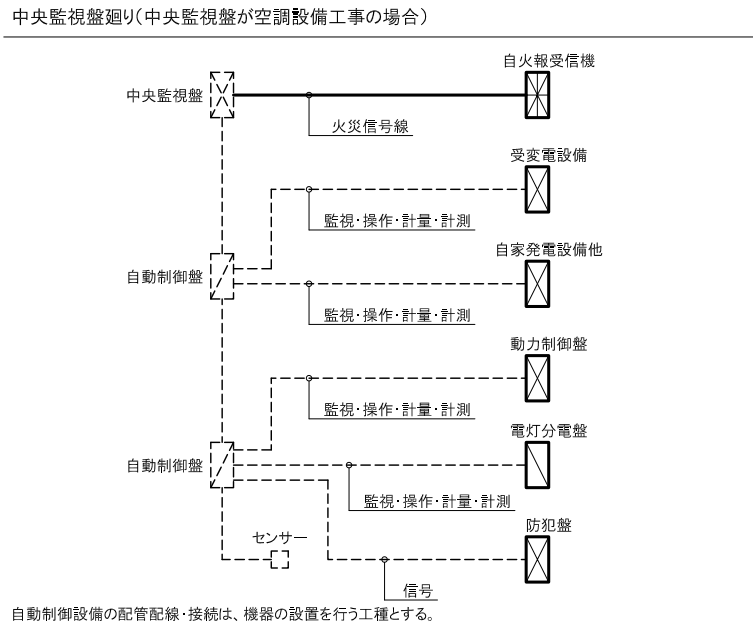
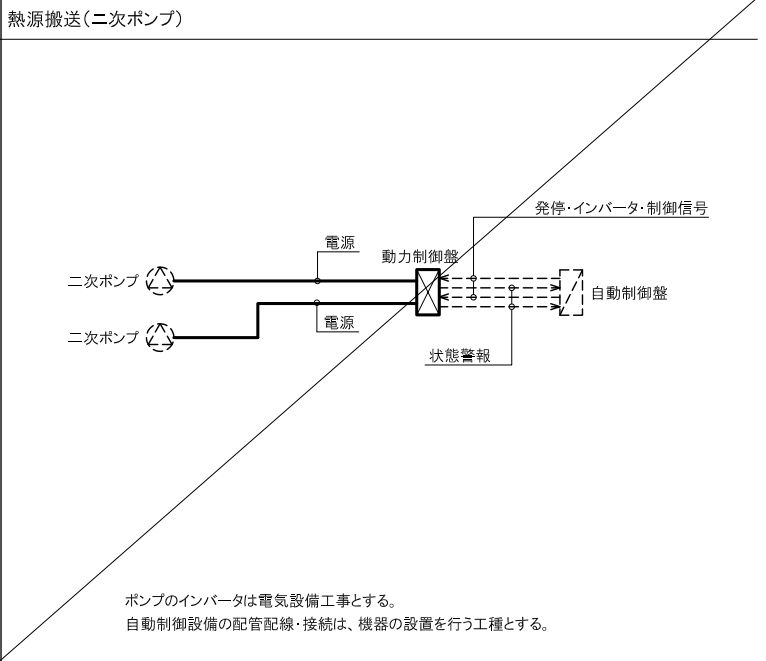
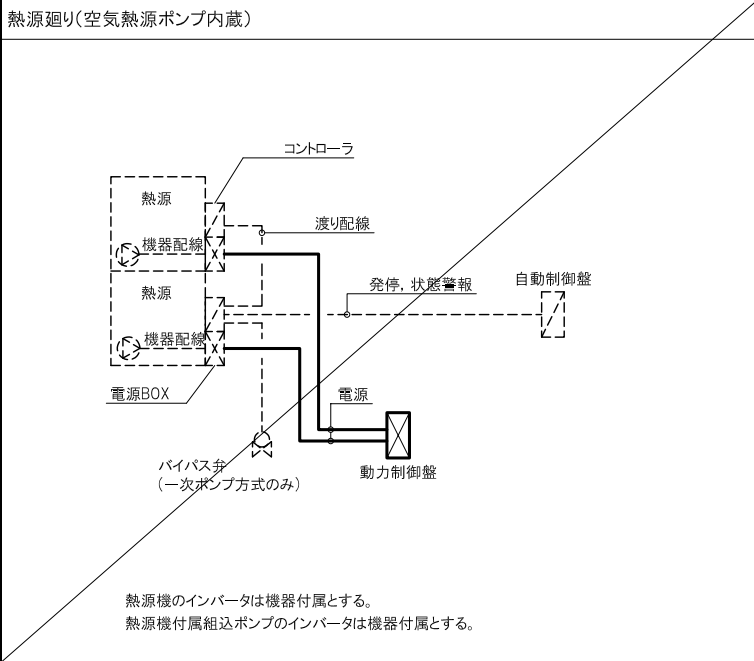
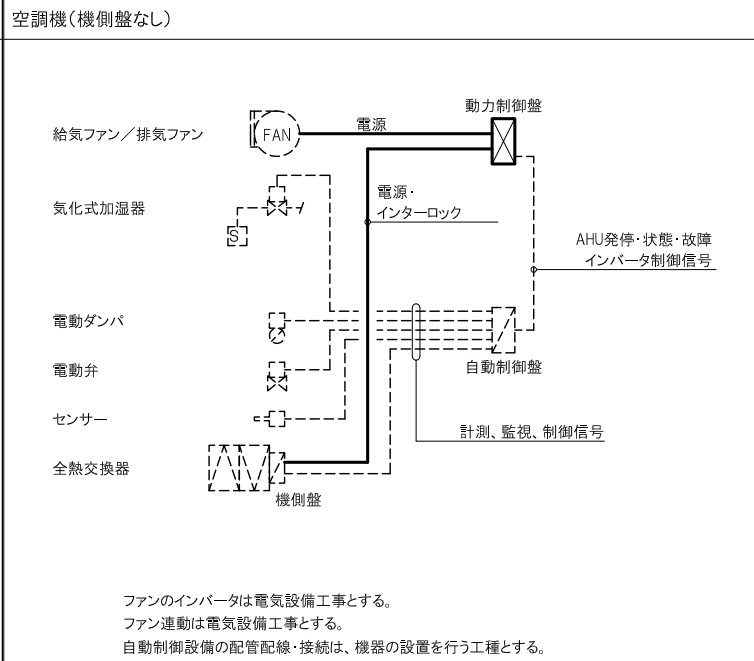
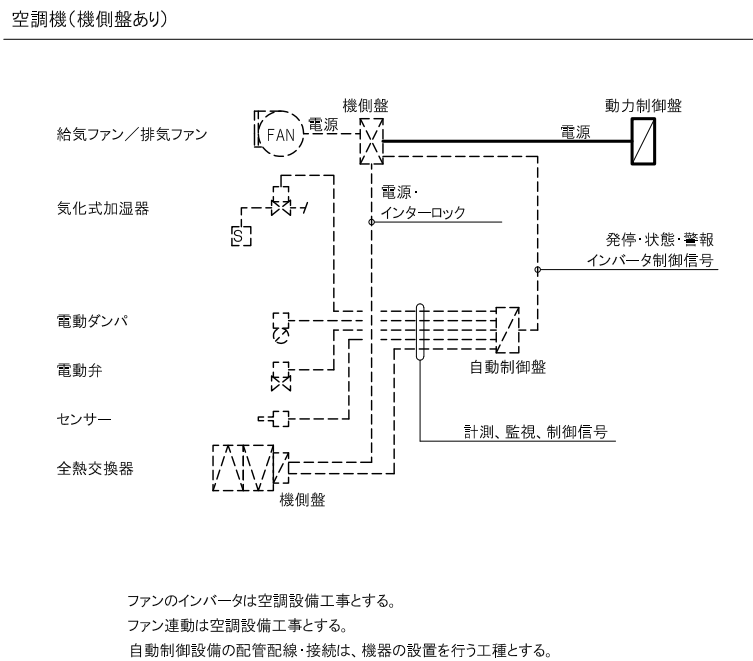
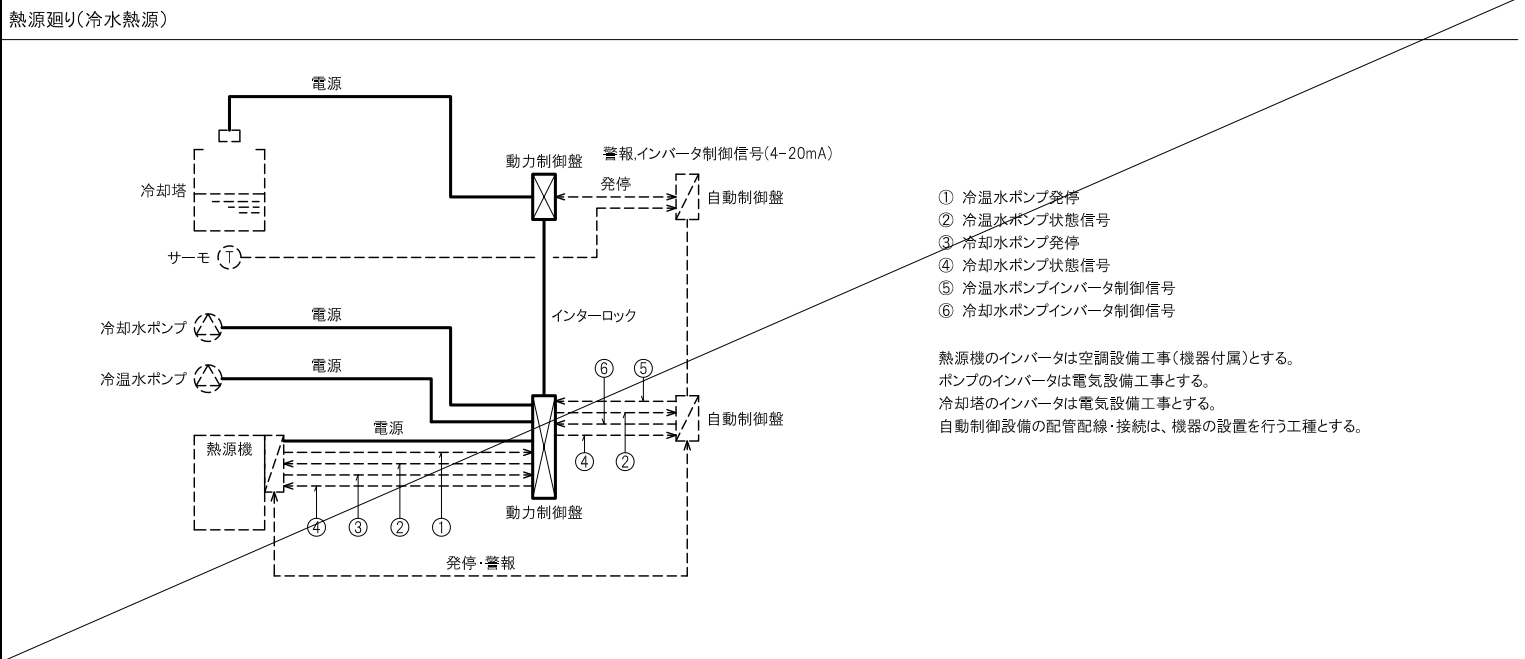
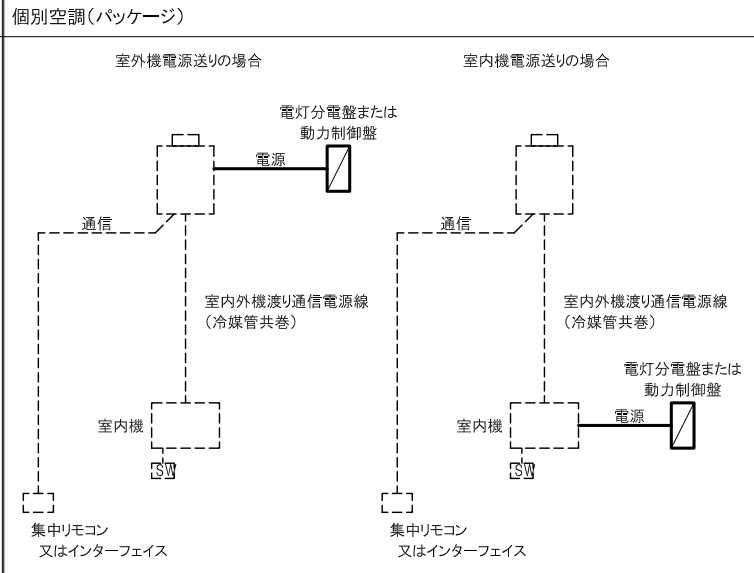
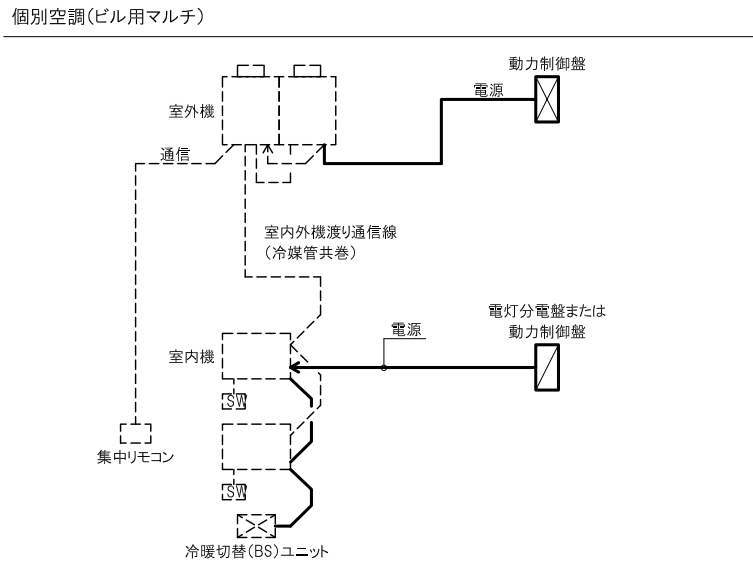
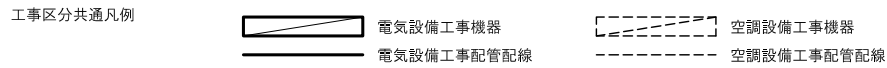
〔工事取合区分表〕 設計図による他、下記を工事区分とする。  
 (○印を適用する)但し、疑義を生じた場合は事前に質疑応答をもって確かめなければならない。

番号	項目	建築	電気	空調	衛生	別途
	〔建築 関連〕					
001	開口処理 コンクリート スリーブ、開口の為の鼻出し(各関連工事)	○	○	○	○	
002	― ―― 躯体(床・壁・梁など)すべての開口及び貫通部分の補強	○	○	○	○	
003	― ―― 貫通スリーブ及び型枠(各関連工事)	○	○	○	○	
004	― ―― スリーブ、開口廻りの穴埋め(防火、防煙区画及び音響の穴埋めを含む各関連工事)	○	○	○	○	
005	― ―― 鉄骨部分の貫通スリーブ及び補強	○	○	○	○	
006	― ―― 貫通スリーブ、予備スリーブの穴埋め(防火区画等を含む関連工事)	○	○	○	○	
007	― ―― ビット内のコンクリート躯体及び内部防水、断熱工事、クランプ、人孔、連通管、通気管	○	○	○	○	
008	― ―― ビット内の雨水排水機(排水ポンプ)とその配管(衛生工事)	○	○	○	○	
009	― ―― 網眼壁・天井下地・仕上の穴埋め切込、及び穴埋め補修(防火、防煙区画及び音響の穴埋めを含む各関連工事)	○	○	○	○	
010	― ―― 補強(スイッチ、コンセント等設置ものは各設備工事)	○	○	○	○	
011	― ―― 吸出口・吸込口並びに埋込埋込器具、スリッカー等取付の為の鉄筋と補強(軽微なものも各設備工事)	○	○	○	○	
012	― ―― の仕上材切込み・鼻出し	○	○	○	○	
013	― ―― 補強を必要としない天井開口(化粧プレート含む)(スプリンクラーヘッド・フロア・感知器等)	○	○	○	○	
014	― ―― 断熱取付の為の枠組補強	○	○	○	○	
015	― ―― パーテーション部分の切込・補強	○	○	○	○	
016	― ―― スイッチ取付・配線工事・セオ取付・長ガスアクトレットBOX他	○	○	○	○	
017	― ―― 現場製作難仕切及び既製パーテーション等への各種機械取付のための下地補強	○	○	○	○	
018	設 備 建物外壁に取付く電気・排気ガリ製作取付	○	○	○	○	
019	― ―― のダクト接続用フランジ、チェーンボックス	○	○	○	○	
020	― ―― 各室ドアガリの製作取付 及び各種リターンガリ	○	○	○	○	
021	― ―― 換気扇・ウェザーカバー・ベンドキャップ	○	○	○	○	
022	― ―― の取付用枠	○	○	○	○	
023	― ―― 設備機械用基礎築造工事(屋内：建築図に記載あるものは仕上とも建築工事)	○	○	○	○	
024	― ―― (屋外及び屋内)	○	○	○	○	
025	― ―― 床下(ビット内)	○	○	○	○	
026	― ―― 既製品基礎等軽微なもの(屋外及び屋内)	○	○	○	○	
027	― ―― 用アンカーボルト及び取付	○	○	○	○	
028	― ―― 各種設備機械の防振装置	○	○	○	○	
029	排 水 系 発電機用油庫・防油庫	○	○	○	○	
030	― ―― ルーフドレン及び堅結及び屋外雨水排水配管(雨水調整槽迄)	○	○	○	○	
031	― ―― 屋外雨水排水の緊急遮断弁	○	○	○	○	
032	― ―― 以降、屋外一次幹線までの配管	○	○	○	○	
033	― ―― 雨水からのポンプアップ配管(屋外一次幹線まで)及び、ポンプ本体	○	○	○	○	
034	― ―― 防炎・防犯 防火区画貫通部分の耐火処理	○	○	○	○	
035	― ―― 煙感検出用・防火扉・シャッター・可動垂壁の二次創配配線、感知器検出装置、制御盤	○	○	○	○	
036	― ―― 二次創配電源供給	○	○	○	○	
037	― ―― 電気錠	○	○	○	○	
038	― ―― の操作盤・制御盤及び電源設備(二次側)	○	○	○	○	
039	― ―― から操作盤・制御盤までの配管・配線工事(二次側)	○	○	○	○	
040	― ―― オートドア・電動シャッターへの電源供給(一次側)	○	○	○	○	
041	― ―― のスイッチボックス及び配線(二次側)	○	○	○	○	(工事区分参照)
042	― ―― 壁点検口の製作取付	○	○	○	○	
043	水 廻 り 身障者用手すり(便所・浴室・UR)	○	○	○	○	
044	― ―― 床マンホール・化粧マンホール、クランプ等の設置(躯体に取り付くもの)	○	○	○	○	
045	― ―― 建物内の排水溝・ピット(配管・配線・排水)及び蓋製作取付	○	○	○	○	
046	― ―― 屋内の厨房用ドラストラップ・プラスチックトラップ、ガソリントラップ用の躯体	○	○	○	○	
047	― ―― 本体及び内部装置	○	○	○	○	
048	― ―― 接続以降排水工事	○	○	○	○	
049	― ―― 洗面化粧台・洗濯パン・防水パン(取付含む)	○	○	○	○	
050	― ―― 化粧鏡・バリアフリートイレ内鏡・浴鏡・紙巻器・網・ベビースーツ等(取付含む)	○	○	○	○	(紙巻器)
051	― ―― バリアフリートイレ内オストメイト対応トイレバック	○	○	○	○	
052	― ―― 造り付け各種流し台・吊り戸棚・作業台(ゴミトラップ表) (取付含む)	○	○	○	○	(水栓)
053	― ―― ミニキッチン	○	○	○	○	
054	― ―― ユニットバス・ユニットシャワー類(ユニット内衛生器具・所定位置迄の配管含む)	○	○	○	○	
055	― ―― 流し類・ユニットバス類の配管・配線・ダクト等接続以降	○	○	○	○	
056	― ――	○	○	○	○	
057	― ――	○	○	○	○	
058	― ――	○	○	○	○	
059	― ――	○	○	○	○	
060	― ――	○	○	○	○	
061	― ――	○	○	○	○	
062	― ――	○	○	○	○	
063	― ――	○	○	○	○	
064	― ――	○	○	○	○	
065	― ――	○	○	○	○	
066	― ――	○	○	○	○	
067	― ――	○	○	○	○	
068	― ――	○	○	○	○	
069	― ――	○	○	○	○	
070	― ――	○	○	○	○	
071	― ――	○	○	○	○	
072	― ――	○	○	○	○	
073	― ――	○	○	○	○	
074	― ――	○	○	○	○	
075	― ――	○	○	○	○	
076	― ――	○	○	○	○	
077	― ――	○	○	○	○	
078	― ――	○	○	○	○	
079	― ――	○	○	○	○	
080	― ――	○	○	○	○	
081	― ――	○	○	○	○	
082	― ――	○	○	○	○	
083	― ――	○	○	○	○	
084	― ――	○	○	○	○	
085	― ――	○	○	○	○	
086	― ――	○	○	○	○	
087	― ――	○	○	○	○	
088	― ――	○	○	○	○	
089	― ――	○	○	○	○	
090	― ――	○	○	○	○	
091	― ――	○	○	○	○	
092	― ――	○	○	○	○	
093	― ――	○	○	○	○	
094	― ――	○	○	○	○	
095	― ――	○	○	○	○	
096	― ――	○	○	○	○	
097	― ――	○	○	○	○	
098	― ――	○	○	○	○	
099	― ――	○	○	○	○	
100	― ――	○	○	○	○	

番号	項目	建築	電気	空調	衛生	別途
101	手荷室 アイソレーショントランス殿(トランス機器)迄の二次創配線	○	○	○	○	
102	― ――	○	○	○	○	
103	― ――	○	○	○	○	
104	― ――	○	○	○	○	
105	― ――	○	○	○	○	
106	― ――	○	○	○	○	
107	― ――	○	○	○	○	
108	― ――	○	○	○	○	
109	― ――	○	○	○	○	
110	― ――	○	○	○	○	
111	― ――	○	○	○	○	
112	― ――	○	○	○	○	
113	― ――	○	○	○	○	
114	― ――	○	○	○	○	
115	― ――	○	○	○	○	
116	― ――	○	○	○	○	
117	― ――	○	○	○	○	
118	― ――	○	○	○	○	
119	― ――	○	○	○	○	
120	― ――	○	○	○	○	
121	― ――	○	○	○	○	
122	― ――	○	○	○	○	
123	― ――	○	○	○	○	
124	― ――	○	○	○	○	
125	― ――	○	○	○	○	
126	― ――	○	○	○	○	
127	― ――	○	○	○	○	
128	― ――	○	○	○	○	
129	― ――	○	○	○	○	
130	― ――	○	○	○	○	
131	― ――	○	○	○	○	
132	― ――	○	○	○	○	
133	― ――	○	○	○	○	
134	― ――	○	○	○	○	
135	― ――	○	○	○	○	
136	― ――	○	○	○	○	
137	― ――	○	○	○	○	
138	― ――	○	○	○	○	
139	― ――	○	○	○	○	
140	― ――	○	○	○	○	
141	― ――	○	○	○	○	
142	― ――	○	○	○	○	
143	― ――	○	○	○	○	
144	― ――	○	○	○	○	
145	― ――	○	○	○	○	
146	― ――	○	○	○	○	
147	― ――	○	○	○	○	
148	― ――	○	○	○	○	
149	― ――	○	○	○	○	
150	― ――	○	○	○	○	
151	― ――	○	○	○	○	
152	― ――	○	○	○	○	
153	― ――	○	○	○	○	
154	― ――	○	○	○	○	
155	― ――	○	○	○	○	
156	― ――	○	○	○	○	
157	― ――	○	○	○	○	
158	― ――	○	○	○	○	
159	― ――	○	○	○	○	
160	― ――	○	○	○	○	
161	― ――	○	○	○	○	
162	― ――	○	○	○	○	
163	― ――	○	○	○	○	(医 務)
164	― ――	○	○	○	○	
165	― ――	○	○	○	○	
166	― ――	○	○	○	○	
167	― ――	○	○	○	○	
168	― ――	○	○	○	○	
169	― ――	○	○	○	○	
170	― ――	○	○	○	○	
171	― ――	○	○	○	○	
172	― ――	○	○	○	○	
173	― ――	○	○	○	○	
174	― ――	○	○	○	○	
175	― ――	○	○	○	○	
176	― ――	○	○	○	○	
177	― ――	○	○	○	○	
178	― ――	○	○	○	○	
179	― ――	○	○	○	○	
180	― ――	○	○	○	○	
181	― ――	○	○	○	○	
182	― ――	○	○	○	○	
183	― ――	○	○	○	○	
184	― ――	○	○	○	○	
185	― ――	○	○	○	○	
186	― ――	○	○	○	○	
187	― ――	○	○	○	○	
188	― ――	○	○	○	○	
189	― ――	○	○	○	○	
190	― ――	○	○	○	○	
191	― ――	○	○	○	○	
192	― ――	○	○	○	○	
193						



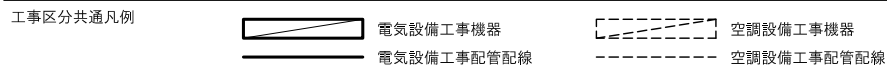
工事区分図(電気設備工事-空調設備工事)



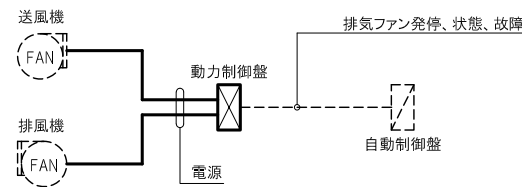
日付	2024.03	法適合を確認したもの	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名	鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事	設計番号	0220801
PA	富沢照秋 横岡 織間正行	一級建築士 登録番号257995号		図面名	共通特配仕様書05(工事区分図01)	編入	A1版 A3版
担当	増田哲男・藤本真二郎	設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 織間正行		図面番号	AAC-A-009		
	須田祥吾						

文庫番号073-23-20230314 共通特配仕様書4(工事区分図)

工事区分図(電気設備工事-空調設備工事)

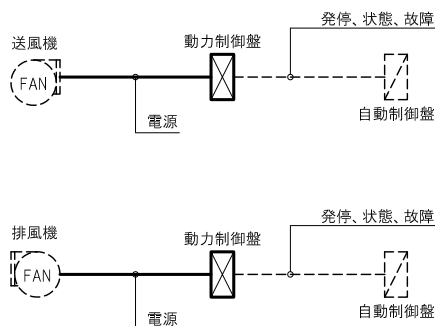


ファン(1) 三相ファン(動力制御盤が同一の場合)



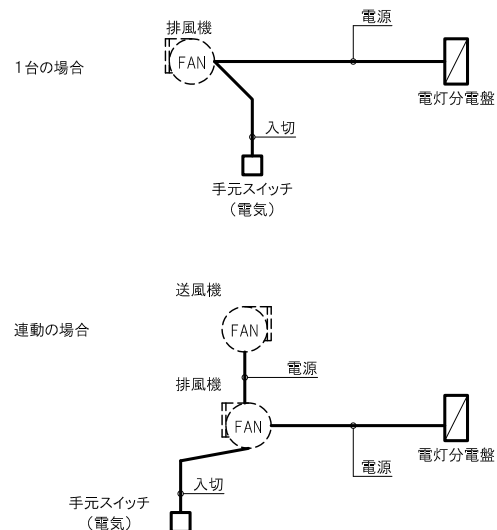
※ 送風機と排風機の連動制御は電気設備工事とする。  
 ※ 原則として連動は排気ファンを起動後、給気ファンを連動するものとする。  
 (換気方式により異なる場合があります)

ファン(2) 三相ファン(動力制御盤が異なる場合)

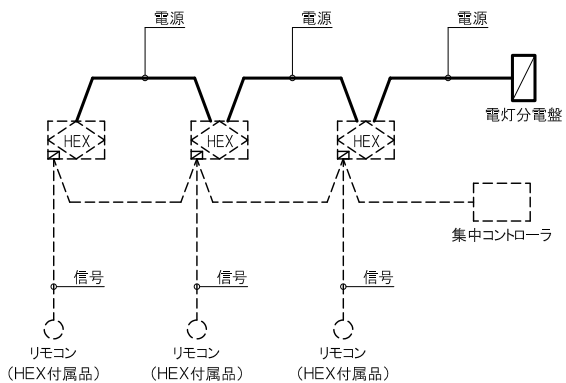


※ 送風機と排風機の連動制御は空調設備工事とする。

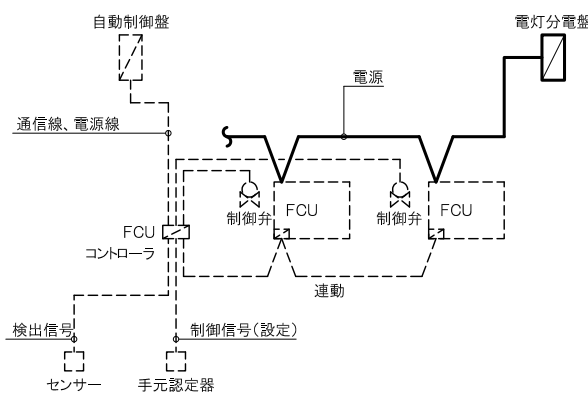
ファン(3) 単相ファン



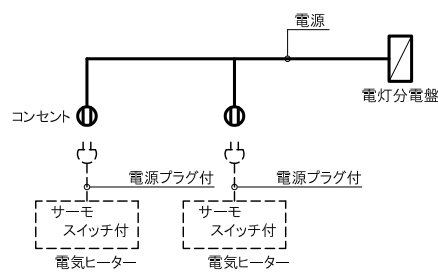
全熱交換機廻り



ファンコイルユニット

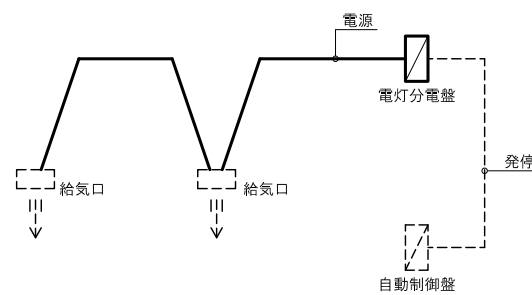


電気ヒータ



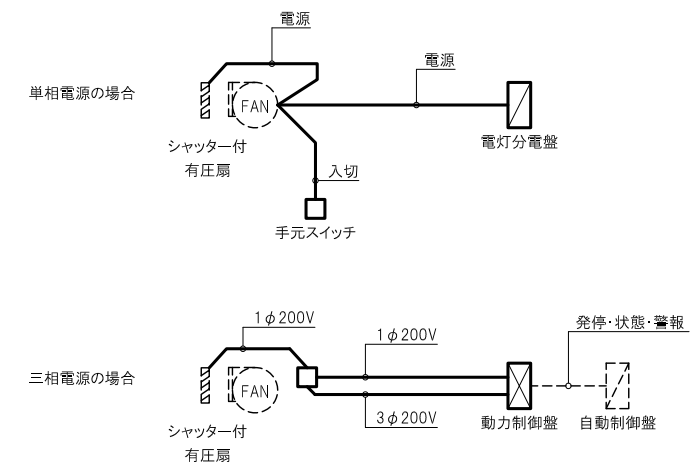
※ コンセント接続を基本とする。  
 ※ スイッチを別設置する場合の配線は空調工事とする。

電気ヒータ付吹出口

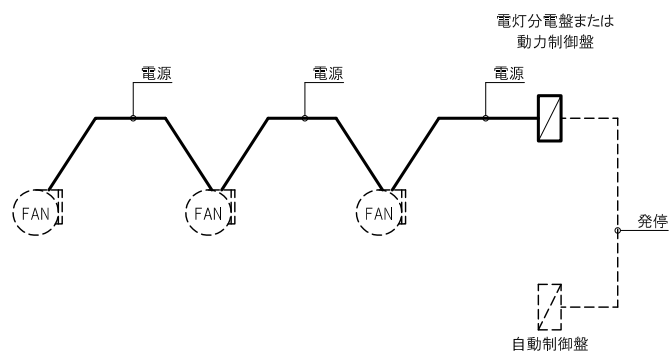


自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工程とする。

シャッター付有圧扇

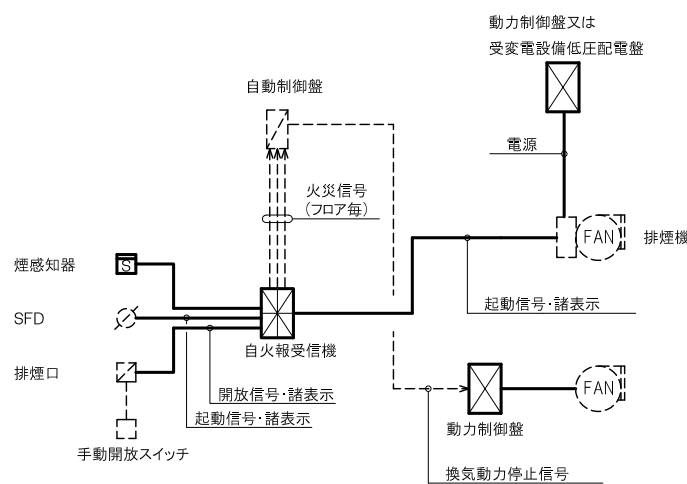


エア搬送ファン



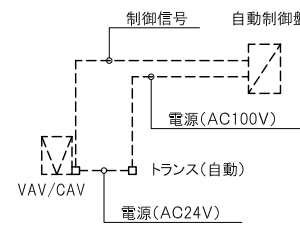
※ 運用により、1台おきなど発停が異なるので確認すること。  
 自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工程とする。

防災システム(SFD・排煙機・排煙口)



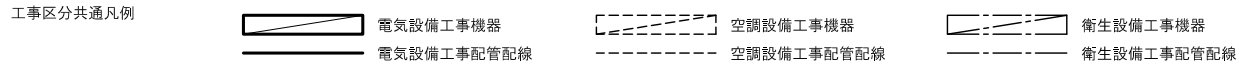
※ 自動制御設備が無い場合の換気動力停止は自火報受信機から動力制御盤へ電気工事で行う。  
 自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工程とする。

変風量装置(VAV)、定風量装置(CAV)

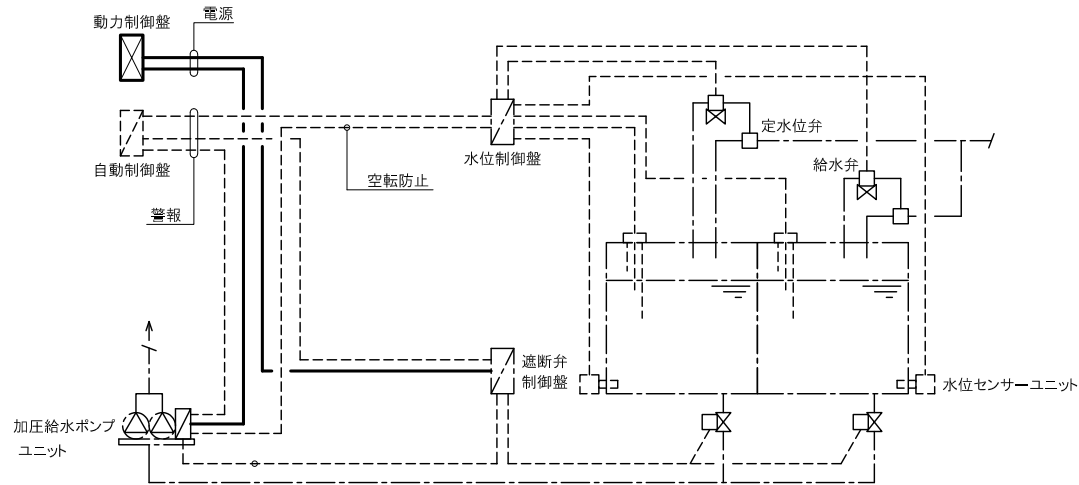


自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工程とする。

文書番号: 073-23-20230314 共通特配仕様書5(工事区分図)	鹿児島市立病院	久米・衛藤中山設計共同企業体	日付: 2024.03 P.A: 富沢照秋 概図 織間正行 担当: 増田哲男・藤本真二郎 須田祥吾	法適合を確認したもの 一級建築士 登録番号257995号 設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 織間正行	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名: 鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事 図面名: 共通特配仕様書06(工事区分図02)	設計番号: 0220801 図面番号: AAC-A-010 編入: A1版 A3版
---------------------------------------	---------	----------------	--	---	------------------------	--	---

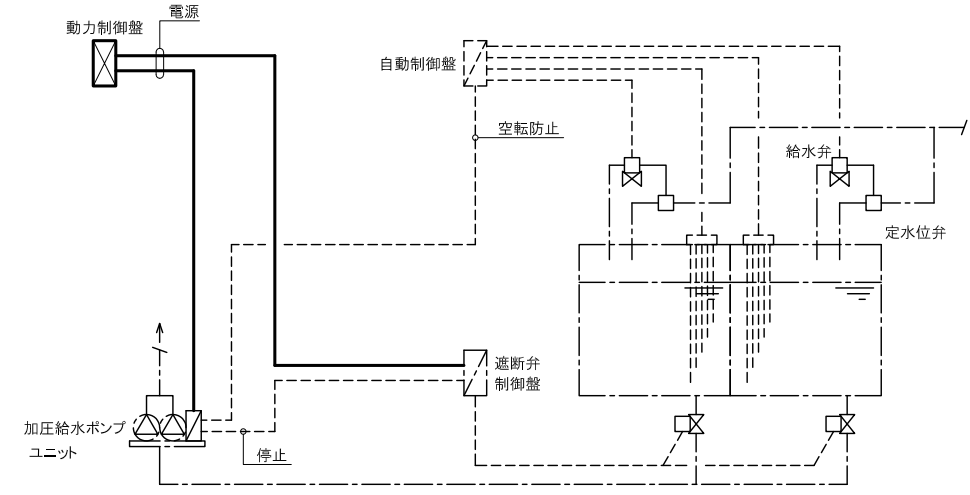


受水槽廻り(加圧給水方式)センサー付き



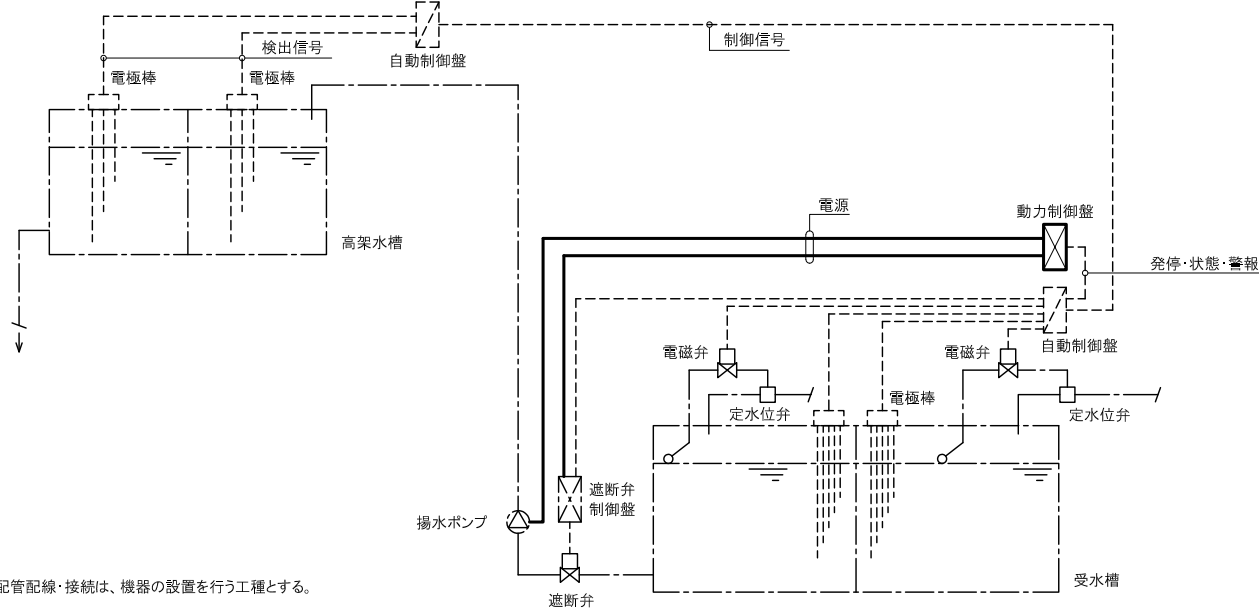
◇自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工種とする。

受水槽廻り(加圧給水方式)電極式



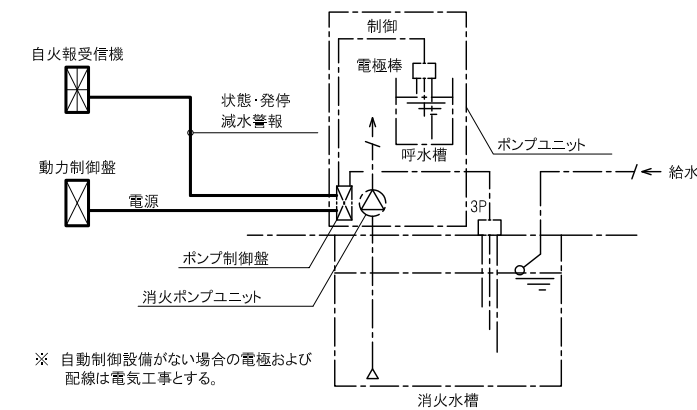
◇自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工種とする。

受水槽廻り(高架水槽方式)



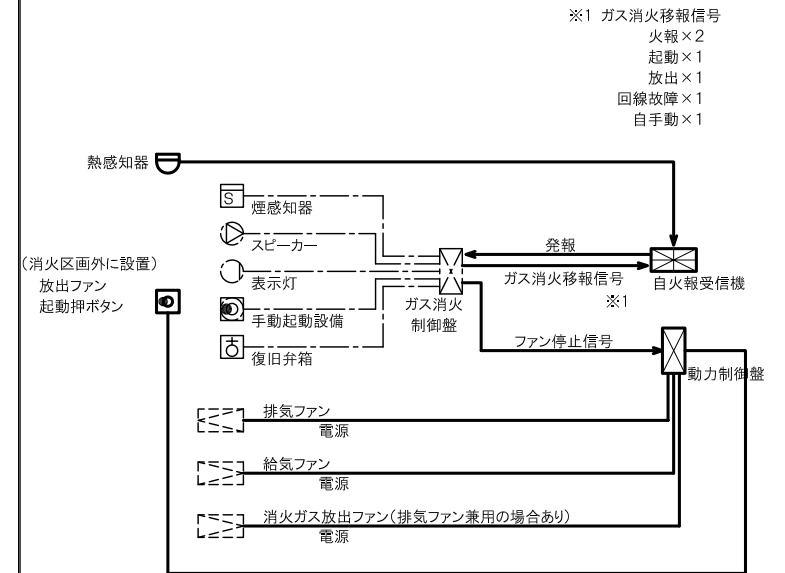
◇自動制御設備の配管配線・接続は、機器の設置を行う工種とする。

泡消火ポンプユニット廻り

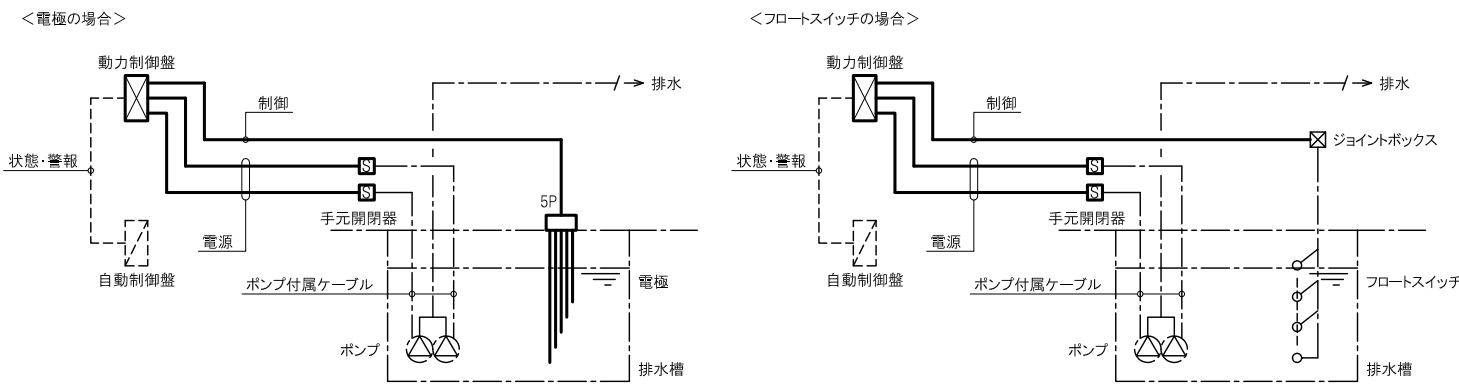


※ 自動制御設備がない場合の電極および配線は電気工事とする。

セキュリティルーム・機械室 ガス消火工事



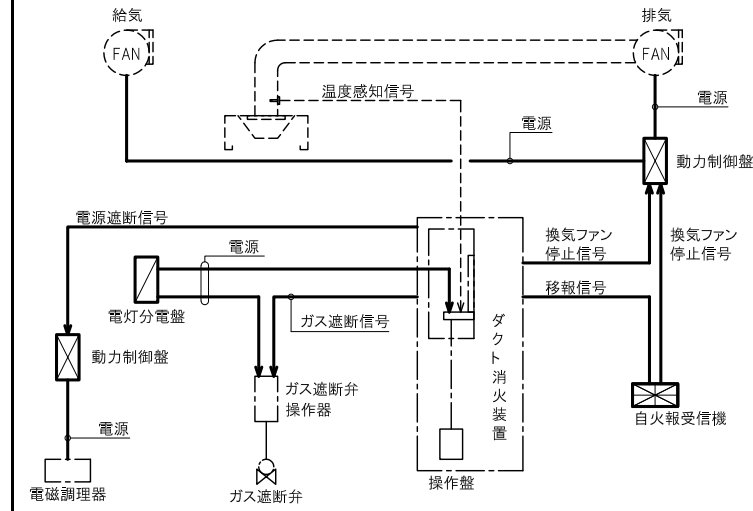
排水ポンプ廻り(湧水槽・雑排水槽)



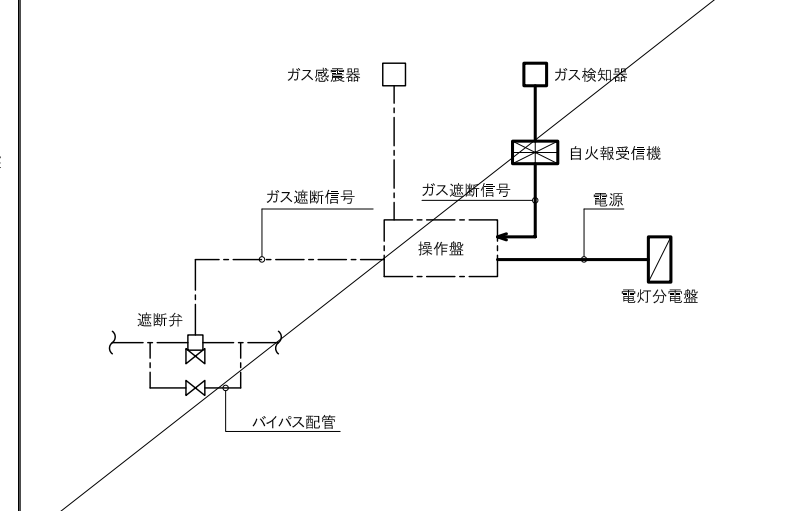
※ 水位については衛生工事より提示する。  
※ 自動制御設備がない場合の警報は電気工事とする。

ポンプ付属ケーブルは衛生設備工事支給とする。

ダクトフード消火



ガス緊急遮断弁



文書番号: 073-23-20230314 共通特配仕様書0(工事区分図)	鹿児島市立病院	久米・衛藤中山設計共同企業体	日付: 2024.03 PA: 富沢照秋 横間正行 担当: 増田哲男・藤木真二郎 須田祥吾	法適合を確認したもの 一級建築士 登録番号257995号 設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 横間正行	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名: 鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事 図面名: 共通特配仕様書07(工事区分図03)	設計番号: 0220801 図面番号: AAC-A-011
---------------------------------------	---------	----------------	--	---	------------------------	--	----------------------------------



<p>第4節 機器及び材料</p> <p>1.4.1 環境への配慮 【読替】</p> <p>● 国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律(グリーン購入法)に定めるところにより、極力環境負荷を低減できる材料を選択し、そのリストを監理者に提出し協議すること。 ● 使用機材は全てゼロアスベスト製品を用いること。</p>	<p>1.7.3 保全に関する資料 【追加】</p> <p>● 受注者は工事竣工後の装置運転責任者に対して、監理者確認のうえ機器取扱い説明及びシステム説明書を作成し説明会を行う。時期は試運転調整時期と同時期とする。</p>	<p>【追加】</p>	<p>&lt;中央熱源&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷温熱源のピーク負荷総合運転</li> <li>空調機、ファンコイル、外気処理空調機等の二次側機器を全台数運転し、ピーク負荷時を想定した熱源運転を行い、システムとして冷却・加熱能力が確保できることを確認する。 (一次・二次・冷却水・熱源水ポンプ等含む)</li> <li>● 冷温熱源の部分負荷総合運転</li> <li>空調機、ファンコイル、外気処理空調機等の二次側機器を順次起動または停止させ、部分負荷時の運転や熱源の増減段階制御について確認する。 (一次・二次・冷却水・熱源水ポンプ等含む)</li> <li>○ 蓄熱システムの総合運転</li> <li>蓄熱システムは、全蓄熱運転、全放熱運転、部分蓄熱および部分放熱の機能試験を行い、蓄熱システムの効率、機能について確認する。</li> <li>● ピーク負荷総合運転時の騒音振動</li> <li>建物内への騒音振動および屋外の騒音を測定し、確認を行う。</li> <li>● 凍結防止</li> <li>空調機の凍結防止運転制御について確認を行う。 水熱源システムは、凍結事故防止のための制御について確認を行う。</li> <li>● 総合運転時のシステムCOP</li> <li>熱源システムの製造熱量および消費エネルギーからシステムCOPを確認する。</li> <li>● 総合運転時のWTF、ATF製造熱量および消費エネルギーからWTF WTF/A TFを確認する。 WTF:Water Transportation Factor(水搬送効率) ATF:Air Transportation Factor(空気搬送効率)</li> </ul> <p>&lt;個別熱源&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 個別熱源の総合運転</li> <li>室内機を全台数運転し、ピーク負荷時を想定した室外機運転を行い、冷却・加熱が確保できることを確認する。(室内機の温度測定による)</li> <li>● 個別熱源の部分負荷総合運転</li> <li>室内機を順次発停し、部分負荷時を想定した室外機運転を行い、冷却・加熱が確保できることを確認する。(室内機の温度測定による)</li> <li>● 冷暖房同時仕様の総合運転</li> <li>ピーク負荷・部分負荷総合運転の他に、室内機の冷暖房運転を混ぜさせ、適切な運転ができていないことを確認する。</li> <li>● 総合運転時の騒音振動</li> <li>建物内への騒音振動および屋外の騒音を測定し、許容値以内を確認を行う。</li> </ul> <p>&lt;空調機(エアハンドリングユニット)&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷水・温水の流量確認</li> <li>冷水温水の流量調整を行い、総合運転時に適性流量となっていることを確認する。(過流量防止)</li> <li>● 風量確認</li> <li>空調機の全台数運転を行い、設計風量(外気・給気・還気・排気)となっているか確認する。特に共用ダクトを利用した場合は注意事項。</li> <li>● 空調機制御</li> <li>空調機の全台数運転を行い、設計条件および自動制御設備に記載の制御内容(温度制御、加温制御、風量制御、外気冷却、CO2制御等)の動作確認を行う。連動する送排風機がある場合は、その動作確認も含む。</li> <li>● 変風量制御</li> <li>室内の設定器を変更し、VAV装置や空調機ファンインバータ制御、ロードリセット制御の動作確認を行う。</li> <li>● 室内陽圧・陰圧制御</li> <li>陽圧陰圧の切替制御は、ダンパーや送排風機等の動作確認を行い、適切に圧力の切り替えが行われていることを確認する。</li> <li>● 送排風機の総合運転</li> <li>送排風機制御でサーモ・ヒューミ発停制御等がある場合は、その動作確認を行う。</li> <li>● 総合運転時の騒音振動</li> <li>建物内への騒音振動を測定し、許容値以内を確認を行う。</li> </ul> <p>&lt;給排水設備&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給水設備</li> <li>緊急遮断弁の動作確認および水槽類の水位制御が適切であるか確認する。 給水栓の同時利用を行い、ピーク時を想定した機能試験を行う。 (加圧給水ポンプの圧力低下等確認)</li> <li>○ 排水設備</li> <li>同一立管における同時排水を行い、機能障害が発生しないことを確認する。</li> <li>○ 給湯設備</li> <li>循環式給湯設備は、シャワーや流し等の同時利用を行い、ピーク時を想定した機能試験を行う。</li> <li>厨房等の多量に給湯を使用する箇所は、給湯栓を同時開放しピーク時を想定した機能試験を行う。</li> <li>○ プール、浴槽設備</li> <li>水張り時間、加熱能力、排水に関する試験を行い、機能上問題ないことを確認する。</li> <li>○ 給排水設備全般</li> <li>給排水最大負荷時における給排水配管からの流水・流下騒音を確認し、室内の騒音性能上、問題がないことを確認する。</li> </ul> <p>&lt;発電機と連動試験&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 停電試験</li> <li>電気設備受注者と協力の上、発電機回路の防災機器と保安機器の動作確認を行う。また、機械設備側で機器類を制御しながら運転を行うことが設計図に記載されている場合は、機能運転試験を行い問題ないことを確認する。またBOPモードを複数パターン設けている場合は、計画しているパターン全て確認を行うこと。</li> <li>○ CGSの総合連動試験用に模擬負荷抵抗試験車 kWを試運転調整期間に用意すること。</li> </ul> <p>&lt;自然エネルギー利用&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 太陽集熱器</li> <li>太陽集熱器の集熱、放熱能力確認を行う。</li> </ul>	<p>【追加】 (4)給水設備の洗浄および水質検査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自治体登録業者又は公的機関による水質検査を行う。 水道水:一般項目(水道法第4条第1項第1・4・5・6号及び残留塩素) 井戸水(上水として利用する場合):全項目+シリカ(水道法第4条第1項第1ー6号及び残留塩素、トリクロロエチレン・トリクロロエタン・テトラクロロエタン) 雑用水(井戸水を含む):pH、臭気、外観、大腸菌、濁度、遊離残留塩素 ただし建設地の地方公共団体の条例等の定めがある場合はその定めによる。</li> <li>○ 自治体登録業者による給水管の高圧洗浄及び水槽の薬品洗浄を行う。(上記の指導をしている自治体に限る)</li> </ul>	
<p>第4章 関連工事</p>					
<p>第1節 仮設工事</p>					
<p>4.1.1 一般事項</p>	<p>(1)監理者事務所 設置:●設ける(建築工事による) ○設ける( ) ○設けない( ) 規模及び仕上げの程度: ○20㎡程度(机2、6人掛けテーブル1、書棚1、他) ○40㎡程度(机4、6人掛けテーブル1、書棚2、他) ○60㎡程度(机6、6人掛けテーブル2、書棚3、他) ○100㎡程度(机10、6人掛けテーブル4、書棚5、他) ○㎡程度( ) 上記のほかトイレを設置する。(○監理者事務所内 ○隣接) 上記のほか更衣室を設置する。(男女別、ロッカー○3人用 ○9人用 ○12人用 ○15人以上) 上記のほか( )人程度が着席可能な会議室を設置。(受注者等と共用で可) 上記に要する費用は、維持、運用費を含め受注者の負担とする。</p> <p>(2)監理者事務所の設備、備品等 (ア)監理者事務所には、照明・電力・給排水衛生・冷暖房等の設備を設け、次の備品を含む。 電話 A3版対応カラー複合機 シュレッダー 机及び脳机 6人掛け打合せテーブル ワークテーブル いす 衣類ロッカー 書棚 見本品棚 図面整理棚 予定表ホワイトボード ホワイボード 流し台 給茶設備 洗面設備 冷蔵庫 ゴミ箱 靴箱 壁掛け時計 温湿度計 消火器 雨かつば 防寒着(濃紺色) キャップ(濃紺色) ヘルメットフォルダー 安全帯 安全靴 ゴム長靴 懐中電灯 検査に必要な器具 工事監理に必要な図書: ●各工事適用基準文書一式 ●監理者用設計図書:●A1判2つ折製本 2部 ●A3判2つ折製本 2部 事務用品一式(人数分): ●筆記用具 ●定規 ●三角スケール ●コンペックス ●蛍光ペン ●ホッチキス ●穴あけパンチ ●ハサミ ●事務用ファイル</p> <p>(イ)監理者事務所には、次のICT環境を備える ●ICT環境設備に要する費用は、機器セット、インストール、維持、運用費を含め 一切受注者の負担とする。 ●光回線等により、常時インターネット接続のできる環境。 ●単独引込とする ○受注者のネットワーク回線と同じ回線とする。 ●Wifi環境(無線LANにてインターネット接続が可能な設備) ●OA情報対応可能PC ●3セット ○4セット ○5セット ○( )セット CPU性能:○Core i3 2.5GHz以上 ●Core i5 2.5GHz以上 RAM容量:○8GB以上 ●16GB以上 ストレージ容量:●SSD 500GB以上 ○( ) ドライブ:●DVD-multi ODVD-スーパーmulti ODVD-ROMコンポ ディスプレイ:●液晶(24インチ以上) OS:●Windows 10 Pro 又は Windows 11 Pro 64bit版 ○( ) アプリケーション(指定バージョン):●ウイルスチェックソフト ●MS Word ●MS Excel ●MS PowerPoint ●Adobe Acrobat ●写真画像管理ソフト ○( )</p> <p>●CAD情報対応可能PC ○1セット ●2セット ○( )セット CPU性能:○Core i5 3.2GHz以上 ●Core i7 3.5GHz以上同等品 RAM容量:○16GB以上 ○32GB以上 ●64GB以上 ストレージ容量:●SSD 1TB以上 ○( ) ドライブ:ODVD-multi ●DVD-スーパーmulti ODVD-ROMコンポ ディスプレイ:○液晶24インチFHD ●液晶31インチWQHD グラフィック性能:●AutoDesk 社公認グラフィックボード搭載 OS:●Windows 10 Pro 又は Windows 11 Pro 64bit版 ○( ) アプリケーション(指定バージョン):●ウイルスチェックソフト ●TV会議ソフト ●MS Word ●MS Excel ●MS PowerPoint ●AutoCAD ●Revit ○Rhinceros ●Adobe Acrobat ●写真画像管理ソフト ○( )</p> <p>●A1版図面プロッター(○モノクロ対応 ●カラー対応) ●A1版図面スキャナー(○モノクロ対応 ●カラー対応) ●液晶プロジェクター(FHD以上) ●映写スクリーン ●液晶TV(65インチ FHD以上、スタンド付き) ●TV会議システム:一式(Webカメラ(FHD以上)、マイクスピーカー) ●タブレット(ipad 10インチ以上防水ケース共) ○2台 ○3台 ○4台 ○( )台</p> <p>(4)工事名称等の表示 1)仮囲いや外部足場外面に、関係法令に定める掲示物のほか、監理者の指示する工事名称・発注者・設計者・監理者等の表示を設ける。その他の看板等の掲示物については大きさ、書体、仕上げ、取付位置等あらかじめ監理者と協議する。掲示すべき表示のうち、「設計者・監理者看板」を支給する。</p>				
<p>1.4.2 機材の品質等 【追加】</p> <p>● 各機器の選定においては、施工図等に基づいた各種計算書の再計算を行い、監理者に提出すること。 ● 空調機風量 ● コイル計算 ● 個別空調機選定計算 ● 換気風量計算 ● 排煙風量計算 ● 制気口計算 ● 配管耐圧:口径計算 ○ 膨脹タンク容量計算 ● ポンプ水量 ● 配管圧力線図</p> <p>● 配管、ダクト施工図等を作成した後、施工図等に基づき、ポンプ、ファン等の静圧、揚程計算、動力確認を行い、監理者に提出すること。 ● 機器メーカー決定後、施工図等に基づき、速やかに騒音計算、振動計算を行い、室内騒音値(NC値)、室内振動レベルの(VL値)の許容値を確認し、監理者に報告すること。 ● 屋外設置機器について、採用機器メーカー決定後すみやかに騒音計算と排熱等のショートサーキットシミュレーションを行い、問題がないことを確認し、監理者に提出すること。 ● 着工後すぐに敷地境界上での暗騒音を測定すること。また、試運転調整時に実運用に基づいた状況での騒音測定を行うこと。測定ポイントについては、監理者との協議により決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ホテル等、VL値45以下目標ならびにNC-25以下の目標の施設は、VL-40以下目標とすること。</li> <li>● 屋外に設置する機器で、耐塩害(耐重塩害)となっている機器の取付や設置に必要な足場等は、同様な耐塩害(耐重塩害)対策を施すこと。</li> <li>○ 加圧給水ポンプは瞬時流量計算を行い、水量、圧力タンク容量について監理者に提出すること。</li> <li>○ 水槽スロッシング及び片側利用時の中仕切強度計算を行い、監理者に提出すること。</li> </ul>	<p>1.7.4 標識その他 【追加】</p> <p>(1)配管ダクト表示 ● 隠れ部、露出部を問わず、配管、ダクト類は、指定方法(原則として10mごと及び床上下1,500mm)に基づき、名称、流れ方向、識別色バンドを取付けること。 天井内は、点検口付近に設置すること。</p> <p>(2)点検口 ● 各点検口の裏面には、点検対象物の識別(設置方向、種類、機器番号、目的など)を表示すること。</p> <p>(3)スリーブ ● 予備スリーブ(梁、床、壁)は、予備とわかるように表示を行うこと。 ● 梁スリーブを天井内排煙に使用している場合は、竣工後配管、ダクトを通路ないように表示を行うこと。</p>	<p>【追加】</p>	<p>2)点検口 ● 各点検口の裏面には、点検対象物の識別(設置方向、種類、機器番号、目的など)を表示すること。</p>	<p>【追加】</p>	
<p>第2編 共通工事</p>					
<p>第1章 一般事項</p>					
<p>第2節 電動機および制御盤</p>					
<p>1.2.1.2 誘導電動機の始動方式 【読替】</p>	<p>● 始動方式は、図示(機器表等)記載とする。 図示されていない場合は、「標準」とする。</p>	<p>【追加】</p>	<p>1.2.2.1 制御及び操作盤 ● 電動機の制御盤は「標準」表2.1.6〜2.1.8によること。 (表中の△の取扱については、監理者と協議のこと)</p>	<p>【追加】</p>	<p>1.2.2.2 インバータ用制御及び操作盤 ● インバータの高調波対策は、換算係数Ki値1.8以下を満たすこと。 ● 選定機器の高調波データを監理者と電気設備受注者へ提出すること。 ● インバータ盤は、バイパス回路(図示による)、MCCB、MGS、手動切替スイッチを設け、正弦波タイプとすること。</p>
<p>第3節 総合試運転調整等</p>					
<p>1.3.1 一般事項 【追加】</p>	<p>● 総合調整に先立ち、総合調整計画書を提出すること。合否判定基準は、監理者との協議による。 ● 夏期および冬期のピーク負荷相当の総合調整運転(騒音を含む)を行うこと。竣工時期等により、これが不可能の場合は、後日実施する旨の念書を発注者と取り交わすこと。</p>	<p>【追加】</p>	<p>1.3.3 総合試運転調整</p> <p>(1)基本測定 ● 総合調整の項目は以下とする。 ● 風量調整 ● 水量調整 ● 温度、湿度の測定 ● 気流、じんあいの測定 ● 室内騒音の測定 ● 屋外騒音の測定 ● 飲料水水質の測定 ● 雑用水水質の測定 ● 屋内振動の測定 ○ 井戸水水質の測定 ○ 浴槽水水質の測定 ○ プール水水質の測定</p> <p>(2)報告書の作成 ● 以下の報告書を作成し提出する。 ● 冷温熱源 :機器能力、水量、騒音振動、電気特性、補機連動 ● 空調機 :能力、出入口温湿度、風量、静圧、電流値、騒音振動、空気清浄度 ● 室内状態 :全室風量測定、全室温湿度測定、騒音測定(指定場所) ● 送排風機 :風量、静圧(全圧)、電流値、騒音振動、回転数 ● ポンプ類 :水量、揚程、電流値、騒音振動 ● タンク及びヘッダー類 :満水、水圧、防錆 ● 自動制御設備:耐電圧及び作動、全制御項目及び測定項目、対向試験 ○ 給排水給湯 :飲料水の水質、雑用水の水質、加温用給水の水質、出水量、排水状態、水圧、騒音振動、漏水の有無 ○ ガス設備 :ガス圧、ガス漏の有無 ○ 消火設備 :ポンプ機能、放出テスト状態、警報作動試験、防災盤との連動 ● クリーンルームの清浄度測定 ● エアバランス表による室内気流測定(陽圧、陰圧の確認) ● 特殊設備は図示による</p> <p>● 機能性能試験 引渡時の制御設定値および制御システムで、機能上問題ないか全数測定と確認することを目的とする。 制御設定値は、 受注者が監理者と協議し、発注者の確認を得ること。 機能性能試験は、施工計画書を作成し、監理者の確認を得ること。また、機能性能試験報告書を作成・提出し、竣工書類にも含めること。</p> <p>&lt;機能性能試験実施時期&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 竣工引渡時</li> <li>● 夏期ピーク月</li> <li>● 冬期ピーク月</li> </ul>	<p>【追加】</p>	
<p>第5節 施工</p>					
<p>1.5.8 化学物質の濃度測定 【追加】</p>	<p>● 測定を行う(建築工事) ○ 測定を行わない ● 測定に当たっては、建築工事受注者と協力し、測定箇所の換気設備、空調機設備の運転を行い、測定結果を監理者に提出すること。 ● 上記の運転に伴う費用は、受注者負担とする。</p>	<p>【追加】</p>	<p>1.5.8 化学物質の濃度測定 【追加】</p>	<p>【追加】</p>	<p>【追加】</p>
<p>第6節 工事検査及び技術検査</p>					
<p>1.6.1 工事検査 【追加】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中水(雑用水)のクロスコネクション防止のため、色水検査を行うこと。</li> <li>● 関係官庁その他の建設、中間、竣工完成に関わる検査は、受注者がその責任において行う。監理者の立会いが必要な場合は連絡すること。</li> </ul>	<p>【追加】</p>	<p>1.6.1 工事検査 【追加】</p>	<p>【追加】</p>	<p>【追加】</p>
<p>第7節 完成図等</p>					
<p>【追加】</p>	<p>(1)竣工後のデータ収集 ● 建物引渡後2年間の使用エネルギーデータをまとめ、指定する書式で提出すること。 ● 本建物の竣工直後から下記期間の間、下記の室内環境やエネルギー消費量の測定、データ収集、整理及び分析、考察(内容については、監理者協議)を行うこと。 &lt;期間&gt; ○ 2年(収集回数は3か月に1度を目安とする) &lt;項目&gt; ○ ベリメータシステムに関する室内温度分布等の環境測定 ● 室内空調システムの性能検証のための室内環境測定(温度、湿度測定) ○ 大空間の空調システム検証のための環境測定 ● 熱源システムの性能検証のためのエネルギー消費量と効率測定(既存熱源監視盤よりデータ確保) ○ 環境負荷低減システムの性能検証に関する測定 ● 建物全体のエネルギー使用量の測定(BEMSより吸い取り) ○ その他( )</p>	<p>【追加】</p>	<p>【追加】</p>	<p>【追加】</p>	<p>【追加】</p>

鹿児島市立病院		久米・衛藤中山設計共同企業体		<p>日付 2024. 03</p> <p>PA 富沢照秋 横岡 織間正行</p> <p>担当 増田哲男・藤木真二郎</p>	<p>法適合を確認したもの</p> <p>一級建築士 登録番号257995号</p> <p>設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号</p>	<p>一級建築士 登録番号 266585号 高橋創</p>	<p>作成</p> <p>鹿児島市立病院増築その他空調調和設備工事</p> <p>図面名 機械設備工事特記仕様書2</p>	<p>設計番号 0220801</p> <p>図面番号 縮尺 A1版 N.S A3版 N.S</p> <p>図面番号 AAC-A-013</p>
---------	--	----------------	--	--	---	-------------------------------	---	--

第2章 配管工事

第1節 配管材料					
a. 配管の耐圧区分					
系統名	区分	階	耐圧		
冷温水	低層階	1～6階	○ 5K	● 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
冷却水	低層階	1～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
熱原水	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
蒸気(往)	低層階	1～6階	○ 5K	● 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
その他	低層階	1～○階	○ 5K	● 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
耐圧					
給水(一般)	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
給湯(揚水)	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
給湯	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
排水( )	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
消火(屋内消火栓)	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
消火(連結送水管)	低層階	1～6階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
その他	低層階	1～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K
	高層階	○階～○階	○ 5K	○ 10K	○ 16K ○ 20K ○ 30K

- 階は床、または減圧弁装置を含む配管を示す。
- 記載外の配管は、図示による。

b. 空調弁の選定  
図示以外のバルブ種別は下記とする。

系統名	種別	50A以下	60A以上
冷温水	開閉用	● 仕切弁 ○ 玉型弁	● 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
	流量調整用	● 玉型弁	○ 玉型弁 ● 流量調整機能付バタフライ弁
冷却水	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
	流量調整用	○ 玉型弁	○ 玉型弁 ○ 流量調整機能付バタフライ弁
熱原水	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
	流量調整用	○ 玉型弁	○ 玉型弁 ○ 流量調整機能付バタフライ弁
蒸気(往)		● 玉型弁	● 玉型弁
蒸気(還)		● 玉型弁	● 玉型弁
その他		○	○

c. 衛生弁の選定  
図示以外のバルブ種別は下記とする。

系統名	種別	50A以下	60A以上
給水	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
給湯	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
排水	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ 玉型弁 ○ バタフライ弁
消火	開閉用	○ 仕切弁 ○ 玉型弁	○ 仕切弁 ○ バタフライ弁
その他		○	○

2.1.2 ~2.1.2.1 配管材料及び継手

【追加】

- 異種金属の接合は絶縁継手を設け腐食対策を行う。
- 一般配管用ステンレス鋼管継手は下記の通りとする。
  - 75Su以上
    - 溶接 ○ ハウジング
    - フランジ ( ● ルーズフランジ ○ 溶接フランジ )
  - 60Su以下
    - 溶接 ○ ハウジング ○ フランジ
    - メカニカル ( ● 拡管継手 )
- 免震装置階内に設置する配管継手はルーズフランジ加工仕様とする。
- 鋼管継手において、80A以下はねじ、100A以上は○溶接●フランジとする。(配管用ステンレス鋼管継手を含む)
- ライニング鋼管の呼び径100以下は、ねじ接合とする。  
圧送継手にMD継手を用いる場合は下記の仕様とする。
- 圧送排水管に鋼管を用いる場合は管脱防止機構付き(鋼球入りパッキン)排水鋼管用可とう継手とする。
- 厨房排水、厨房通気、酸・アルカリ排水にMD継手を鋼管に用いる場合は多層構造ガラスライニングされた管脱防止機構付き(鋼球入りパッキン)排水鋼管用可とう継手とする。
- 可とう・防振・伸縮の仕様(種別)について施工計画書に記載し、監理者に提出のこと。
- 架橋ポリエチレン管およびポリブデン管の接合方法は下記による。
  - メカニカル ○熱融着 ○電気融着 ○プレハブ加工品
- 給湯管に拡管式継手を用いる場合は緩み防止機能付きとする。
- 伸縮継手はスリブ型とする。
- 伸縮継手は低反力型とする。
- 配管のねじ加工は、下記による。
  - 給水 ○切削ねじ ○転造ねじ転造ねじ(SGP-PA, SGP-PB)
  - 消火 ○切削ねじ ○転造ねじ
  - 切削ねじ ○転造ねじ

用途	管材料	弁材質 (50A以下)	弁材質 (60A以上)	備考
冷媒	●保温付き被覆鋼管(保温厚さ 液管10mm ガス管20mm )	---	---	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	---	
	○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	---	---	
	○排水、通気用耐火二層管(VP)	---	---	
ドレン (空調用排水)	●硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	---	---	
	○空調ドレン用結露防止層付硬質ポリ塩化ビニル管	---	---	
	○耐火性硬質ポリ塩化ビニル管	---	---	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	---	---	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	●青銅 ○ダクタイル鉄	●ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
冷水管 (冷温水管を含む)	○架橋ポリエチレン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○ポリブデン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	●青銅 ○ダクタイル鉄	●ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○架橋ポリエチレン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○ポリブデン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅	○ダクタイル鉄	
温水管	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○鋼鉄(鋳鋼)	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○鋼鉄(鋳鋼)	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	●青銅 ○ダクタイル鉄	●ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
膨張管	○膨張用途の管材と同じ	---	---	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
冷却水管	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ダクタイル鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
冷媒放出管	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○鋼鉄(鋳鋼)	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○鋼鉄(鋳鋼)	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
ボイラー補給水	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管)(Sch )	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch )	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅(0.7MPa以下)	●ダクタイル鉄	
蒸気(往)	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管) ( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅(0.7MPa以下)	○ねずみ錆鉄	
	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅(0.7MPa以下)	○ダクタイル鉄	
蒸気(還)	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○ねずみ錆鉄	○鋼鉄(鋳鋼)弁	
	●配管用ステンレス鋼鋼管(Sch10 ) JIS G 3459	●ステンレス	●ステンレス	
地冷蒸気(往)	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅(0.7MPa以下)	○ねずみ錆鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅(0.7MPa以下)	○ねずみ錆鉄	
地冷蒸気(還)	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅(0.7MPa以下)	○ねずみ錆鉄	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○ステンレス	○ステンレス	
地冷冷水地冷温水(往)	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ねずみ錆鉄	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅 ○ダクタイル鉄	○ねずみ錆鉄	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
地冷冷水地冷温水(還)	○高密度ポリエチレン管	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○保温付高密度ポリエチレン管	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○アミド外装耐熱ポリエチレン管	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○保温アラミド外装耐熱ポリエチレン管	○青銅	○ダクタイル鉄	
ブライン(℃)	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)(-10℃以上)	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○ステンレス	
	○低温配管用鋼管(黒管)(-10℃を下回る)	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○ステンレス	
	○配管用炭素鋼鋼管(黒管)	○ねずみ錆鉄 ○ダクタイル鉄	○鋼鉄(鋳鋼)	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448			
グエンチパイプ	○			
	○			

用途	管材料	弁材質 (50A以下)	弁材質 (60A以上)	備考
給水管 (一般)	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VA)	○青銅▼○ダクタイル鉄★	○ダクタイル鉄★	
	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(SGP-VB)	○青銅▼○ダクタイル鉄★	○ダクタイル鉄★	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下) JIS G 3448	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○ステンレス	○ステンレス	
	○水道用硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HVP)	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○架橋ポリエチレン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅(給水用)	---	
	○ポリブデン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅(給水用)	---	
	○ナイロンコーティング鋼管	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○上記(一般)に準じる			
	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD)			
給水 (地中埋設)	○水道用ダクタイル鑄鉄管	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○高耐震性水道用ポリエチレン管	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD)	○青銅▼	○ダクタイル鉄★	
	○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HVP)	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下)	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○			
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	---	---	
	○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	---	---	
	○排水、通気用耐火二層管(VP)	---	---	
	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	---	---	
	○排水用鑄鉄管	---	---	
排水 (屋内および屋外)	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	---	---	
	○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	---	---	
	○排水、通気用耐火二層管(VP)	---	---	
	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	---	---	
排水 (屋外埋設)	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)	---	---	
	○硬質ポリ塩化ビニル管(VU)	---	---	
	○硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD) 100A以上	---	○ダクタイル鉄★	
	○硬質塩化ビニルライニング鋼管(VB) 100A以上	---	○ダクタイル鉄★	
排水 (ポンプアップ)	○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HVP) 80A以下	○青銅	○樹脂製	
	○			
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	---	---	
	○排水、通気用耐火二層管(VR)	---	---	
通気	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	---	---	
	○排水、通気用耐火二層管(VR)	---	---	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)			
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管)( ○ Sch40 ○ Sch80 )	○青銅	○ダクタイル鉄	
消火	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)	○青銅	○ダクタイル鉄	
	○消火図面参照			
	○			
給湯	○鋼管(M)	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○一般配管用ステンレス鋼鋼管(1.0MPa以下)	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○配管用ステンレス鋼鋼管(Sch ) JIS G 3459	○青銅(給水用)	○ステンレス	
	○架橋ポリエチレン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅(給水用)	---	
膨張管	○ポリブデン管 ( ○ 被覆付 ○ 被覆なし )	○青銅(給水用)	---	
	○			
	○膨張用途の管材と同じ	---	---	
	○			
都市ガスLPガス	○都市ガス供給会社規定による。( ** ガス )	○同左	○同左	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	○	○	
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(白管) Sch40	○	○	
	○ポリエチレン管	○	○	
排水 (厨房高温を除く)	○エポキシ系樹脂外面被覆鋼管(PL)	○	○	
	○ポリエチレン外面被覆鋼管(PLP)	○	○	
	○硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(SGP-VS)	○	○	
	○硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		---	
排水 (高温)	○排水、通気用耐火二層管(VP)			
	○配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3459			
	○配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3459			
	○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒管) Sch40			
排水 (透析)	○耐熱性硬質塩化ビニル管(HTVP)			
	○強化ポリプロピレン層管(GRP)			
	○耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管(HTLP)	○樹脂製	○樹脂製	
	○耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管(HTLP)	○樹脂製	○樹脂製	
特殊排水 (感染)	○排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	○	○	
	○排水、通気用耐火二層管(VP)	○	○	
	○配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3459	○	○	
	○			
井戸水(井水原水槽まで)	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VA)	○青銅▼	○ダクタイル鉄★	
	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VB)	○青銅▼	○ダクタイル鉄★	
	○水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管(VD)	○青銅▼	○ダクタイル鉄★	
	○高耐震性水道用ポリエチレン管	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
融雪融雪方式 ( )	○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HVP)	○青銅(給水用)	○ダクタイル鉄★	
	○配管用ステンレス鋼鋼管 JIS G 3459	○青銅 ○ステンレス	○ステンレス	
	○配管用炭素鋼鋼管(白管)	○ねずみ錆鉄	○ねずみ錆鉄	
	○ポリエチレン管	○樹脂製 ○青銅	○樹脂製 ○ステンレス	
その他	○水道用耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HVP)	○樹脂製 ○青銅	○樹脂製	
	○			
表中の ▼印のバルブは、管端防蝕・給水用とする。 ★印のバルブは、ライニングとする。 ダクタイル鉄は、JIS B 2051のMDSとする。				



第2節 配管付属品
<p>2.2.1 一般用弁及び栓 【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 下記の機器に接続される配管は、種別ごとに制御弁装置とは別に手動流量調整弁を設けること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各熱源機 ( ● 冷水 ● 温水 ● 冷水 ● 冷却水 ○ 熱源水 )</li> <li>● 各空調機 ( ● 冷水 ● 温水 ● 冷水 )</li> </ul> </li> <li>● 逆止弁の仕様は下記とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 固形物を含む汚物排水、雑排水、厨房排水のポンプアップ系統に設ける逆止弁はボールチャッキ弁とする。</li> <li>● デュアルプレート式(ウェハー式)逆止弁を採用する場合には、チャタリング防止型の逆止弁を使用する。</li> </ul> </li> <li>● バタフライ弁の仕様は下記とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高所にあって操作が困難な弁はチェーン付とする。</li> <li>● バタフライ弁の弁体(ジスク)はステンレス鋼製とする。</li> <li>● 冷水系統・冷温水系統に使用するバタフライ弁は、ギアボックスの結露防止考慮すること。</li> <li>● 給水系統・給湯系統で使用するバタフライ弁のシートリング材質は食品衛生試験適合品とする。</li> </ul> </li> <li>● 空調の排水トラップは、フロートボール式とする。(スイングトラップは使用しない)</li> <li>● 空気抜き弁は図示無くても必要な場合は設置する。</li> <li>● ストレーナの仕様は下記とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● Y形ストレーナ( ● 水抜きバルブを設置 ○ )</li> <li>○ U形ストレーナ( ○ 冷却水 ○ )</li> <li>○ 複式ストレーナ( ○ 油用 ○ )</li> </ul> </li> </ul> <p>○ ブライン濃度計を備品引渡項目に追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷水・冷温水・給水・井水等結露のおそれがあるバルブはロングネック仕様とするか、結露防止機能付バルブとする。</li> <li>● 蒸気用バルブは急激な開閉操作ができない「ギア付」のものを使用する。</li> <li>● ゴムシートの材質は冷水・冷温水・給水・消火用はEPDM、給湯用はフッ素ゴム、油用・ブライン用はNBRとする。なお、直結給水系統など残留塩素濃度が高い系統は耐塩素性を強化すること。</li> </ul> <p>○ 減圧弁の仕様は下記とする。</p> <p>また、同一給水縦管に2台以上の減圧弁を設置する場合は、上流側直近に水撃防止機を設置する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給水縦管に減圧弁を取り付ける場合には2台同時並列使用方式とし、2台の減圧弁の定格流量は下記とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定格流量 100%×2台</li> <li>○ 定格流量 50%×2台</li> </ul> </li> <li>○ 減圧弁故障時に中央監視で確認できるように圧力計外部発信機能付を設ける。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <p>水撃防止器</p> <p>圧力計 外部発信機能付</p> <p>ストレーナ(U型)×2、圧力計(目視用)×4、減圧弁×2、圧力計(監視用)×1</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 蒸気用減圧弁は最大流速30m/s以下で選定する。また減圧弁以降は配管口径を1サイズアップ以上とする。</li> <li>● ビル用マルチエアコンの冷暖房切替ユニットは、廊下天井内に設置する。</li> <li>○ フォート弁は全て陸上型とする。( ○ 消火を除く ○ 消火を含む )</li> </ul>

第3節 計器その他
<p>2.3.1 圧力計、達成計及び水高計 【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設置位置は、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による。</li> <li>○ 図示による。</li> </ul>
<p>2.3.2 温度計 【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 温度計は円形指示計(バイメタル式100φ)とする。</li> <li>● 設置位置は公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による他下記による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷水、温水ヘッダー( ● 各送り管 ● 各戻り管 ● 混合ポイント )</li> <li>● 空気調和機 ( ● AHU ○ PAC ) のサプライチャンバー、レタンチャンパー、外気取入れダクト及びチャンパー(天井吊などの小型のものは除く)。</li> </ul> </li> </ul>
<p>2.3.4 油面計 【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 制御盤は下記の仕様とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 給油ポンプ制御 ○ 返油ポンプ制御 ○ 電磁弁制御</li> <li>○ 油量計 ○ 満油警報付 ○ 減油警報付</li> <li>○ 遠隔警報付 ○ 図示による</li> </ul> </li> <li>○ フロートスイッチ部と制御盤間の配管、配線は製造者標準仕様とする。</li> </ul>
<p>2.3.8 瞬間流量計 【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 設置位置は、公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)による他下記による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 冷水水ヘッダー ● 各送り管 ● 各戻り管</li> <li>● 固定式は止水コック付とする。</li> <li>● 下記の瞬間流量計は着脱式を用いても良い。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 冷凍機、チリングユニットの冷水管、冷却水管</li> <li>○ 吸引式冷温水機の冷水管、冷却水管</li> <li>○ 温水ヒーターの温水管</li> </ul> </li> <li>● 空気調和機の冷水管</li> </ul> </li> </ul>

第4節 配管施工の一般事項																									
<p>2.4.1 一般事項</p> <p>【追加】</p> <p>(1)建物導入部の変位吸収方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準図(建物導入部の変位吸収配管要領(一)および(二))による。</li> <li>○ 図示による。</li> <li>● 建物の引き込み部には、フレキの点検柵を設置すること。</li> </ul> <p>(2)エキスパンションジョイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 標準図(エキスパンションジョイント部配管要領)による。</li> <li>○ 図示による。</li> <li>○ 変位量( mm )</li> </ul>																									
<p>第5節 管の接合</p> <p>2.5.10 ポリエチレン管</p> <p>【追加】</p> <p>(1)建物導入部において異種管を接合する場合は、点検用柵を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ TC-1(450 X 450)</li> <li>○ TC-2(800 X 600)</li> </ul>																									
<p>2.5.15.12 溶接部の検査</p> <p>【追加】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">溶接部の種類</th> <th rowspan="2">検査の種類</th> <th colspan="2">蒸気配管</th> <th rowspan="2">冷却水、冷温水消火(水用)及び油管</th> </tr> <tr> <th>1.0MPa未満</th> <th>1.0MPa以上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">突合わせ溶接部</td> <td>●放射線透過検査</td> <td>● 5%</td> <td>● 10%</td> <td>● 5%</td> </tr> <tr> <td>○ 浸透探傷検査</td> <td>○ %</td> <td>○ %</td> <td>○ %</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">すみ肉溶接部</td> <td>○ 磁粉探傷検査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 磁粉探傷検査</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	溶接部の種類	検査の種類	蒸気配管		冷却水、冷温水消火(水用)及び油管	1.0MPa未満	1.0MPa以上	突合わせ溶接部	●放射線透過検査	● 5%	● 10%	● 5%	○ 浸透探傷検査	○ %	○ %	○ %	すみ肉溶接部	○ 磁粉探傷検査				○ 磁粉探傷検査			
溶接部の種類			検査の種類	蒸気配管		冷却水、冷温水消火(水用)及び油管																			
	1.0MPa未満	1.0MPa以上																							
突合わせ溶接部	●放射線透過検査	● 5%	● 10%	● 5%																					
	○ 浸透探傷検査	○ %	○ %	○ %																					
すみ肉溶接部	○ 磁粉探傷検査																								
	○ 磁粉探傷検査																								
<p>第6節 勾配、吊り支持</p> <p>2.6.1 一般事項</p> <p>【追加】</p> <p>(1)配管・ダクトの防振支持( ● 配管 ● ダクト )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配管の防振支持材は原則としてゴム製とする。</li> <li>● スプリング製とする場合は、以下の室を対象とし、その他図示による。( ○ 中間機械室 ○ 熱源機械室 ● 空調機械室 )</li> </ul> <p>(2)空調配管・ダクトの防振支持:防振支持範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>( ○ 冷却水管 ● 冷温水管 ● 蒸気管 ● ダクト )</li> <li>○ 全体 ● 機械室内 ○ シャフト内 ○ 屋上</li> <li>● 天井内主配管経路 ● NC35以下の居室天井内 ○ 図示による</li> </ul> <p>(3)衛生配管の防振支持 : 防振支持範囲(給水管、給湯管等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全体 ○ 機械室内 ○ シャフト内 ○ 屋上 ○ ポンプアップ排水</li> <li>○ 天井内主配管経路 ○ NC35以下の居室天井内 ○ 図示による</li> </ul> <p>(4)二重ピット内の吊材</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 鋼管を吊る場合は、配管の支持部分に防食テープ巻きを行うこと。</li> <li>● SUS製吊り材を使用する。</li> </ul> <p>(5)配管端部支持</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配管の端部に振れ止め支持を取ること。</li> </ul> <p>(6)屋上、屋外、免震層、ピット、多温筒所の支持材(インサート金具含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● SUSまたは溶融亜鉛めっき仕上げの鋼材とする。</li> </ul> <p>(7)アンカーボルト類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 屋内外ともSUS304製とし、ダブルナットかつ3山残しとする。</li> </ul> <p>(8)支持材の材質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高温水、蒸気配管の吊金物にPVCは使用不可とする。</li> </ul>																									
<p>第7節 地中配管</p> <p>2.7.1 一般事項</p> <p>【追加】</p> <p>(1) 地中埋設機</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 要(配管の分岐部、曲がり部)</li> <li>埋設表示テープ</li> <li>○ 要(排水管を除く)</li> </ul> <p>(2)地中配管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 土中埋設する鋼管類(給排水管)が地中壁を貫通する場合には、スリーブ管と管の隙間に電気的絶縁性のあるシーリング材によるシーリングを行うこと。</li> <li>○ 地中配管は、外面を樹脂ライニングするものをのそいてペトロラム系防食テープハーフラップ2回巻きとすること。建物の引き込み部には、フレキの点検柵を設置すること。</li> </ul> <p>(3)腐食調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 土中埋設の腐食調査(地表面電位勾配、土壌抵抗測定、土壌pH測定など)及び湧水水質測定を行い監理者に報告書を提出すること。</li> </ul>																									
<p>第8節 貫通部の処理</p> <p>2.8.1 一般事項</p> <p>【追加】</p> <p>(1)配管材、設備部材の防火区画貫通処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 受注者は、下記に基づいた施工計画書を作成し監理者に提出すること。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 国土交通省大臣認定工法</li> <li>● (財)日本建築センター防災性能評定委員会認定済工法</li> <li>● 建築設備設計・施工上の指導指針(国土交通省住宅局建築指導課監修)</li> <li>○ 東京都建築設備行政に関する設計・施工上の指導指針(東京都の場合)</li> <li>○ 避難安全検証法による貫通部分処理の免除規定</li> <li>○ 東京都安全条例8条区画を貫通し吹出口が区画を共有する場合はSFDとする。</li> </ul> </li> </ul>																									
<p>第3章 保温、塗装及び防錆工事</p> <p>第1節 保温工事</p> <p>3.1.1 一般事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)を適用する。</li> <li>○ ( )を適用する。</li> </ul>																									

3.1.4 空調調和設備工事の保温																																																																																																										
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 下記の表を適用する。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>保温材</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷水管</td> <td>● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム ○ 独立気泡断熱材</td> </tr> <tr> <td>温水管</td> <td>● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム</td> </tr> <tr> <td>冷温水管</td> <td>● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム</td> </tr> <tr> <td>ドレン(空調排水管)</td> <td>○ グラスウール ○ ロックウール ● ポリスチレンフォーム</td> </tr> <tr> <td>蒸気管</td> <td>● グラスウール ○ ロックウール</td> </tr> <tr> <td>ブライン配管(水蓄熱用等冷水)</td> <td>○ ポリスチレンフォーム ○ 発泡ポリエステル</td> </tr> <tr> <td>一般ダクト(長方形)</td> <td>● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様</td> </tr> <tr> <td>外気ダクト(長方形)</td> <td>● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材</td> </tr> <tr> <td>排煙ダクト(長方形)</td> <td>● ロックウール</td> </tr> <tr> <td>一般ダクト(スパイラル)</td> <td>● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様</td> </tr> <tr> <td>外気ダクト(スパイラル)</td> <td>● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材</td> </tr> <tr> <td>排煙ダクト(スパイラル)</td> <td>● ロックウール</td> </tr> </tbody> </table> <p>冷却水・熱源水配管の保温</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>該当機器番号</th> <th>保温仕様</th> <th>保温範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ターボ冷凍機</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>吸収式冷凍機</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>冷温水発生機</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>水冷チラー</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>CGS</td> <td></td> <td>○ 蒸気 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>水熱源(熱源水)</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>井水利用</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>地中熱利用HP</td> <td></td> <td>○ ○ ○ ○ ○ ○</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>配管外装材</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋内露出</td> <td>● 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)</td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫</td> <td>● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+合成樹脂被覆亀甲金網</td> </tr> <tr> <td>天井内、PS内、空隙壁中</td> <td>● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網</td> </tr> <tr> <td>暗渠内(ピット内を含む)</td> <td>● 着色アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所</td> <td>● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板</td> </tr> <tr> <td>製缶類</td> <td>○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板</td> </tr> <tr> <td>煙道</td> <td>● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板</td> </tr> </tbody> </table> <p>冷媒管外装材</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋内露出</td> <td>● 合成樹脂製カバー ○ ビニルテープ(部位は図示による)</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所</td> <td>○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ● 保温化粧ケース(材質 ) ○ 高耐食性溶融めっき鋼板</td> </tr> </tbody> </table> <p>空調排水トラップには保温を行う。保温仕様は空調排水管保温と同様とする。</p> <p>● 管等の保温範囲は標仕の他、以下の通りとする。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>範 囲</th> <th>配 管</th> <th>フ ラ ン ジ</th> <th>弁 類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温 水</td> <td>放熱器廻り温水管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>蒸 気</td> <td>蒸気(往) 蒸気(還) やけどの恐れのある機械室露出、PS内の床下2mの範囲 蒸気(還) ● 屋内露出 ○ 駐車場内 放熱器廻り蒸気配管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>共 通</td> <td>ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等 各種タンク類のオーバーフロー管およびドレン管(冷水及び冷温水タンクの第一バルブまで除く) エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管 屋外露出油配管</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> </tbody> </table>	保温材	材 質	設置場所		冷水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム ○ 独立気泡断熱材	温水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム	冷温水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム	ドレン(空調排水管)	○ グラスウール ○ ロックウール ● ポリスチレンフォーム	蒸気管	● グラスウール ○ ロックウール	ブライン配管(水蓄熱用等冷水)	○ ポリスチレンフォーム ○ 発泡ポリエステル	一般ダクト(長方形)	● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様	外気ダクト(長方形)	● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材	排煙ダクト(長方形)	● ロックウール	一般ダクト(スパイラル)	● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様	外気ダクト(スパイラル)	● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材	排煙ダクト(スパイラル)	● ロックウール	用 途	該当機器番号	保温仕様	保温範囲	ターボ冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	吸収式冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	冷温水発生機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	水冷チラー		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	CGS		○ 蒸気 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	水熱源(熱源水)		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	井水利用		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	地中熱利用HP		○ ○ ○ ○ ○ ○		用 途	材 質	屋内露出	● 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)	機械室、書庫、倉庫	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+合成樹脂被覆亀甲金網	天井内、PS内、空隙壁中	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網	暗渠内(ピット内を含む)	● 着色アルミガラスクロス	屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板	製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板	煙道	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板	用 途	材 質	屋内露出	● 合成樹脂製カバー ○ ビニルテープ(部位は図示による)	屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ● 保温化粧ケース(材質 ) ○ 高耐食性溶融めっき鋼板	種 別	範 囲	配 管	フ ラ ン ジ	弁 類	温 水	放熱器廻り温水管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●	蒸 気	蒸気(往) 蒸気(還) やけどの恐れのある機械室露出、PS内の床下2mの範囲 蒸気(還) ● 屋内露出 ○ 駐車場内 放熱器廻り蒸気配管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●	共 通	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等 各種タンク類のオーバーフロー管およびドレン管(冷水及び冷温水タンクの第一バルブまで除く) エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管 屋外露出油配管	●	●	●
保温材	材 質																																																																																																									
設置場所																																																																																																										
冷水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム ○ 独立気泡断熱材																																																																																																									
温水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム																																																																																																									
冷温水管	● グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム																																																																																																									
ドレン(空調排水管)	○ グラスウール ○ ロックウール ● ポリスチレンフォーム																																																																																																									
蒸気管	● グラスウール ○ ロックウール																																																																																																									
ブライン配管(水蓄熱用等冷水)	○ ポリスチレンフォーム ○ 発泡ポリエステル																																																																																																									
一般ダクト(長方形)	● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様																																																																																																									
外気ダクト(長方形)	● グラスウール( ● 40K以上 ○ 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材																																																																																																									
排煙ダクト(長方形)	● ロックウール																																																																																																									
一般ダクト(スパイラル)	● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ○ ロックウール ○ 冷水仕様																																																																																																									
外気ダクト(スパイラル)	● グラスウール( ○ 40K以上 ● 32K ○ 24K ) ● 冷水仕様 ● 独立気泡断熱材																																																																																																									
排煙ダクト(スパイラル)	● ロックウール																																																																																																									
用 途	該当機器番号	保温仕様	保温範囲																																																																																																							
ターボ冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
吸収式冷凍機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
冷温水発生機		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
水冷チラー		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
CGS		○ 蒸気 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
水熱源(熱源水)		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
井水利用		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
地中熱利用HP		○ ○ ○ ○ ○ ○																																																																																																								
用 途	材 質																																																																																																									
屋内露出	● 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)																																																																																																									
機械室、書庫、倉庫	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+合成樹脂被覆亀甲金網																																																																																																									
天井内、PS内、空隙壁中	● アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網																																																																																																									
暗渠内(ピット内を含む)	● 着色アルミガラスクロス																																																																																																									
屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板																																																																																																									
製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板																																																																																																									
煙道	● ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板																																																																																																									
用 途	材 質																																																																																																									
屋内露出	● 合成樹脂製カバー ○ ビニルテープ(部位は図示による)																																																																																																									
屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板 ● 保温化粧ケース(材質 ) ○ 高耐食性溶融めっき鋼板																																																																																																									
種 別	範 囲	配 管	フ ラ ン ジ	弁 類																																																																																																						
温 水	放熱器廻り温水管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●																																																																																																						
蒸 気	蒸気(往) 蒸気(還) やけどの恐れのある機械室露出、PS内の床下2mの範囲 蒸気(還) ● 屋内露出 ○ 駐車場内 放熱器廻り蒸気配管 屋内および暗渠内の各種装置廻り配管 屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	●	●	●																																																																																																						
共 通	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等 各種タンク類のオーバーフロー管およびドレン管(冷水及び冷温水タンクの第一バルブまで除く) エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管 屋外露出油配管	●	●	●																																																																																																						
<p>3.1.5 給排水衛生設備工事の保温</p> <p>【読替】</p> <p>● 下記の表を適用する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>保温材</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設置場所</td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水管</td> <td>○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム</td> </tr> <tr> <td>給湯管</td> <td>○ グラスウール ○ ロックウール ○</td> </tr> <tr> <td>排水管・通気管</td> <td>○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム</td> </tr> <tr> <td>高温排水管</td> <td>○ グラスウール ○ ロックウール ○</td> </tr> </tbody> </table> <p>配管保温外装材</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>材 質</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋内露出</td> <td>○ 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)</td> </tr> <tr> <td>機械室、書庫、倉庫</td> <td>○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網</td> </tr> <tr> <td>天井内、PS内、空隙壁中</td> <td>○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網</td> </tr> <tr> <td>暗渠内(ピット内を含む)</td> <td>○ 着色アルミガラスクロス</td> </tr> <tr> <td>屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所</td> <td>○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板</td> </tr> <tr> <td>製缶類</td> <td>○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板</td> </tr> <tr> <td>煙道</td> <td>○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板</td> </tr> </tbody> </table> <p>● 消火配管の保温は、屋外露出部分、ピロティ天井内、駐車場とし、範囲は消火図面参照とする。 保温仕様は給水管保温と同様とする。</p> <p>● 管等の保温範囲は標仕の他、以下の通りとする。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>範 囲</th> <th>配 管</th> <th>フ ラ ン ジ</th> <th>弁 類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給 水</td> <td>ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>給 湯</td> <td>屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>排 水</td> <td>暗渠内配管 通気管全て 通気管で屋外開口部から2mの範囲</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>消 火</td> <td>屋内露出消火管 駐車場消火管 屋外露出消火管</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>共 通</td> <td>エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table> <p>弁類の保温仕様は下記とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 配管と同等として着脱可能なもの とすること。</li> </ul>	保温材	材 質	設置場所		給水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム	給湯管	○ グラスウール ○ ロックウール ○	排水管・通気管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム	高温排水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○	用 途	材 質	屋内露出	○ 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)	機械室、書庫、倉庫	○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網	天井内、PS内、空隙壁中	○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網	暗渠内(ピット内を含む)	○ 着色アルミガラスクロス	屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板	製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板	煙道	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板	種 別	範 囲	配 管	フ ラ ン ジ	弁 類	給 水	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	—	給 湯	屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	○	排 水	暗渠内配管 通気管全て 通気管で屋外開口部から2mの範囲	○	○	○	消 火	屋内露出消火管 駐車場消火管 屋外露出消火管	○	○	○	共 通	エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管	○	○	○																																																
保温材	材 質																																																																																																									
設置場所																																																																																																										
給水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム																																																																																																									
給湯管	○ グラスウール ○ ロックウール ○																																																																																																									
排水管・通気管	○ グラスウール ○ ロックウール ○ ポリスチレンフォーム																																																																																																									
高温排水管	○ グラスウール ○ ロックウール ○																																																																																																									
用 途	材 質																																																																																																									
屋内露出	○ 合成樹脂製カバー ○ カラー鉄板(部位は図示による)																																																																																																									
機械室、書庫、倉庫	○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網																																																																																																									
天井内、PS内、空隙壁中	○ アルミガラスクロス ○ アルミ箔+亀甲金網																																																																																																									
暗渠内(ピット内を含む)	○ 着色アルミガラスクロス																																																																																																									
屋外露出、浴室、厨房等の多温箇所	○ アルミニウム板 ○ 高耐食性溶融めっき鋼板																																																																																																									
製缶類	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板																																																																																																									
煙道	○ ステンレス ○ カラー亜鉛鉄板 ○ ガルバニウム鋼板 ○ アルミニウム板																																																																																																									
種 別	範 囲	配 管	フ ラ ン ジ	弁 類																																																																																																						
給 水	ポンプ廻りの防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	—																																																																																																						
給 湯	屋内および暗渠内の伸縮継手、防振継手、フレキシブルジョイント等	○	○	○																																																																																																						
排 水	暗渠内配管 通気管全て 通気管で屋外開口部から2mの範囲	○	○	○																																																																																																						
消 火	屋内露出消火管 駐車場消火管 屋外露出消火管	○	○	○																																																																																																						
共 通	エア抜き弁以降の配管および排泥弁以降の配管	○	○	○																																																																																																						
<p>その他</p> <p>【追加】</p> <p>(1)免震層内の保温・外装仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 下記の仕様とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 天井内、PS・DS内空隙壁中</li> <li>○ 暗渠内(ピット内を含む)</li> <li>○ 屋外露出仕様( 雨がかり部ほか図示による )</li> </ul> </li> </ul> <p>(2)共同溝内の保温・外装仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下記の仕様とする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 天井内、PS・DS内空隙壁中</li> <li>○ 暗渠内(ピット内を含む)</li> <li>○ 屋外露出仕様( 雨がかり部ほか図示による )</li> </ul> </li> </ul> <p>(3)機器の保温</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 下記の表とする。</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>用 途</th> <th>該当機器番号</th> <th>保温仕様</th> <th>保温範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷水ポンプ</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>温水ポンプ</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>冷温水ポンプ</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>冷却水ポンプ</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>高温水ポンプ</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>送風機</td> <td></td> <td>○ 一般ダクト</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>プレート熱交換器</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>シェルアンドチューブ</td> <td></td> <td>○ 蒸気 ○ 温水 ○</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>密閉型膨張タンク</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>開放型膨張タンク</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> <tr> <td>その他( )</td> <td></td> <td>○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水</td> <td>○ 屋内 ○ 屋外</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ プレート熱交換器の保温は、ジャケットタイプとする。</p> <p>(4)配管保温端部処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 配管保温端部のシールを行い、結露水の進入を防ぐこと。</li> </ul> <p>(5)管等の凍結防止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 凍結の恐れのある給水管・給湯管・排水管・消火管・冷却水管・ドレン管・冷温水管については下記の対応を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 電気温床線巻</li> <li>● 防凍保温(仕様 ポリスチレンフォーム )</li> <li>○ 不凍液 ( ○ 不凍液 ○ 空調機コイル廻り )</li> </ul> </li> </ul>	用 途	該当機器番号	保温仕様	保温範囲	冷水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	冷温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	冷却水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外	高温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	送風機		○ 一般ダクト	○ 屋内 ○ 屋外	プレート熱交換器		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	シェルアンドチューブ		○ 蒸気 ○ 温水 ○	○ 屋内 ○ 屋外	密閉型膨張タンク		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	開放型膨張タンク		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外	その他( )		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																										
用 途	該当機器番号	保温仕様	保温範囲																																																																																																							
冷水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
冷温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
冷却水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
高温水ポンプ		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
送風機		○ 一般ダクト	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
プレート熱交換器		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
シェルアンドチューブ		○ 蒸気 ○ 温水 ○	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
密閉型膨張タンク		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
開放型膨張タンク		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							
その他( )		○ 冷水 ○ 給水 ○ 温水	○ 屋内 ○ 屋外																																																																																																							

	鹿 児 島 市 立 病 院	久 米 ・ 衛 藤 中 山 設 計 共 同 企 業 体	
日付	2024. 03	法適合を確認したもの	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創
PA	富沢照秋 横岡 織間正行	一級建築士 登録番号257995号	件名
担当	増田哲男・藤木真二郎	設備設計一級建築士 建築士監交付番号 第2380号 織間正行	鹿児島市立病院増築その他空調調和設備工事
	須田祥吾		図面名
			機 械 設 備 工 事 特 記 仕 様 書 4
			図面番号
			A1 版 N.S A3 版 N.S
			設計番号
			0220801
			図面番号
			AAc-A-015

その他	(6)ファンコイルの配管接続部の保温 ● 保温材は内部結露なきよう、隙間なく施工を行う。 ● 保温材は吸湿性の材料を使用しない。 ● 水切り板はファンコイル本体から距離を取り、ドレンパンの範囲内に設置する。 ● 上記の施工方法を施工要領書に記載し、監理者に提出する。 ● 自主検査にて結露による漏水がないことを確認する。冬期等竣工時に結露の確認ができない場合には、竣工後の冷房開始前に確認検査を行う。																																																																	
【追加】	(7)ダクト等の保温 ● ダクト及び附属品の保温範囲は標仕の他、以下の通りとする。																																																																	
	<table border="1"><thead><tr><th>範囲</th><th>外気取入ダクト</th><th>給気ダクト</th><th>還気ダクト</th><th>排気ダクト</th></tr></thead><tbody><tr><td>電気室等常時換気を行わない室のダクト</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td><td>●</td></tr><tr><td>外壁開口部から機器までの範囲のダクト</td><td>●</td><td>—</td><td>—</td><td>○</td></tr><tr><td>外壁開口部から2mの範囲のダクト</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>●</td></tr><tr><td>空調室を通過する範囲のダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>非空調室を通過する範囲のダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td></tr><tr><td>多温箇所を通過する範囲のダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>全熱交換器に接続するダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>駐車場露出ダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td></tr><tr><td>機械室(電気室を除く)露出ダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>○</td></tr><tr><td>NC30以下の天井内を通過するダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td><td>●</td></tr><tr><td>屋外ダクト</td><td>○</td><td>●</td><td>●</td><td>○</td></tr><tr><td>デシカント空調機のダクト</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td><td>●</td></tr></tbody></table> ※外調機の給気ダクトは、上記給気ダクトに準ずる。  ○ FF式瞬間湯沸器の排気管は結露防止のためロックワール25mm巻きとする。 ● 厨房排気ダクト・湯沸室の排気ダクトの保温はロックワールの保温材(保温の厚さ50mm)とする。 ● 多温箇所の保温範囲は次の通りとする。 ● 浴室 ● 厨房 ● シャワールーム ○ プール ○ 暗菜内(ピット内を含む) ○ 免震層 ○ 共同溝 ○ その他( ) ● 電気室・サーバー室内等(天井内を含む)の不活性ガス消火設備の避圧ダクトは全て保温を行う。  (8)放射線遮蔽範囲および留意事項 ● 放射線遮蔽範囲は次の通りとする。以下の部屋を通過するダクトや配管には放射線防護のために壁面より1m(室内側)ずつ鉛シート巻き(鉛等量2mm)とする。ただし、機器メーカーの仕様を確認し従うこと。 ● X線撮影室、X-TV室、CT(PETを含む)、血管造影室、OP室(X線撮影を伴う場合) ● 図示による ● 医療ガスアウトレット、ファンコイルスイッチボックスも同様に鉛巻きを行う。 ○ リニアク室へのダクト、配管には機器メーカーの仕様に従い、放射線の防護を行う。  (9)遮音壁貫通部の留意事項 ○ 遮音壁を貫通する部分の空調換気、排煙ダクトの保温仕様は図示なき場合はロックワール板50mm、遮音シート1.0mmとし貫通部より相互0.5mまで(計1.0m)を対象とする。範囲は次の通りとする。 ○ シネマシアター ○ スタジオ ○ 劇場客席および舞台 ○ ホテル客室 ○ 図示による	範囲	外気取入ダクト	給気ダクト	還気ダクト	排気ダクト	電気室等常時換気を行わない室のダクト	●	○	○	●	外壁開口部から機器までの範囲のダクト	●	—	—	○	外壁開口部から2mの範囲のダクト	—	—	—	●	空調室を通過する範囲のダクト	●	●	○	○	非空調室を通過する範囲のダクト	●	●	●	○	多温箇所を通過する範囲のダクト	●	●	○	○	全熱交換器に接続するダクト	●	●	○	○	駐車場露出ダクト	●	●	●	○	機械室(電気室を除く)露出ダクト	●	●	○	○	NC30以下の天井内を通過するダクト	●	●	○	●	屋外ダクト	○	●	●	○	デシカント空調機のダクト	●	●	●	●
範囲	外気取入ダクト	給気ダクト	還気ダクト	排気ダクト																																																														
電気室等常時換気を行わない室のダクト	●	○	○	●																																																														
外壁開口部から機器までの範囲のダクト	●	—	—	○																																																														
外壁開口部から2mの範囲のダクト	—	—	—	●																																																														
空調室を通過する範囲のダクト	●	●	○	○																																																														
非空調室を通過する範囲のダクト	●	●	●	○																																																														
多温箇所を通過する範囲のダクト	●	●	○	○																																																														
全熱交換器に接続するダクト	●	●	○	○																																																														
駐車場露出ダクト	●	●	●	○																																																														
機械室(電気室を除く)露出ダクト	●	●	○	○																																																														
NC30以下の天井内を通過するダクト	●	●	○	●																																																														
屋外ダクト	○	●	●	○																																																														
デシカント空調機のダクト	●	●	●	●																																																														
第2節 塗装及び防錆工事																																																																		
3.2.1 塗装																																																																		
【追加】	(1)材料 ● 屋内、屋外の施工時に行う塗装はホルムアルデヒド等放散量の極少ないものを選定し、JIS等の材料規格において放散量の規定がある場合はF☆☆☆☆とする。  (2)黒ガス管塗装 ● 「標仕」に従い塗装を行うこと。また、蒸気、高温水は耐熱塗装とする。  (3)「標仕」記載以外の塗装 ○ 下記の部分に塗装を行う。 ○ 屋外露出金属配線管 ○ ピット内排水管 ○ ガス配管 ○ 吊りボルト ○ 屋外露出配管 ○ 雑用水配管 ○ 屋内露出配管 (図示の場所に用いる)  (4)雑用水、中水配管の識別 ○ 雑用水、中水配管がある場合、上水配管と区別するため塗装する。(管材が分かっている場合は不要とする。)																																																																	

第4章 関連工事																																																											
第1節 仮設工事																																																											
4.1.1 一般事項	(1)足場さん橋類 ● 建築工事請負者が定置したものは無償で使用できる。 ○ 本工事で設置する。																																																										
【追加】																																																											
第2節 土工事																																																											
4.2.1 一般事項	(1)埋戻土、盛土 ● 根切土の中の良質土(但し、コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類) ○ 山砂の類  (2)建築発生土の残土処分 ○ 場外搬出(約 km) ○ 場内指定場所へ堆積 ● 自由処分																																																										
【追加】																																																											
第3編 空気調和設備工事																																																											
設計条件	● 設計温湿度条件(下記以外の特殊条件は図中に記載する。)																																																										
【追加】	<table border="1"><thead><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="4">外気</th><th colspan="4">屋内(調整目標値)</th><th rowspan="2">%</th></tr><tr><th colspan="2">一般系統</th><th colspan="2">24時間系統</th><th colspan="2">一般系統</th><th colspan="2"></th></tr><tr><th></th><th>温度(DB)</th><th>湿度(RH)</th><th>温度(DB)</th><th>湿度(RH)</th><th>温度(DB)</th><th>湿度(RH)</th><th>温度(DB)</th><th>湿度(RH)</th><th></th></tr></thead><tbody><tr><td>夏期</td><td>34.6℃</td><td>59.9%</td><td>℃</td><td>%</td><td>26.0℃</td><td>50.0%</td><td>℃</td><td>%</td><td></td></tr><tr><td>冬期</td><td>3.1℃</td><td>62.0%</td><td>-1.7℃</td><td>73.4%</td><td>23.0℃</td><td>50.0%</td><td>℃</td><td>%</td><td></td></tr><tr><td>中間期</td><td>℃</td><td>%</td><td>℃</td><td>%</td><td>℃</td><td>%</td><td>℃</td><td>%</td><td></td></tr></tbody></table>		外気				屋内(調整目標値)				%	一般系統		24時間系統		一般系統					温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)		夏期	34.6℃	59.9%	℃	%	26.0℃	50.0%	℃	%		冬期	3.1℃	62.0%	-1.7℃	73.4%	23.0℃	50.0%	℃	%		中間期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%	
	外気				屋内(調整目標値)				%																																																		
	一般系統		24時間系統		一般系統																																																						
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)																																																			
夏期	34.6℃	59.9%	℃	%	26.0℃	50.0%	℃	%																																																			
冬期	3.1℃	62.0%	-1.7℃	73.4%	23.0℃	50.0%	℃	%																																																			
中間期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%																																																			
第1章 機材																																																											
第1節 ボイラおよび温風暖房機																																																											
1.1.2 鋼板製煙道	○ 煙道は下記の通りとする。 ○ 鋼板製煙道 ○ 3.2mm ○ 4.5mm ○ ステンレス製 ○ 1.0mm ○ 伸縮継手を設ける。 ○ 掃除口を設ける。 ○ 保温材の厚さ ○ 75mm ○ 100mm ○ 保温外装材 ○ ステンレス ○ 100mm																																																										
【追加】																																																											
1.1.3 ばい煙濃度計	○ 設置する。(測定口は80φ以上とし、取付箇所は煙導直線部とする。)																																																										
【追加】																																																											
その他	(1)薬剤 ○ ボイラーの清缶剤は食添加総合缶内処理剤等を使用し、人体への影響が無いものとする。  (2)ボイラー排水 ○ ボイラー排水の系統には減温機(槽)を設置し、給水装置で減温した後に一般の排水槽(槽)へ放流する。																																																										
【追加】																																																											
第3節 冷凍機																																																											
冷媒放出口	○ 冷凍機まわりの安全弁集合放出口は、冷凍機当該部分から外気に直接面する箇所まで、すべて空調設備施工請負者工事とする。																																																										
【追加】																																																											
第4節 コージェネレーション装置																																																											
1.4.1 一般事項	○ コージェネレーション装置を設置する場合、隣室や上下階への騒音、振動計算書を監理者に提出すること。 ○ 装置の発熱を効率よく除去するよう制気口の配置に配慮すること。 ○ 系統連系の工事区分は図示による。																																																										
【追加】																																																											
第6節 冷却塔																																																											
1.6.1 一般事項	○ 冷却塔は、給気用ガラリおよび給気用ベントキャップ等から10m以上の離隔を確保すること。  ○ 冷却塔ブローによる排水放流先は下水道接続とし、下水道料金減免用に排水に電磁流量計、補給水系統に計量器(検定付)を設置すること。  ○ 11階以上の建物の屋上に設置する冷却塔は施行令129条の2の7及び告示3411号に対応し、高層階仕様とすること。																																																										
【追加】																																																											
第7節 空気調和機																																																											
1.7.4 ファンコイルユニット	○ 天井カセット型フェース塗装は指定色焼付仕上とする。																																																										
【追加】																																																											

1.7.6 マルチパッケージ型空気調和機	● マルチパッケージ型空調機の屋外機が連結する場合のアクティブフィルターの渡り配線は本工事とする。  ● マルチパッケージ型空調機の室外機用にドレンパンやドレン管を設置すること。																																																																								
【追加】																																																																									
第11節 送風機																																																																									
1.11.1 ~1.11.4	(1)天井内設置送排風機 ● 1,500m <sup>3</sup> /hをこえる送排風機は、原則として、居室の天井内などに設置しないこと。  (2)厨房用排気ファン ● 厨房用排気ファンは、片持型とし油清掃用の点検口及びコック付水抜きを設置すること。 ● 排気口に油受けを設置すること。  (3)チャンパーにおける点検扉 ● 床置型ファンのサクシオンチャンパーには、羽根車点検のための点検扉を設けること。  (4)屋外型ファン ● ファンのケーシングには、点検口及びコック付水抜きを設置すること。																																																																								
【追加】																																																																									
第12節 ポンプ																																																																									
1.12.1 空調用ポンプ	● ポンプはすべてメカニカルシールとする。																																																																								
【追加】																																																																									
第14節 ダクト及びダクト附属品、第15節 制気口及びダンパー																																																																									
1.14.1 一般事項	(1)ダクト工法は下記とする。 ● 低圧ダクト(通常運転時のダクト内圧が500Pa以下) ( ● コーナーボルト工法 ○ アングルフランジ工法 ○ スパイラル) ● 高圧ダクト(通常運転時のダクト内圧が500Paを超えるもの) ( ● コーナーボルト工法 ● アングルフランジ工法 ○ スパイラル) ● コーナーボルト工法 ( ● 共板フランジ工法 ○ スライドオンフランジ工法) ○ 上記によらず、下記の特殊ダクト系統は、アングルフランジ工法とする。 ○ 霊安室排気系統 ○ 細菌検査排気系統 ○ 図示による																																																																								
【追加】																																																																									
1.14.7 吹出口及び吸込口ボックス	● 消音内貼の無いボックスは内面を黒塗装仕上げとする。 ● 各制気口のボックス消音内貼は25mmとする。ただしNC35以下の室は50mmとする。 ● 制気口塗装は指定色焼付仕上とする。																																																																								
1.14.2 1.15.6 ~1.15.12 ダクト用材料、ダンパー共通	(1)ダクト・ダンパー材質 ● 特記なき限り亜鉛鉄板製とする他、下記表及び図示による。																																																																								
	一般換気系統等のダクト材質は、下記特記及び図示による。																																																																								
	<table border="1"><thead><tr><th>材質(ダクト)</th><th>系統・箇所</th><th>ダンパー仕様</th><th>備考</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="2">ガルバリウム鋼板</td><td>○ 浴室系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>○ 厨房排気系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )</td></tr><tr><td rowspan="2">高耐食性めつき鋼板</td><td>○ 外気取入れ系統 ( ○ 塩害防止フィルターまで ○ 図示による)</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )</td><td rowspan="2">重耐塩仕様</td></tr><tr><td>○ 屋外露出ダクト</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td></tr><tr><td rowspan="2">ステンレス鋼板</td><td>○ 浴室系統</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>○ 厨房排気系統</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )</td></tr><tr><td rowspan="2">ガラスウール製ダクト</td><td>○ 有機溶剤系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )</td><td rowspan="2"></td></tr><tr><td>● 屋外露出ダクト</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )</td></tr><tr><td>段ボールダクト</td><td>○ ピット・免震層内ダクト</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td>保温付きフレキシブルダクト</td><td>○ 浴室系統</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ 厨房排気系統</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ 有機溶剤系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>● 屋外露出ダクト</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ ピット・免震層内ダクト</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ 浴室系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ 厨房排気系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ 有機溶剤系統</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>● 屋外露出ダクト</td><td>○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )</td><td></td></tr><tr><td></td><td>○ ピット・免震層内ダクト</td><td>○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )</td><td></td></tr></tbody></table>	材質(ダクト)	系統・箇所	ダンパー仕様	備考	ガルバリウム鋼板	○ 浴室系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )		○ 厨房排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )	高耐食性めつき鋼板	○ 外気取入れ系統 ( ○ 塩害防止フィルターまで ○ 図示による)	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )	重耐塩仕様	○ 屋外露出ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )	ステンレス鋼板	○ 浴室系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )		○ 厨房排気系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )	ガラスウール製ダクト	○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )		● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )	段ボールダクト	○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )		保温付きフレキシブルダクト	○ 浴室系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )			○ 厨房排気系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )			○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )			● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )			○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )			○ 浴室系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )			○ 厨房排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )			○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )			● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )			○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )	
材質(ダクト)	系統・箇所	ダンパー仕様	備考																																																																						
ガルバリウム鋼板	○ 浴室系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )																																																																							
	○ 厨房排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )																																																																							
高耐食性めつき鋼板	○ 外気取入れ系統 ( ○ 塩害防止フィルターまで ○ 図示による)	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ )	重耐塩仕様																																																																						
	○ 屋外露出ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							
ステンレス鋼板	○ 浴室系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )																																																																							
	○ 厨房排気系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )																																																																							
ガラスウール製ダクト	○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )																																																																							
	● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )																																																																							
段ボールダクト	○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							
保温付きフレキシブルダクト	○ 浴室系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )																																																																							
	○ 厨房排気系統	○ 高気密 ● 耐食( ● B ○ C ○ )																																																																							
	○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )																																																																							
	● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )																																																																							
	○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							
	○ 浴室系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							
	○ 厨房排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							
	○ 有機溶剤系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ F ○ ○ )																																																																							
	● 屋外露出ダクト	○ 高気密 ● 耐食( ● C ○ ○ )																																																																							
	○ ピット・免震層内ダクト	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ ○ )																																																																							

特殊排気系統等のダクト材質は、下記特記及び図示による。																																											
材質(ダクト)	系統・箇所	ダンパー仕様	備考																																								
ステンレス鋼板	○ 病理検査排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )	アングルフランジ工法とする																																								
	○ 消毒ガス排出系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )																																									
	○ 水治療系統	○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )																																									
	○ 解剖排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )																																									
	○ MRI撮影室内	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C )																																									
	○ 洗濯機排気系統 ○ オートクレープ排気系統 ○ 有機溶剤含有排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ A ○ B ○ C ) ○ 耐食( ○ E ○ )																																									
○ 図示による	○ 高気密 ○ 耐食( ○ ○ )																																										
塩化ビニルライニング鋼板(長方形)	○ RI排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )	アングルフランジ工法とする																																								
	● 結核 または感染病棟排気系統	● 高気密 ● 耐食( ● D ○ )																																									
	○ 酸性ガス排気系統 ○ アルカリ性ガス排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
	○ 図示による	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
	○ RI排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
塩化ビニルコーティング鋼板(スパイラル)	● 結核 または感染病棟排気系統	● 高気密 ● 耐食( ● D ○ )																																									
	○ 酸性ガス排気系統 ○ アルカリ性ガス排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
	○ 図示による	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
	○ RI排気系統	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ )																																									
内外面PVC樹脂コーティング300μm以上	○ 臭突	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ E ○ )																																									
	○	○ 高気密 ○ 耐食( ○ D ○ E ○ )																																									
	● 耐食ダンパー仕様A~Fは下記による。																																										
	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>耐食仕様ダンパー A</th><th>耐食仕様ダンパー B</th><th>耐食仕様ダンパー C</th></tr></thead><tbody><tr><td>推奨用途</td><td>外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気</td><td>外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気</td><td>浴室・厨房排気</td></tr><tr><td>ケーシング</td><td>溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装</td><td>ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装</td><td>ステンレス鋼板(SUS304)</td></tr><tr><td>軸受</td><td>黄銅+</td><td>SUS304</td><td>SUS304</td></tr><tr><td>軸</td><td>みかけ棒鋼 +エポキシ樹脂塗装</td><td>ステンレス棒鋼(SUS304)</td><td>ステンレス棒鋼(SUS304)</td></tr><tr><td>連結方式</td><td>外部連結 (溶融亜鉛めつき)</td><td>外部連結(SUS304)</td><td>外部連結(SUS304)</td></tr><tr><td>羽</td><td>溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装</td><td>ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装</td><td>ステンレス鋼板(SUS304)</td></tr><tr><td>保護管</td><td>SUS304</td><td>SUS304</td><td>SUS304</td></tr><tr><td>ヒューズ(FD)</td><td>形状記憶合金ヒューズ</td><td>形状記憶合金ヒューズ</td><td>形状記憶合金ヒューズ</td></tr></tbody></table>		耐食仕様ダンパー A	耐食仕様ダンパー B	耐食仕様ダンパー C	推奨用途	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	浴室・厨房排気	ケーシング	溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装	ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス鋼板(SUS304)	軸受	黄銅+	SUS304	SUS304	軸	みかけ棒鋼 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス棒鋼(SUS304)	ステンレス棒鋼(SUS304)	連結方式	外部連結 (溶融亜鉛めつき)	外部連結(SUS304)	外部連結(SUS304)	羽	溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装	ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス鋼板(SUS304)	保護管	SUS304	SUS304	SUS304	ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ						
	耐食仕様ダンパー A	耐食仕様ダンパー B	耐食仕様ダンパー C																																								
推奨用途	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	外気取入・地下駐車場排気・浴室・厨房排気	浴室・厨房排気																																								
ケーシング	溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装	ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス鋼板(SUS304)																																								
軸受	黄銅+	SUS304	SUS304																																								
軸	みかけ棒鋼 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス棒鋼(SUS304)	ステンレス棒鋼(SUS304)																																								
連結方式	外部連結 (溶融亜鉛めつき)	外部連結(SUS304)	外部連結(SUS304)																																								
羽	溶融亜鉛めつき鋼板 +防錆塗装	ガルバリウム鋼板 +エポキシ樹脂塗装	ステンレス鋼板(SUS304)																																								
保護管	SUS304	SUS304	SUS304																																								
ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ																																								
	<table border="1"><thead><tr><th></th><th>耐食仕様ダンパー D</th><th>耐食仕様ダンパー E</th><th>耐食仕様ダンパー F</th></tr></thead><tbody><tr><td>推奨用途</td><td>酸・アルカリ系排気</td><td>有機溶剤系排気</td><td></td></tr><tr><td>ケーシング</td><td>溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)</td><td>ステンレス鋼板(SUS304)</td><td></td></tr><tr><td>軸受</td><td>SUS304</td><td>SUS304</td><td></td></tr><tr><td></td><td>+フッ素樹脂コーティング</td><td>+フッ素樹脂コーティング</td><td></td></tr><tr><td>軸</td><td>ステンレス棒鋼(SUS304)</td><td>ステンレス棒鋼(SUS304)</td><td></td></tr><tr><td>連結方式</td><td>外部連結(SUS304)</td><td>外部連結(SUS304)</td><td></td></tr><tr><td>羽</td><td>溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)</td><td>ステンレス鋼板(SUS304)</td><td></td></tr><tr><td>保護管</td><td>樹脂コーティング</td><td>SUS304</td><td></td></tr><tr><td>ヒューズ(FD)</td><td>形状記憶合金ヒューズ</td><td>形状記憶合金ヒューズ</td><td></td></tr></tbody></table>		耐食仕様ダンパー D	耐食仕様ダンパー E	耐食仕様ダンパー F	推奨用途	酸・アルカリ系排気	有機溶剤系排気		ケーシング	溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)	ステンレス鋼板(SUS304)		軸受	SUS304	SUS304			+フッ素樹脂コーティング	+フッ素樹脂コーティング		軸	ステンレス棒鋼(SUS304)	ステンレス棒鋼(SUS304)		連結方式	外部連結(SUS304)	外部連結(SUS304)		羽	溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)	ステンレス鋼板(SUS304)		保護管	樹脂コーティング	SUS304		ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ			
	耐食仕様ダンパー D	耐食仕様ダンパー E	耐食仕様ダンパー F																																								
推奨用途	酸・アルカリ系排気	有機溶剤系排気																																									
ケーシング	溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)	ステンレス鋼板(SUS304)																																									
軸受	SUS304	SUS304																																									
	+フッ素樹脂コーティング	+フッ素樹脂コーティング																																									
軸	ステンレス棒鋼(SUS304)	ステンレス棒鋼(SUS304)																																									
連結方式	外部連結(SUS304)	外部連結(SUS304)																																									
羽	溶融亜鉛めつき鋼板 +塩化ビニル塗装 (膜厚40~60μ)	ステンレス鋼板(SUS304)																																									
保護管	樹脂コーティング	SUS304																																									
ヒューズ(FD)	形状記憶合金ヒューズ	形状記憶合金ヒューズ																																									
1.15.3 ~1.15.4 制気口類共有	【追加】	● ベントキャップ(丸型)はドラフト・ドレン対策型とする。 ● 浴室および外気流入の恐れがある箇所に設置する制気口は結露防止型とする。 ● 天井アネモ型吹出口は全て中コーン可動型とする。また風量調整用リングシャッターを附属とする。 ● ベントキャップは、すべて指定色塗装とし、監理者に見本提出すること。																																									
1.15.6 ~1.15.12 ダンパー類共通	【追加】	● ダンパー類設置箇所にはダクト点検口(450φ以上)を設置する。 ● 防煙ダンパー(SD、SFD)、ピストンダンパー(PD、PFD)の仕様は下記とする。 防煙ダンパー ● 遠方復帰式 ○ 手元復帰式 ピストンダンパー ● 遠方復帰式 ○ 手元復帰式 ● 湯沸室、厨房などの火気使用室で、排気温度が72℃を超える場合は、防火ダンパ(FD)の温度ヒューズ溶解温度120℃程度(火力が強いフード付近は150℃)とする。 ● 高天井部の排煙口はダンパー式としメンテナンスに配慮すること。 ● 空調機・ファンに接続される全ての主ダクトの第一分岐、及び第二分岐部分は図示なくともVDを設けること。																																									

			日付 2024.03 法適合を確認したもの 一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名	設計番号
			PA 富沢照秋 横岡 健岡 正行 一級建築士 登録番号257995号	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	0220801
			担当 増田哲男・藤本真二郎 設備設計一級建築士 建築士監交付番号 第2380号 横岡正行	図面名	図面番号
			須田祥吾	機械設備工事特記仕様書5	A1版 N.S A3版 N.S AAC-A-016

鹿児島市立病院

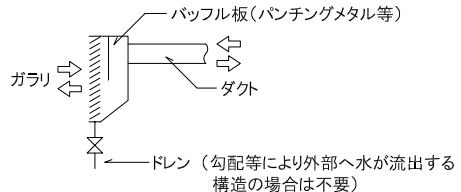
久米・衛藤中山設計共同企業体

その他 【追加】	<p>● 厨房・浴室などの多湿箇所のダクト継ぎ目及びダクト接続部のビスは、下部に設けないものとする。</p> <p>○ 高気密ダンパーは、漏気量が締切時の前後圧力差が1,000Pa時にてダンパー開口面積当たり以下の数値(保証値)とする。 VD・MD(長方形、円形) ○ 1.5m<sup>3</sup>/min・㎡以下(気密)    ○ 0.03m<sup>3</sup>/min・㎡以下(高気密) ○ 0.001m<sup>3</sup>/min・㎡以下(超高気密)(動作は、全開、全閉のみ) CD(長方形、円形) ○ 5.0m<sup>3</sup>/min・㎡以下(気密) ○ 3.0m<sup>3</sup>/min・㎡以下(高気密) 排煙ダンパー(長方形、円形)、排煙口 ○ 0.3m<sup>3</sup>/min・㎡以下(気密) ● 0.15m<sup>3</sup>/min・㎡以下(高気密)</p> <p>凡例 気密・高気密VD:φ<sub>VD(L)</sub> 気密・高気密MD:φ<sub>MD(L)</sub> 気密・高気密CD:φ<sub>CD(L)</sub></p> <p>ダクトシールの範囲とクラスは、標仕の他、下記の通りとする。</p> <p>● シールクラス N + A + B ● 病理検査排気 ● 厨房排気 ○ 消毒ガス排出系統 ○ クリーンルーム系統 ○ オートクレープ排気系統 ● 結核又は感染症排気系統 ○ 室間の差圧調整を行う室( ) ● 排煙ダクト ● 高気密ダクト</p> <p>○ シールクラス N + A + B + C ○ 病理検査排気 ○ 厨房排気 ○ 消毒ガス排出系統 ○ クリーンルーム系統 ○ オートクレープ排気系統 ○ 結核又は感染症排気系統 ○ 室間の差圧調整を行う室( ) ○ 排煙ダクト ○ 高気密ダクト</p> <p>● 微差圧ダンパーの仕様は下記の通りとし、調整能力は下記を基準とする。 ● 壁設置型 ( ● 一般 ○ 耐食性(SUS) ) ○ ダクト中間型 ( ○ 一般 ○ 耐食性(SUS) )</p>
-------------	---

1.14.2 1.14.5 第2章 施工 2.2.4等 排煙関連 【追加】	<p>(1)排煙ダクト 材質は下記とし、アングルフランジ工法とすること。 ● 亜鉛鉄板 ○ ステンレス鋼板(屋外)</p> <p>(2)排煙口開放及び復帰方式 ● 電気式とし遠方復帰が可能なものとする。尚、配管配線およびスイッチは本工事とする。 ○ 排煙手動開放装置は、指定色塗装とする。</p> <p>(3)排煙風量測定 ● 建築設備定期検査業務指導書(日本建築設備昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。</p> <p>(4)機械排煙作動時における換気、空調設備の運転停止 ● 排煙時には、換気、空調設備が自動火災報知機または排煙口と連動停止する機能とすること。</p> <p>(5)機械排煙作動時における避難確保 ● 排煙口を開放し排煙機が作動して室内が著しく負圧となり、居室などからの避難扉の開放が著しく困難になり、避難上支障が生じることを防止するため、以下の部分などについては、扉に通気用開口部を設ける及びバスダクトの設置、排煙機の静圧コントロール(インバーター取付)などを行うこと。 下記に示す箇所は扉前後の差圧を確認し監理者の確認を受けること。 ○ 遮音性能が要求される室などの出入口扉 ○ 防護を考慮した気密性が要求される室の出入口扉 ● 排煙機に近い室などの出入口扉及び階の避難用出入口扉 ● 弱者の利用が予想される部分</p> <p>● 排煙口の同時開放を行う室については、監理者の確認を得ること。</p> <p>(6)排煙ダクトの断熱措置 ● 断熱措置は以下の通りとする。 排煙口方式の場合: 排煙口(室内に露出する部分は除く)から堅穴区画されている排煙シャフト入口まで 排煙ダンパー方式の場合: 集煙口(常時開)から堅穴区画されている排煙シャフト入口まで 天井チャンパー方式の場合: 集煙口(常時開)及び排煙延長ダクトから堅穴区画されている排煙シャフト入口まで ただし、SMD以降の延長ダクト部分は省略することができる</p> <p>● 断熱材はRWとし、GWは使用しないこと。</p> <p>(7)耐火ダクトについて ● 原則として、排煙ダクトは一般ダクトと同様に防火区画を貫通する場合、貫通部に近接して防火ダンパー(HFD)を設けること。 ● 排煙主ダクトは機能上HFDを設けることができない場合、以下の耐火仕様ダクトとする。 ○ 1.6mmの鉄板ダクトに、ロックワール25mm以上被覆したもの。 ○ 1.6mmの鉄板ダクトに、主要構造部の耐火被覆として公的機関の認定を受けた材料を被覆したもの。</p> <p>● 排煙主ダクトから分岐した枝ダクトが階をまたがる複数階の排煙システムに対応している場合、そのダクトは主ダクトとみなし、必要となる耐火措置を行うこと。 ○ 自走式駐車場などの排煙ダクトのうち、排煙横引主ダクトは原則としてHFDを設置せず、上記の耐火仕様ダクト仕様とする。</p> <p>● 横引き主ダクトは堅穴貫通部のHFD以降に防火区画貫通がある場合は耐火ダクトとすること。</p> <p>(8)天井チャンパー方式の排煙について ● 天井内の小梁、ダクト、又は配管等により、排煙が不均等となるおそれがある場合は、均等に排煙できるように排煙ダクトを延長すること。 ● 天井チャンパーの総排煙風量は、天井チャンパー内の排煙ダンパー開口部の吸込風速を測定し、求めることができるが、併せて天井スリット面での吸込風速を測定し、均等に排煙されていることを確認すること。 ● 天井チャンパー内は一般の不燃天井裏扱いとならないため、防災関係の配線は、露出扱いとなり耐熱規制の対象になることを留意すること。 ● 排煙ダンパーは、当該防煙区画部分の各部分から水平距離で30m以内に設置すること。</p>
---	---

第2章 施工	
第1節 機器の据付け及び取付け	
2.1.18 送風機 【追加】	<p>● 送風機は、番手に関係なく、振れ止め支持を行うこと。</p>
第2節 ダクトの製作及び取付け	
2.2.1 一般事項 【追加】	<p>(1)ダクトの製作 ● ステンレス製ダクト、ポリ塩化ビニル製ダクト、グラスウール製ダクト、段ボールダクト、保温付フレキシダクト、リブダクト、折畳みダクトの仕様はSHASE-S010-(最新版)による。</p> <p>(2)厨房ダクト ● 厨房排気ダクトに亜鉛鉄板を使う場合は、「標仕」より1番手厚くする。 ● 厨房の主ダクト及び湾曲部等必要な箇所の側面に、清掃用点検口ならびに堅ダクト最下部にドレン抜きを設ける。</p> <p>(3)水抜き ● 屋外露出排気ダクトおよび排煙ダクトの最下部に水抜きを設けること。また内部が高湿度となるダクトおよび臭突は上り勾配にて施工するとともに、その最下部にも、水抜きを設けること。(やむを得ず鳥居状の敷設となる部分には、必ず水抜きを設けること)</p> <p>(4)屋外ダクト ○ 屋外露出ダクトは指定色にて塗装を行う。</p>
2.2.5.3 フレキシブルダクト 【追加】	<p>(1)フレキシブルダクト フレキシブルダクトの適用は、下記とする。 ● 標仕(制気口から1.5m以内のみ)による ○ 監理者協議による ○ 図示による 湾曲部の内側半径はダクト半径以上とし、有効断面を損なうことなく取り付けること。</p>

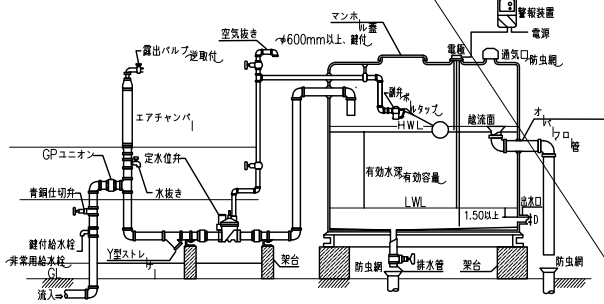
2.2.5.1 チャンパー 【追加】	<p>● サブライチャンパー及びレタンチャンパーには、点検口及び温度計取付座を設ける。 ● 外壁に設置するガラリに取付けるチャンパー類は、排水管を取付け、間接排水口に導く。または屋外に導くこと。 ● 内貼を施すチャンパーの表示寸法は、外形寸法とする。 ● 複数の接続する場合は、給気排気の用途毎に中仕切りを設ける。</p>
2.2.5.5 風量測定口 【追加】	<p>● 下記の場所に設置すること。 ● 送風機吐出口ダクトまたは吸込ダクト ● 空調機出口の各系統ダクト ● 外気取入ダクト ○ 還気ダクト ○ 図示した位置 ○ 排煙ダクト</p>
その他 【追加】	<p>(1)火気使用室の給気口、構造 ● 外気の侵入により、ガスの炎が立ち消えない位置とする。 ● 寒気を感じるにより、給気口を塞いでしまう位置に設けないこと。 ○ 外気処理を行わず、冬期に冷気が室内に侵入する給気口においては、火気使用時に換気ファンと連動して開放される機能のものとする。</p> <p>(2)ショートサーキットの防止 ● 取入れ外気の汚染防止のため、外気取入口(給気塔)と排気口(排気塔)、外気取入口(給気塔)と冷却塔、GHP、煙突との間に、十分な距離(原則として10m以上)をとること。</p> <p>(3)浴室、プール ● 浴室、プールなど湿気を伴う室の天井内換気設備(機器、ボックスなど)には、排水設備を設置すること。</p> <p>(4)点検口 ● 天井チャンパーレタン方式でグリッド金網取付位置や、パッケージ空調機および個別全熱交換器の加湿器設置位置にも点検口を設けること。</p> <p>(5)給排気のガラリ ○ 給気及び排気ガラリから雪の巻き込み侵入を防止するためにガラリの高さは外部GL又は屋根より下記の高さ以上とすること。 ○ 1,000mm ○ mm</p> <p>● 接続チャンパーには水抜き・防雪防風用パツフル板を設ける。 又チャンパーへのダクト接続は極力高い位置で取り出すこと。</p>



その他 【追加】	
第4編 自動制御設備工事	
第1章 機材	
第1節 総則	
1.1.1 一般事項 【追加】	<p>(1)画面について ● 監視画面画面は、監理者に提出し確認すること。 ● BEMS装置の各種初期データ入力は全て本工事とする。 ● 空調機が冷水コイル(冷水、温水も含む)の場合、制御弁(二方弁)のCV値を確認して、適切な制御弁を選定し監理者に提出すること。</p>

第4節 中央監視制御装置	
1.4.1 一般事項 【追加】	<p>(1)火災停止 ● 自動火災報知器(電気設備工事)発報時における空調機、送風機の連動停止について電気設備受注者と調整を行うこと。</p> <p>(2)CO2制御 ● CO2濃度に関わらず、外気導入量を停止しない(最小必要外気量を確保する)システムとすること。 ● CO2センサーは、空調系統ごとに有効な位置に設置すること。 ● 外気量が最小になった場合に、排気などにより室内が負圧とならないようにすること。</p> <p>(3)可変風量(VAV)空調方式 以下の点に留意し、検討書を監理者に提出し協議し施工すること。 ● 送風量の変化に関わらず外気量は必要量を確保する(VAV装置の最小開度設定を検討する)。 ● エアバランス表を作成し、送風量が最小となった場合、排気などにより室内圧力が負圧とならないか確認する。</p>
第2章 施工	
第1節 自動制御機器の取り付け	
2.1.1.2 温度検出器、湿度検出器及び二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )濃度検出器 【追加】	<p>● 居室などに温湿度検出器を設けるときは、居室の平均的な状況が把握できるように、以下の点に留意すること。 ● 居室の中央部や還気ダクトなどに設置すること。 ● 吹出口の近くや、窓際、居室の隅などの気流や日射の影響を直接受ける位置には設置しない。 ● 原則として床面より1.2m~1.5mの高さに設置する。 ● 天井高が3mを超える場合は、温度検出器の設置位置を天井面や天井内ダクト、ボディセンサーモとはしてはならない。</p>
第2節 盤類の取り付け	
2.2.1 自動制御盤の取付け 【追加】	<p>● 転倒防止措置として振れ止め固定を施すこと。 ● 塩害地域の屋外設置の場合はSUS鋼板製+粉体塗装仕上とする。 ● 冷却塔に近接設置する盤類は、塩害仕様とする。 ● 屋外から室内へ渡る配線は、SPD(避雷器)を設置する。 ● 制御盤の上部に水配管等を設置しないように計画すること。 やむを得ず、水配管の下部に制御盤を設置する場合、制御盤上部にはドレンパンを設け、漏水センサーを設けること。</p>

第5編 給排水衛生設備工事	
第1章 機材	
第1節 衛生器具	
1.1.6 水栓 【追加】	<p>(1)散水栓 ○ 散水栓(上水系統)は「ドーム型」「壁付型」または「水栓柱型」を原則とする。やむをえず「床埋込型」にする場合は、配管の途中に逆流防止器(バキュームブレーカー)を設けること。</p> <p>(2)直結栓の設置 ○ 量水器と受水槽の間には、直結の給水栓を設けること(受水槽の清掃用等)。</p>
第4節 タンク	
1.4.1 一般事項 【追加】	<p>○ 壁、床、その他障害物より六点点検に必要な保有空間をとること。(上部1,000mm以上 周囲600mm以上 下部600mm以上) ○ 水槽上部には給水管以外の配管を設けないこと。 ○ 二槽式または中仕切りとする。 ○ マンホールは鍵付き防水バッキン入り600φとし、水槽天端より100mm以上立上げること。梯子付きとすること。屋外のマンホールの場合には、二重蓋とすること。 ○ メンテナンスする床面から高さ2m以上のタンクはタンク上部に転落防止柵を設けること。 ○ オーバーフロー・水抜き管は間接排水(防虫網付)とし、排水口空間は管径の2倍(最小150mm以上)とする。 ○ 屋外の水槽は通気管(防虫網付)を上部より300mm程度立上げること。管径は吸込管の1/2以上の有効断面をとること。 ○ 水槽上部と高水位面の空間は300mm以上とする。 ○ 吸込口の位置は水槽底部より150mm以上の空間をとること。 ○ 流入口とオーバーフロー管の間には必要な吐水口空間を設けること。 ○ 給水管一吐水口空間は、下記の通りとする。 13A-25mm以上    40A-70mm以上 20A-40mm以上    50A-75mm以上 25A-50mm以上    65A-90mm以上 32A-60mm以上    75A以上一商径以上</p> <p>○ 架台上部に高置水槽を設置し、架台高さ寸法が2.0mを超える場合には、高置水槽周囲に点検歩廊を設け、幅0.6m以上、高さ1.1m以上の安全柵(手摺り)を設けること。 ○ 震災時の飲料水確保のために、感震器と緊急遮断弁を設置する(制御盤共)。サンヨ側側面に水栓を設ける。 ○ 受水槽の上流側にエアチャンパーまたは水撃防止器等を地盤面に設置し、水撃作用防止のための措置を講じること。</p>



第5節 消火機器	
1.5.1 一般事項 【追加】	<p>○ 屋外に設置する消火栓箱類は、ステンレス製溶接加工とする。</p> <p>○ 厨房フード消火 ○ 厨房ファン停止スイッチは燃焼設備から歩行距離5m以内に設けること。 ○ フード消火設備作動時はガス遮断を行う。 ○ スプリンクラー作動でガス遮断を行う。 ○ 厨房機器の電源遮断を行う。 ○ 厨房室内感知器でのガス遮断を行う。 ○ 連結散水栓代替スプリンクラーは連結散水設備の基準による設置とすること。 ○ スプリンクラーヘッドは厨房等高温となる箇所は適切に選定をすること。</p>

第6節 厨房機器	
1.6.1 一般事項 【追加】	<p>○ 図中の機器寸法は概略寸法とする。 ○ 加熱方法 ( ○ 都市ガス ○ 電気 ○ 液化石油ガス(LPG) ○ 蒸気 ) ○ ステンレス鋼板及び鋼材 ( ○ SUS430 ○ SUS304 ○ 図示による )</p>

第7節 排水金具	
1.7.8 グリース阻集器 【追加】	<p>○ 厨房などに設置するグリース阻集器は、(SHASE-S217(最新版))に定められた構造基準などにより、本体内部に有効な隔板などを2ヶ所以上設けた3層以上のもので、厨芥捕集用の網カゴを備えたものを、設置すること。</p>

(その他給排水)	
給水設備	
給水管	
【追加】	<p>○ 給水管は、他の配管と明確に識別できる措置(色分け、文字入れ、色バンドなど)を行うこと。 ○ 上水配管と中水配管(雨水系統、工業用水系統を含む)は誤配管をさけるため、管材種類を異なったものとし、明確に識別できる措置(色分け、文字入れ、色バンドなど)を行うこと。 ○ 中水系統(雨水系統、工業用水系統を含む)の配管、ポンプ類、吐水口には、赤文字で容易に消えない方法で「飲用厳禁」と記入すること。</p>
給水圧力 【追加】	<p>○ 設置する衛生器具については、メーカー決定後、衛生器具・シャワー等必要となり水圧を確認の上、施工図に基づいた揚程計算により、ポンプ等の供給圧力側に問題がないことを確認すること。</p>

第2編 2.2.16 量水器 【追加】	<p>計量法に定める検定合格品 ○ 親メーター ( ○ 貸与品 ○ 直読式 ○ バルス発信式 ) ○ 子メーター ( ○ 貸与品 ○ 直読式 ○ バルス発信式 )</p>
------------------------------	---

第8節 柵および蓋	
1.8.4 量水器柵 【追加】	<p>○ 親メーター ○ 水道事業者指定品 ( ○ 貸与品 ○ 買取り ) ○ 子メーター ○ 標準図MC型</p>

第2編 第2節 2.2.23 水栓柱	<p>○ 合成樹脂製 ○ 人造石とぎ出し製 ○ ステンレス製</p>
-----------------------------	------------------------------------

吐水口 空間 【追加】	<p>○ 給水器具をはじめとする給水設備には、有効な吐水口空間を確保する。有効な吐水口空間が確保できない場合には、バキュームブレーカーを取り付けるなど(器具の溢れ縁から150mm以上の高さに取り付ける)逆流防止のための有効な措置を講じること。</p>
-------------------	---

その他 【追加】	<p>○ 空調に使用する給水管には減圧式逆流防止器を設置し、飲用系統と縁を切ること。加湿系統も含む。</p>
-------------	--

給湯設備	
膨張管	
【追加】	<p>○ 貯湯槽の膨張管は単独配管とし、高置水槽または補給水槽に接続しないこと。</p>

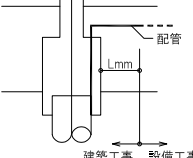
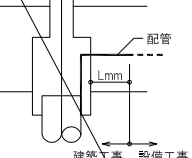
レジオネラ 症の発生 の予防 【追加】	<p>○ 中央給湯方式の温水シャワー、給湯用水栓などの使用によるレジオネラ症の発生を予防するため、以下の措置を行うこと。 ○ 給湯温度を60℃以上に保持すること。 ○ 給湯設備内における長時間滞留を防ぐ工夫をすること。 ○ 公衆を対象とする浴槽には、温度計を設置すること(公衆浴場法)。</p>
------------------------------	---

保温 【追加】	<p>○ 湯沸器の給排気筒(二重管)の隠蔽箇所は保温を行う。</p>
------------	------------------------------------

排水対応 【追加】	<p>○ 貯湯式給湯器の水抜きは、器具接続の給湯管の下端に水抜き栓を設け、間接排水管受けとする。</p>
--------------	--

				日付 2024.03	法適合を確認したもの	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名 鹿児島市立病院増築その他空調和設備工事	設計番号 0220801
			鹿児島市立病院	久米・衛藤中山設計共同企業体	PA 富沢照秋 磯間正行	一級建築士 登録番号257995号		
				世司 増田哲男 鹿木真二郎	設備設計一級建築士 建築士監交付番号 第2380号 磯間正行		図面名 機械設備工事特記仕様書6	図面番号 A1版 N,S A3版 N,S AAC-A-017
					須田祥吾			

排水通気設備 排水槽の 容量、構造	○ 排水槽は、「建築物における排水槽等の構造、維持管理に関する指導要綱(ビルビット対策指導要綱)」に準拠した容量、構造とすること。 【追加】 ○ 排水管は、掃除口を設けるなど、保守点検が容易に行える構造とすること。								
排水通気	○ 排水集合管はメーカーによる負荷計算を行うこと。 ○ オフセット部の通気管は支障の無いよう施工すること。 ○ ブランチ間隔10以上を有する建物の排水立て管は、図示なくとも、最上階から数えてブランチ間隔10ごとに結合通気管を設ける。 ○ 床上掃除口は部屋や通路の隅など目立たないところや動線と干渉しないように設置すること。総合図に記載し、監理者の確認を受けること。 ○ SHASE-S206(最新版)に準ずる。								
機器からの 排水	○ 機器からなどの排水は間接排水とし適切な排水口空間(下表参照)を確保する。ただし、受水槽などの各種飲料用貯水槽の間接排水空間は、下表にかかわらず最小150mmとする。 排水口空間(SHASE-S206(最新版)) <table border="1"> <tr> <td>間接排水管の管径</td> <td>排水口空間(mm)</td> </tr> <tr> <td>25A以下</td> <td>最小50</td> </tr> <tr> <td>30A - 50A</td> <td>最小100</td> </tr> <tr> <td>65A以上</td> <td>最小150</td> </tr> </table>	間接排水管の管径	排水口空間(mm)	25A以下	最小50	30A - 50A	最小100	65A以上	最小150
間接排水管の管径	排水口空間(mm)								
25A以下	最小50								
30A - 50A	最小100								
65A以上	最小150								
直接外部に 開放された 排水通気管 末端と建築 物の開口部 との位置に ついて	○ 直接外部に開放された通気管の末端は、以下の事項によること。 ○ 建築物の出入口、窓、外気取入れ口などより、0.6m以上立ち上げること。 0.6m以上立ち上げられない場合には、水平に3.0m以上離すこと。 ○ 屋上に設置する場合には、雨水が流入しないような高さ(約0.2m)に立ち上げること。 ○ 樹木が多い場所では、落葉や鳥の巣を防ぐため防鳥網を設けること。 ○ 臭突は屋上まで立ち上げること。								
排水用通気弁	○ やむを得ず排水用通気弁を設ける場合は、監理者の確認を受けること。 また弁を設ける箇所には点検口を設置する。								
第2編 2.7.2 埋設の深さ	○ 凍結深度(GL- mm) ○ 車道部分 (○ 600mm ○ mm) ○ その他部分(○ 300mm ○ mm) 【追加】								
第2章 施工									
第1節 衛生器具									
2.1.2 衛生器具	○ 大便器洗浄ボタンとフラッシュバルブまでの渡り配線およびその施工は、衛生工事とする。 【追加】								
第2節 給排水衛生設備									
2.2.3.7 ヒートポンプ 給湯機	○ ヒートポンプ給湯器を設置する場合、深夜の騒音値について確認し、監理者に報告すること。 【追加】								
2.2.4 タンク	(1)受水槽などの滞留防止構造 常に衛生的な水を確保するために、以下の措置を講じること。 ○ 受水槽などの流入口と吸込口は、対角位置に設ける。 ○ 受水槽には、迂回壁を設ける。 (2)受水槽などの低負荷時対策 季節などにより飲料水の使用変動が大きいと考える場合には、受水槽などは必要に応じて水質を適正に保つため、以下の事項を行う。 ○ 使用変動に応じて、水圧センサ式水位制御システムにより給水の開始、停止水位を中央監視盤から遠隔にて設定可能とする水位調整を行う(または、定水位弁の動力停止用電極を切替える)。 ○ 貯留水量の少ない季節(低水位)の時には、流入口端からの水面の落差が大きいと水面の波動が大きくなるため、防波板の設置など水位調整に支障のないような措置をすること。 ○ 塩素滅菌装置を設ける。 ○ 電極棒を高水位、低水位の2カ所を設置する(受水槽の内部補強材及びボルトナットの材質は低水位時の水位変動を考慮すること)。 ○ 防波筒は透明樹脂管とすること。								

第6編 ガス設備工事	
第2章 都市ガス設備、第3章液化石油ガス設備	
第1節 機材	
2.1.7 3.1.3.4 ガス メーター	○ メーターの仕様は下記とする。 ○ 親メーター (○ 貸与品 ○ 直読式 ○ パルス発信式) ○ 子メーター (○ 貸与品 ○ 直読式 ○ パルス発信式) 【追加】
2.1.3 3.1.3.6 ガス漏れ 警報器	○ 設置する。(電気設備工事) 室名( ) 外部警報端子 (○ 有 ○ 無) 【追加】
第2節 施工	
2.2.3 3.2.3 配管	○ ガス管口径は実負荷および施工図の配管ルートを基に口径を再計算し、監理者に報告の上、施工すること。 【追加】
第7編 さく井設備工事	
第3章 地中熱交換井設備	
第1節 機材および施工	
その他	(1)種別 地中熱交換器の種別は、下記とする。 ○ 垂直型(ポアホール方式) ○ 垂直型(杭方式) ○ 水平型 【追加】 (2)サーマルレスポンス試験要領 ○ 地中熱交換器はサーマルレスポンス試験を行い地盤の特性を解析すること。 調査方法は、IEA(国際エネルギー機関)のECES(蓄熱実施協定)で定める基準にもとづき調査計画書を作成し、監理者に確認すること。 測定因子は下記による ○ 循環水量(L/min) ○ 循環水入口温度(℃) ○ 循環水出口温度(℃) ○ サーマルレスポンス試験の対象とする地中熱交換器の箇所数・位置は図示による。 ○ 温水循環試験のモニタリング時間は連続60時間以上、温度回復試験のモニタリング時間は連続72時間以上とすること。 ○ 測定結果により熱伝導率等の積特性をまとめた調査報告書を作成し、監理者に提出すること。 ○ 調査結果により設計条件に変更がある場合は、下記の対応により、設計条件を満足する仕様に変更を行うこと。 (○ 受注者負担 ○ 発注者負担 ○ 協議による) ○ サーマルレスポンス試験にて設置した地中熱交換器を、本設で利用する場合は、工事中も適切に養生を行うこと。漏水等により利用できなくなる場合は、受注者負担において追加設置とする。 (3)地中熱利用杭について ○ 既成杭の工法は、ヒートパイル工法協会によるヒートパイル工法を施工できるように、Hyper MEGA工法、H・B・M工法、BASIC工法、ST・BRB工法のいずれかをを用いること。 ○ 杭施工時に配管がなじれたり損傷することのないように、建築工事受注者および杭工事受注者(以下、関係者)と十分に協議を行った上で、適切な間隔で杭と結束すること。 ○ 杭先端部の配管は、支持層直近および杭底部部分を選けた位置から配管する。詳細は図示とする。 ○ 下図のように基礎内にも配管し、建築工事と設備工事の工事区分は、フォーミングからL mm離れた箇所にて取り合う。 なお、L = ( )mmとする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>建築工事</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>設備工事</p> </div> </div> ○ 基礎内および基礎付近の配管工事は鉄筋工事などで配管を損傷させないよう、十分に注意し適切な養生をして行うこと。 ○ 杭施工時に配管を損傷させないよう、掘削径に余裕をもたせ、関係者と十分に協議を行う。 ○ 施工に伴う配管損傷は原因者負担とする。 探熱管内には水を注入し、加圧養生を行った上でセメントミルクの注入を行う。 (4)水圧試験について 水圧試験は、試験計画書を作成し、監理者の承認を得ること。 ○ 水圧試験不合格の場合は、受注者負担にて不合格の本数分を再設置とする。 ○ 工事期間中の水圧は、少なくとも1日1回は目視による確認を行い、記録を行うこと。 (5)資格 ○ さく井技能士 ○ 一級地中熱施工管理技術者 (6)冷媒 ○ 水 ○ エチレングリコール ○ ○% ○ プロピレングリコール ○ ○% ○ 不凍液を使用する場合、濃度が確定した段階で、熱源機器の能力、流量、ポンプ揚程を再度確認し、監理者に報告すること。

第8編 浄化槽設備工事	
第1章 一般事項	
第1節 総則	
1.1.1 一般事項	○ 特定行政庁の指導を確認すること。 ○ 浄化槽や特殊排水槽、R排水槽等を有する施設の場合、停電時の機能維持について確認し、監理者に報告すること。 【追加】
第11編 医療ガス設備	
第2章 医療ガス設備工事	
第2節 施工	
2.2.1 機器の 据え付け 及び 取付け	○ コンプレッサーや吸引ポンプ等の設置室が居室の隣室や上下階となる場合には下記の騒音、振動対策を施すこと。 ○ 防振床(建築工事) ○ 機器防振 ○ 室内吸音材貼り(建築工事) 【追加】 ○ 危険物施設から5,000以上の隔離を確保すること。 ○ 施工図作成時に保安距離(建物種別、危険物)を確認すること。 ○ 液酸タンクの水平設計震度は下記とすること ○ 0.3 ○ 1.0
その他留意事項	【追加】 (1)熱源機(冷却塔含む)寒冷地対策 ○ 積雪地においては、空冷もしくは空気熱源による熱源機器に以下のような対策を施すこと ○ 吹出し、吸込み面に防雪フード 雪荷重に耐える構造とし、熱源機器の通風を妨げない仕様 ○ 気流の吹出し面は、季節風の風下となるようにする。 (2)空調機凍結防止対策 ○ 空調機のコイルには凍結対策用の循環ポンプを設ける。ポンプの詳細は図示とする。 ○ 予熱コイル下流側に温度検出器を設け、中央監視装置にて計測すること。 ● 外気処理空調機の起動は下記の順とする。 1. コイル二方弁全開 2. OA側MD開 3. ファン起動 4. 二方弁制御ON ● 空調機の停止時には外気取り入れダンパーを全閉とし、外気の進入を防ぐこと。 ● 空調機の停止が長期間に及ぶ場合は、空調機内に凍結防止のヒーターを設けるなどの処置を行う。 ○ 万が一、空調機コイルが凍結した場合の対策として、床面に排水口またはドレン管の床掃除口を設ける。 (3)排水再利用設備(雨水利用設備については中水を雨水と読み替える) 排水再利用設備(中水道)については、国土交通省や自治体の指導内容に準拠し、また、以下の措置を行うこと。 ○ 中水(雑用水)貯留槽は、水道水から補給ができるようにする。この場合、中水が水道水に混入しない構造とする(補給水槽の設置、十分な吐水口空間を確保した間接給水など)。 ○ 中水(雑用水)給水管には、中水(雑用水)の水質を検査するための検水コックまたは水栓を最遠部に設ける。 ○ 残留塩素を保持するために、塩素注入装置を設ける。 ○ 中水(雑用水)を用いる水洗便所には、手洗い付き洗浄用タンクを使用しない。 ○ 洗浄装置付き便器を使用するものは、洗浄装置には水道水を使用する。 ○ 水栓などで一般の人が触れるおそれのあるものは、誤飲防止のための表示、鍵付きとする。 ○ 余剰雨水を排除するため、公共下水道などへの有効な排水設備を設けること。 ○ 下水道料金の徴収のための量水器を設けること。 ○ 中水使用実績を把握できる位置に量水器を設けること。 (4)クリーンルーム及び陽陰圧設定室等について ● 空気清浄度ISO8(クラス100,000)以下のクリーンルームに設ける電線管、ボックス及び機器等には、他室との汚染空気の流出入りや圧力変動を防止するため、シール材充填や、防護パッキン等で機密性を保持すること ● クリーンルーム等に設置する電線管、ボックス及び機器類は、汚染空気の流入、流出を防止するため、シール材充填やパッキン類で気密性を保持すること。 ○ ISOクラス7(NASA規格 クラス10,000以下) ● ISOクラス8(NASA規格 クラス100,000以下) ● HEAS規格 清浄度クラスⅠ、Ⅱ ○ 収蔵庫(汚染因子の流入防止として行う。) ● 室間差圧設定室 ● クリーン度及び室間差圧の異なるエリアの境界は、下記の対策をすること。 ○ 微差圧ダンパー設置による可視化 ○ マノメーターによる差圧表示 ○ スモークテスター等による目視 ● 空気清浄度試験 ○ HEPAフィルタ本体リーク試験(○ 工場検査試験成績表にて代用可) 対象範囲(クラス100,000以下) ● HEPAフィルタ装置据え付け時リーク試験 対象範囲(クラス100,000以下) ● 室内清浄度測定 測定方法、測定点数はISO14644-1:2015(JIS B 9920)に準拠する。 計測機器はJIS B 9921に規定する光散乱式気中粒子計数計測器によること。 対象室 (クラス100,000以下)

(5)バリデーション ● 無 ○ 有(詳細はバリデーション仕様書による)	
(6)コミッションング ● 無 ○ 有(詳細はコミッションング仕様書による) ○ 竣工後のコミッションング対応 (検証期間は各機器の安定運転が確認されてからの2年間とし、設備システムの動作・制御が最適になるよう検証・調整を行う。)	
○ 検証期間中は発注者、監理者および設計者が出席するコミッションング会議を定期的に開催し、検証状況・調整方法について報告すること。 検証内容は原則として、検査の方法は「SHASE-M0007-2005設備システムエネルギー計測マニュアル(公益財団法人 空気調和衛生工学会)」及び「建築設備コミッションングマニュアル(特定非営利活動法人 建築設備コミッションング協会編)」を基本とし検査の方法はそれぞれ監理者と協議の上決定した要領に従うものとし、結果は文章をもって報告する。	
(7)ウイスカ対応 対応室 ○ サーパー室 ○ ○ ○ 対応室 ○ 二重床 ○ 天井内 ○ 室内 仕様 ○ 吊り材・支持金物・架台は、溶融亜鉛めっきとし、電気めっきを使用しない。 以下の機器仕様は、ウイスカ対策品とする。 ○ 空調機器類 ○ ファン類	
(8)引き渡し時の充填 各種水種類はすべてタンクに満充填で引き渡すこと。 ○ オイルタンク(ドクヘリ給油設備) ○ 尿素水 ○ LPG(バルクタンク)	
(9)不凍液 ○ 不凍液の仕様は下記とする。また、不凍液は充填の上、引渡しを行うこと。 ○ エチレングリコール ( )% を L ○ 屋内 ● 屋外 ○ プロピレングリコール ( )% を L ● 屋内 ○ 屋外 ○ 不凍液を使用する場合、濃度が確定した段階で、熱源機器の能力および補機類の流量、揚程を再度確認し、監理者に報告すること。	
(10)あと施工アンカーの使用 ● 基本は埋め込みインサート金物、アンカーボルトとし、やむを得ない場合に適用する。	
1) 材料 ● JCAA認証製品、SHASE-S 012適合、国交省仕様適合など製品の規格を確認し、監理者と協議の上選定すること。 ● 引抜許容荷重は、施工部位(床・壁・天井)によるメーカーの許容引抜荷重を確認し、十分な強度を確保した選定とし、監理者と協議の上選定すること。	
2) 施工 ● あと施工アンカー認定資格取得者あるいはメーカー講習受講者による施工とし、相当の実務経験をもった有資格者などによる十分な施工管理の上で施工すること。	
3) 試験 ● 目視検査、接触検査、打音検査、非破壊検査の4つの試験方法、試験箇所数合格基準については、施工部位(床・壁・天井)毎に監理者と協議の上、決定すること。 ● 試験結果は報告書をまとめて速やかに監理者に提出すること。	

日付	2024. 03	法適合を確認したもの	一級建築士 登録番号 266585号 高橋創	件名	鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事	設計番号	0220801
PA	富沢照秋 横岡 織間正行	一級建築士 登録番号257995号		図面名	機械設備工事特記仕様書7	縮尺	A1 版 N.S A3 版 N.S
担当	増田哲男 藤木真二郎	設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 織間正行		図面番号			図面番号 AAC-A-018
	須田祥吾						

鹿児島市立病院

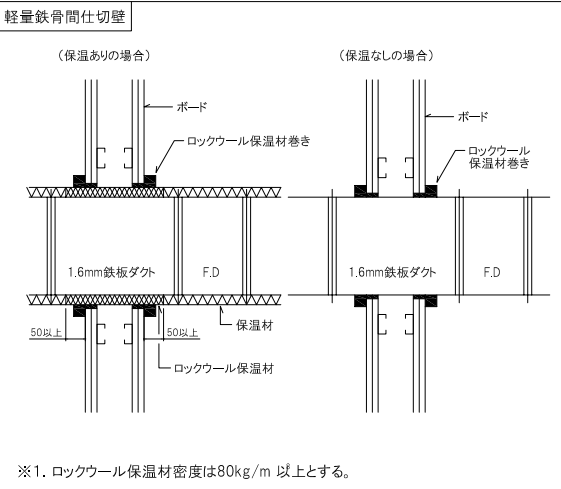
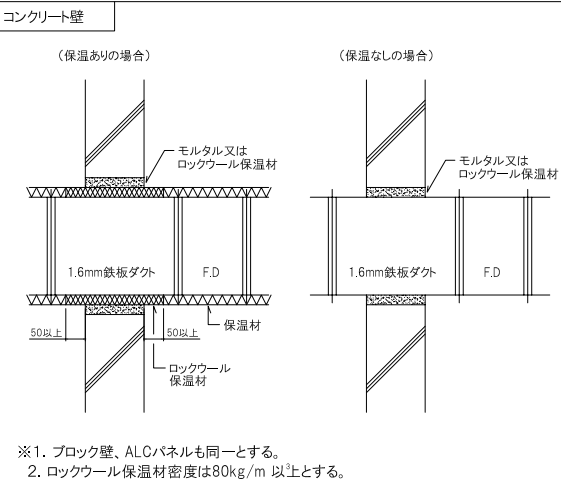
久米・衛藤中山設計共同企業体

<p>改修工事特記事項</p> <p>特記仕様書の適用について</p> <p>設計図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、共仕・標仕による。公共建築工事改修工事標準仕様書を「改修標仕」という。特記仕様書の章、編、節、項番号および表番号は、追加の場合を除き共仕・改修標仕とする。特記仕様書の以下の表記は、次による。 【読替】: 共仕・標仕の当該章、節、項の規定を特記の規定に読み替える。 【追加】: 共仕・標仕の章、節、項の規定に新たに章、節、項を追加する。 特記事項の内、選択肢のあるものは、●の付いたものを適用し、○印は適用しない。 以下の改修工事特記仕様書 ● 適用する ○ 適用しない</p>	<p>その他</p> <p>【追加】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存の防火区画図を確認し、区画処理の要否を確認すること。</li> <li>● 天井点検口表示は既存に無くても、工事範囲には改めて設置すること。</li> <li>● 機器撤去に伴う天井解体及び復旧は本工事に含むこと。</li> <li>● 既存のドレン管等の勾配を確認すること。</li> <li>● 既存管再利用時の管内清掃を実施すること。</li> <li>● 中央監視盤の既存サマリグラフ更新は本工事とする。</li> <li>● 既存インサート、アンカーボルトの再利用は原則不可とする。やむを得ず再使用する場合は、状態及び強度を確認する。</li> <li>● 引張強度の確認試験は、新設するあと施工アンカーと同様に行うこと。</li> </ul>	<p>第5章 発生材の処理等</p> <p>5.1.1 一般事項</p> <p>(2)(ア)特別管理産業廃棄物 特別管理産業廃棄物名称( ) 処理方法( )</p> <p>(2)(イ)再利用及び再資源化を図る発生材 発生材名称( )</p>																																							
<p>1 適用基準</p> <p>第1編 一般共通事項</p> <p>第1章 一般事項</p> <p>第1節 総則</p> <p>1.1.3 官公署 その他への 届出手続等</p> <p>【読替】</p> <p>(d) 排煙設備、消火設備等の防災設備の改修を行う場合は、改修期間、改修範囲、改修内容等を工事受注後、速やかに関係官署と協議する。 なお、機能の停止ができない場合は、監理者と協議する。</p> <p>第3節 工事現場管理</p> <p>1.3.3 施工条件</p> <p>(2) 工事期間中、施工場所の設備機能は、原則として、停止させる。ただし、設計図書に定めのある場合又は設備機能の停止が必要ない場合で、監理者の確認を受けた場合は、この限りでない。 なお、施工場所の設備機能の停止に伴い、非施工場所の機能が停止される場合の代替え設備は、以下による。 ○ 代替え設備不要 ● 代替え設備必要(図示による)</p> <p>(3) 天井内の機器、配管、ダクト等は、天井解体後施工を行うものとする。 なお、天井解体の条件は、以下による。 工事区分と条件 ● 建築工事 ○ 機械設備本工事(図示による)</p> <p>(4) 工事車両の駐車場所及び機材置場は、以下とする。 ● 敷地内 ○ 敷地外( )</p> <p>1.3.10 既存部分等への措置</p> <p>(1) 工事目的物の施工済み部分等については汚損しないよう適切な養生を行う。</p> <p>(2) 既存部分の養生については、「改修標仕」の第3章「養生」による。</p> <p>(3) 工事施工に際し、既存部分を汚損した場合は、監理者・発注者に報告するとともに、確認を受けて現状に準じて補修する。</p> <p>1.4.3 再使用品</p> <p>(1) 取外しを行い再使用する機材は次による。</p> <p>(ア) 取外し前に状態及び性能・機能の確認を行い、機材に損傷を与えないように取り外す。 なお、確認する状態・機能は、下記又は図示による。 機材名称( FCU・CFU ) 確認内容(動作確認、清掃) 機材名称( VAV・CAV ) 確認内容(動作確認、清掃) 機材名称( 衛生器具 ) 確認内容(動作確認、清掃) 機材名称( ) 確認内容( ) 機材名称( ) 確認内容( )</p> <p>(ウ) 取外し後、機材の清掃・洗浄を行い、再取り付け後は、状態、機材の性能・機能確認を行う。機材の分解・整備等による特別な清掃等を行う場合は、図示による。</p> <p>1.5.2 事前調査</p> <p>施工に先立ち、設計図書に定められた調査を行い、監理者に報告する。 調査内容( 天井内、既存配管・ダクト状況の確認 )</p> <p>1.5.3 事前打合</p> <p>事前打合せは、次による。 【読替】 (ア) 入居者 (イ) 所轄消防署 (ウ) 特定行政庁・建築主事 (エ) 保守管理会社 (オ) その他必要な関係者</p>	<p>第2章 仮設工事</p> <p>2.2.1 足場</p> <p>(4) 内部足場( ○ 設置 ○ 不要)</p> <table border="1"> <tr><td>種別</td><td>内部足場等(脚立及び足場板の組合せによる。)</td></tr> <tr><td>A種</td><td>脚立足場(ローリングタワー)</td></tr> <tr><td>B種</td><td>移動式足場</td></tr> <tr><td>C種</td><td>移動式昇降足場</td></tr> <tr><td>D種</td><td>高所作業車</td></tr> <tr><td>E種</td><td>○ 単管足場</td></tr> <tr><td>F種</td><td>○ くさび緊結式足場</td></tr> <tr><td>G種</td><td>○ 枠組足場</td></tr> </table> <p>(1) 外部足場( ○ 設置 ○ 不要)</p> <table border="1"> <tr><td>種別</td><td>外部足場</td></tr> <tr><td>A種</td><td>○ 施工個所面に枠組足場を敷ける。</td></tr> <tr><td>B種</td><td>○ 施工個所面にくさび緊結式足場を敷ける。</td></tr> <tr><td>C種</td><td>○ 施工個所面に単管本足場を敷ける。</td></tr> <tr><td>D種</td><td>仮設ゴンドラを使用する。</td></tr> <tr><td>E種</td><td>移動式足場を使用する。</td></tr> <tr><td>F種</td><td>○ 高所作業車を使用する。</td></tr> </table> <p>2.2.3 仮設間仕切り</p> <p>(1) 屋内仮設間仕切り( ○ 設置 ○ 不要)</p> <table border="1"> <tr><td>種別</td><td>仮設間仕切り</td></tr> <tr><td>A種</td><td>○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行い、内部にグラスウール等の充填を行う。</td></tr> <tr><td>B種</td><td>○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行う。</td></tr> <tr><td>C種</td><td>○ 単管下地等を組み、全面シート張りを行う。</td></tr> </table> <p>第3章 養生</p> <p>3.1.1 養生範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 養生範囲は、改修標仕による。</li> <li>○ 既存部分の養生範囲( )</li> </ul> <p>3.2.1 養生方法及び清掃</p> <p>(1) 養生方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改修標仕による。</li> <li>○ 養生方法( )</li> </ul> <p>(4) 機材搬入通路及び撤去機材搬出通路の養生方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 改修標仕による。</li> <li>○ 養生方法( )</li> </ul> <p>第4章 撤去</p> <p>第1節 一般事項</p> <p>4.1.1 共通事項</p> <p>(3) 撤去前に内容物(冷媒・吸収液・廃油等)の回収を要する機器・配管対象機器</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 図示による ○</li> <li>● 図示による ○</li> </ul> <p>4.1.2 撤去作業の安全対策</p> <p>(イ) 石綿(アスベスト)の撤去特記事項( )</p> <p>【追加】</p> <p>4.2.4 撤去跡の補修及び復旧</p> <p>【追加】</p> <p>(1) 壁付機器、床置機器、天井付け機器撤去跡の取付ボルト孔及び壁面、天井面の変色等の補修ならびに床補修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 監理者と協議</li> <li>○ ( )</li> </ul> <p>(2) 床、壁、天井等の撤去後の開口部の補修方法及び仕上げの仕様</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 監理者と協議</li> <li>○ ( )</li> </ul>	種別	内部足場等(脚立及び足場板の組合せによる。)	A種	脚立足場(ローリングタワー)	B種	移動式足場	C種	移動式昇降足場	D種	高所作業車	E種	○ 単管足場	F種	○ くさび緊結式足場	G種	○ 枠組足場	種別	外部足場	A種	○ 施工個所面に枠組足場を敷ける。	B種	○ 施工個所面にくさび緊結式足場を敷ける。	C種	○ 施工個所面に単管本足場を敷ける。	D種	仮設ゴンドラを使用する。	E種	移動式足場を使用する。	F種	○ 高所作業車を使用する。	種別	仮設間仕切り	A種	○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行い、内部にグラスウール等の充填を行う。	B種	○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行う。	C種	○ 単管下地等を組み、全面シート張りを行う。	<p>第2編 共通工事</p> <p>第5章 インサート及びアンカー</p> <p>第2節 施工</p> <p>5.2.3 確認試験</p> <p>(1) あと施工アンカーの性能確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械設備特記仕様書-7による</li> </ul> <p>(2) あと施工アンカーの施工後確認試験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 機械設備特記仕様書-7による</li> </ul> <p>第3編 空気調和設備工事</p> <p>第2章 施工</p> <p>第2節 ダクトの取付け</p> <p>2.2.7 ダクト清掃</p> <p>(1) ダクト清掃の工法 再利用、再使用を行うダクトはすべて下記の工法による清掃を行うこと。 ○ ダクトビート工法(大型の送風機、集塵機を使い、大風量・高風速でダクト内のホコリを吸引する。主に工場等の大口径ダクトに用いる。) ● ダクトストリーム工法(ダクト内にブラシを入れ、送風・吸引しながらブラシの動きでホコリをダクト内面から剥離させる。主に小口径ダクトに用いる。) ○ 厨房排気ダクト等、油污を清掃する場合は掻き取り、薬品洗浄、高圧洗浄等を行う。</p> <p>【読替】(6) 吹出口、吸込口、ダンパー等は再取り付けする前に清掃、動作確認を行うこと。再取り付けする位置は、図示による。</p> <p>木質構造工事(機械)特記仕様書</p> <p>その他</p> <p>【追加】</p> <p>適用は下記による ○ 官庁施設における木造耐火建築物の整備指針(平成 25 年 3 月 29 日)国土交通省 ○ 木質耐火部材を用いた木造耐火建築物設計マニュアル 2018 国立研究開発法人建築研究所 監修 適用は下記による ○ 受注者は施工前に、適用の整備指針のチェックリストについて該当箇所を記載し、監理者へ提出すること。</p>	
種別	内部足場等(脚立及び足場板の組合せによる。)																																								
A種	脚立足場(ローリングタワー)																																								
B種	移動式足場																																								
C種	移動式昇降足場																																								
D種	高所作業車																																								
E種	○ 単管足場																																								
F種	○ くさび緊結式足場																																								
G種	○ 枠組足場																																								
種別	外部足場																																								
A種	○ 施工個所面に枠組足場を敷ける。																																								
B種	○ 施工個所面にくさび緊結式足場を敷ける。																																								
C種	○ 施工個所面に単管本足場を敷ける。																																								
D種	仮設ゴンドラを使用する。																																								
E種	移動式足場を使用する。																																								
F種	○ 高所作業車を使用する。																																								
種別	仮設間仕切り																																								
A種	○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行い、内部にグラスウール等の充填を行う。																																								
B種	○ 軽量鉄骨材等により支柱を組み、両面に厚さ9mmの合板張り又は厚さ9.5mmのせっこうボード張りを行う。																																								
C種	○ 単管下地等を組み、全面シート張りを行う。																																								

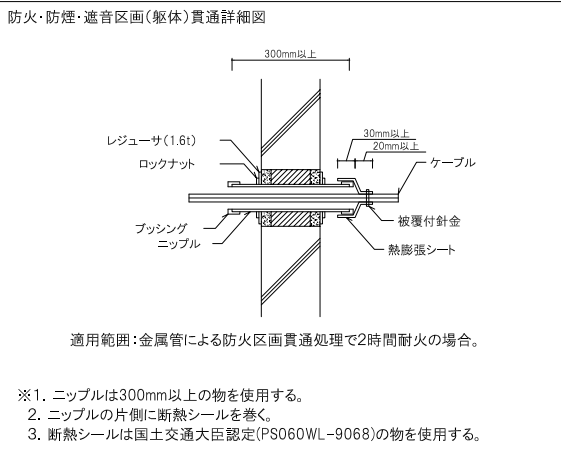
	鹿 児 島 市 立 病 院	久 米 ・ 衛 藤 中 山 設 計 共 同 企 業 体	<p>日付 2024.03</p> <p>PA 富沢照秋 隈田 機関正行</p> <p>担当 増田哲男・藤木真二郎</p> <p>須田祥吾</p>	<p>法適合を確認したもの</p> <p>一級建築士 登録番号257995号</p> <p>設備設計一級建築士 建築士証交付番号 第2380号 機関正行</p>	<p>一級建築士 登録番号 266585号 高橋剛</p>	<p>種名 鹿児島市立病院増築その他空気調和設備工事</p> <p>図面名 機械設備工事改修特記仕様書</p> <p>図面番号 A1版 N.S A3版 N.S</p> <p>設計番号 0220801</p> <p>図面番号 AAC-A-019</p>
--	---------------	-----------------------------	---	--	-------------------------------	---

### ◆機械設備工事防火区画貫通標準図

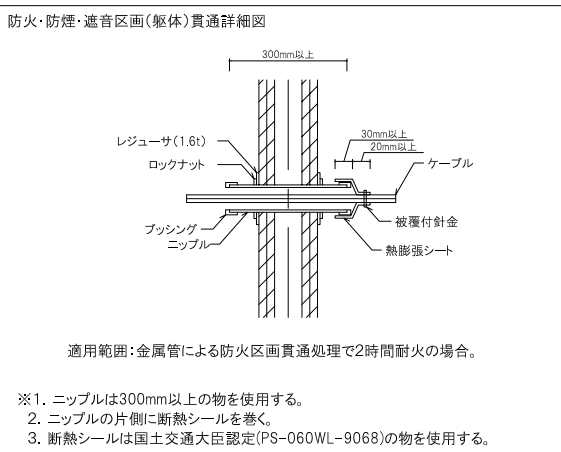
#### 防火区画貫通部施工要領図(ダクト)



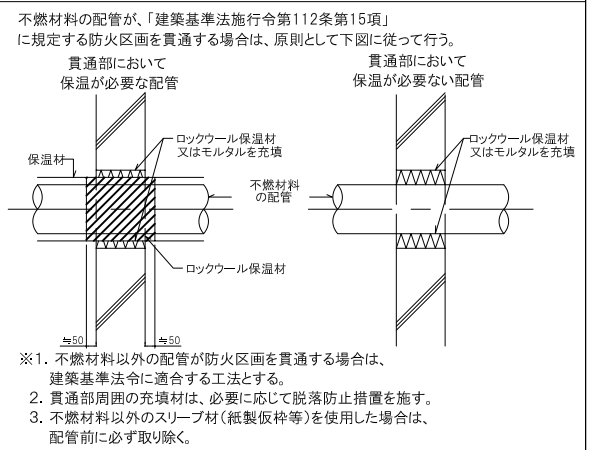
#### 防火区画貫通部施工要領図(ケーブル類RC壁)



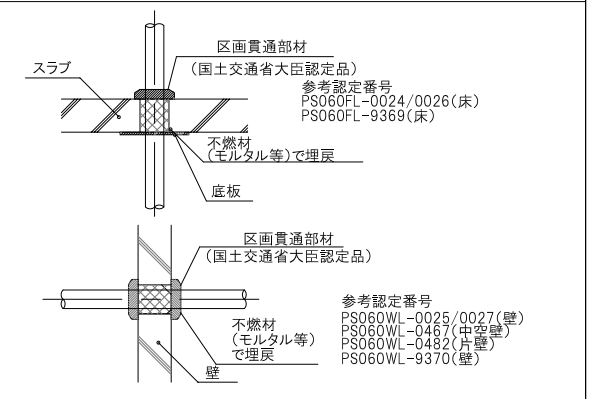
#### 防火区画貫通部施工要領図(ケーブル類軽量区画壁)



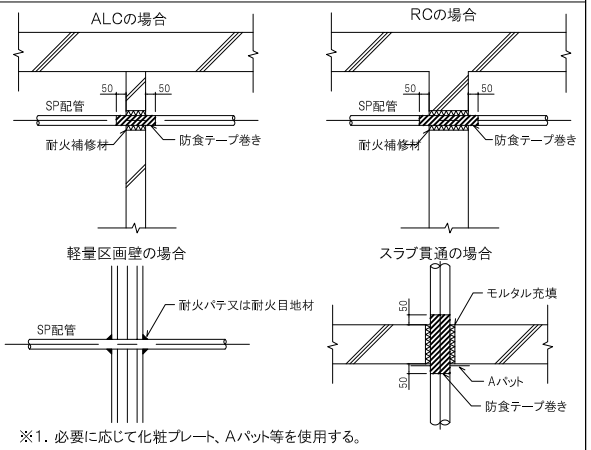
#### 防火区画貫通部施工要領図(一般配管)



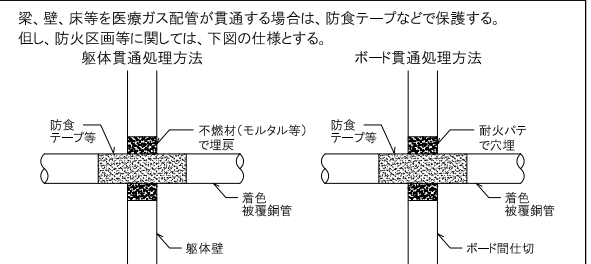
#### 防火区画貫通部施工要領図(冷媒配管類)



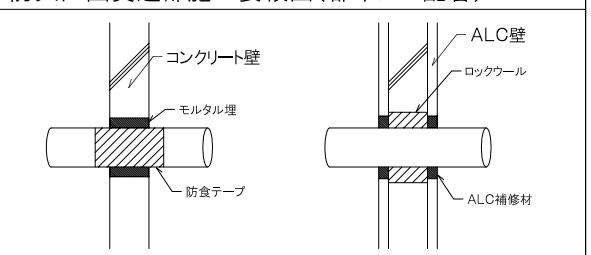
#### 防火区画貫通部施工要領図(消火配管)



#### 防火区画貫通部施工要領図(医療ガス配管)



#### 防火区画貫通部施工要領図(都市ガス配管)



### ◆法適合関連事項

#### 1 建築基準法施行令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

- 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
- 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。
- 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造、又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。
- 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造、又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
- 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
  - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  - 建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
  - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮する場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のために措置を講ずること。
  - 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
- 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。
- 給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
- 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成24年国土交通省告示1447号第5に規定する構造方法によること。
- 構造一級建築士は、構造図を参照すること。

#### 2 建築基準法施行令第129条の2の4の事項

- 腐食防止のために講じた措置(第129条の2の4 第1項1号)は特記仕様書No.04における第7節 埋設配管による。
- 圧力タンク及び給湯安全装置の種別(129条の2の4 第1項第4号)
  - 逃し弁(JIS B 8414)
    - 膨脹管
    - 減圧弁(JIS B 8410)
    - 膨脹水排出装置
    - 蒸気用安全弁(JIS B 8210)
    - その他( )
  - ガス栓の構造(第129条の2の4 第1項第8号)・3階以上の階を共同住宅用途に供する
    - ガス栓(JIS S 2120)により、金属管、金属かとう管、金属線入り強化ホールとねじ接続
    - ガス栓(JIS S 2120)過流出安全機構(JIS S 2120)を設置
  - 水栓の開閉口に講じた水の逆流防止のための措置(第129条の2の4第2項第2号)は、特記仕様書No.07における第8節-吐水口空間による。
  - 給水管の凍結による破壊の恐れのある部分及び当該部分に講じた防凍のための措置(第129条の2の4 第2項4号)は、特記仕様書No.5における3.1.5(6)による。
  - ウォーターハンマー防止のために講じた措置 (第129条の2の4 第2項第6号)
    - 管径を大きくして流速を小さくする
    - ウォーターハンマー防止器を設置する
    - 揚水ポンプ出口に水撃防止型逆止弁を設置する
    - その他
  - 排水横主管、各系統の排水立て管の算出方法 (第129条の2の4 第3項第1号)
    - 排水横主管、各系統の排水立て管の算出方法は排水量と排水管の容量及び傾斜の算出のために用いた手法(排水負荷単位法、定常流量法(SHASE-S206など)を用いる。
  - 排水トラップの仕様(第129条の2の4 第3項第2号)
    - 衛生陶器に設ける排水トラップはJIS A 5207による。
    - グリーストラップに設ける排水トラップはSHASE-S217-2008による。
    - その他の排水トラップはSHASE-S206-2009による。

#### 3 その他

- FD等のダンパー類設置個所で、天井内に設置するものには、点検用として、天井に点検口(450口以上)を設置する。
- 上水と中水の給水管におけるクロスコネクション対策として、中水(雑用水)給水管は、中水(雑用水)の給水管である旨を色別などで表示するか、上水管と中水管は材料を異なるものとする。
- 耐火二層管の防火区画貫通処理工法(大臣認定番号)は以下とする。  
床:PS060FL-0383  
壁:PS060WL-0312  
床:PS060WL-0380

### ◆設備機器の性能項目及び定義等一覧

選択機器名	性能項目	定義	
		規格	項目
ウォーターテリングユニット(空冷式)	定格能力(冷房)	JIS B 8613 JRA 4066	定格冷却能力 冷却能力
	定格能力(暖房)	JIS B 8613 JRA 4066	定格ヒートポンプ加熱能力 ヒートポンプ加熱能力
	定格消費電力(冷房)	JIS B 8613 JRA 4066	定格冷房消費電力 冷却消費電力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8613 JRA 4066	定格ヒートポンプ加熱消費電力 定格ヒートポンプ加熱消費電力
	定格燃料消費電力(暖房)	-	-
ターボ冷凍機	定格能力(冷房)	JIS B 8621	定格冷凍能力
	定格消費電力(冷房)	JIS B 8621	定格冷凍所要入力
	定格燃料消費電力(暖房)	-	-
スクリーン冷凍機	定格能力(冷房)	JRA 4037	定格冷凍能力
	定格消費電力(冷房)	JRA 4037	圧縮機定格冷凍入力
	定格燃料消費電力(暖房)	-	-
吸収式冷凍機	定格能力(冷房)	JIS B 8622	定格冷凍能力
	定格能力(暖房)	JIS B 8622	定格加熱能力
	定格消費電力(冷房)	JIS B 8622	消費電力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8622	消費電力
	定格燃料消費電力(冷房)	JIS B 8622	加熱源消費熱量
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8622	加熱源消費熱量
	定格能力(暖房)	JIS B 8222	熱出力
小型貫流ボイラ	定格消費電力(暖房)	-	消費電力
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8222	燃料使用量
	定格能力(暖房)	JIS B 8417	熱出力
	定格能力(暖房)	JIS B 8418	熱出力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8417	消費電力
温水発生機	定格消費電力(暖房)	JIS B 8418	消費電力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8418	消費電力
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8417	燃料消費量
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8418	燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8417	消費電力
地域熱供給	定格能力	設計図書に記載されている熱供給量	-
	定格消費電力	定格能力を「他人から供給された熱の一次エネルギー換算値」で除した値	-
パッケージエアコンディショナ	定格能力(冷房)	JIS B 8616 JRA 4002 JRA 4053	定格冷房標準能力 定格冷房標準能力 定格冷房標準能力
	定格能力(暖房)	JIS B 8616 JRA 4002 JRA 4053	定格暖房標準能力 定格暖房標準能力 定格暖房標準能力
	定格消費電力(冷房)	JIS B 8616 JRA 4002 JRA 4053	定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8616 JRA 4002 JRA 4053	定格暖房標準消費電力 定格暖房標準消費電力 定格暖房標準消費電力
	定格燃料消費電力(冷房)	-	-
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8627 JRA 4058 JRA 4069	定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力
	定格消費電力(冷房)	JIS B 8627 JRA 4058 JRA 4069	定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力 定格冷房標準消費電力
	定格消費電力(暖房)	JIS B 8627 JRA 4058 JRA 4069	定格暖房標準消費電力 定格暖房標準消費電力 定格暖房標準消費電力
	定格燃料消費電力(冷房)	JIS B 8627 JRA 4058 JRA 4069	定格冷房標準ガス消費量 定格冷房標準ガス消費量 定格冷房標準ガス消費量
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS B 8627 JRA 4058 JRA 4069	定格暖房標準ガス消費量 定格暖房標準ガス消費量 定格暖房標準ガス消費量
ルームエアコンディショナ	定格能力(冷房)	JIS C 9612	冷房能力
	定格消費電力(冷房)	JIS C 9612	冷房消費電力
電気式ヒーター等	定格能力(暖房)	電気ヒーター等の電気容量	-
	定格消費電力(暖房)	電気ヒーター等の定格消費電力	-
FF式暖房機等	定格能力(暖房)	JIS A 4003 JIS S 3031 JIS S 2122	暖房能力 暖房出力 「熱効率」及び「表示ガス消費量」より算出された値
	定格消費電力(暖房)	HA-013 JIS A 4003 JIS S 3031	定格消費電力 消費電力
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013 JIS A 4003 JIS S 3031	定格消費電力 定格消費電力 燃料消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013 JIS A 4003	消費電力 定格入力 定格消費電力
	定格燃料消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量
	定格消費電力(暖房)	JIS S 2122 HA-013	表示ガス消費量 燃料消費量

※1) JRAとは、一般社団法人日本冷凍空調工業会により定められた規格をいう。  
※2) HAとは、日本暖房機器工業会により定められた規格をいう。

性能項目	定義	
	規格	項目
定格全熱交換効率(冷房)	JIS B 8628	定格全熱交換効率(冷房)
定格全熱交換効率(暖房)	JIS B 8628	定格全熱交換効率(暖房)

選択機器名	性能項目	定義	
		規格	項目
Vベルト駆動型電動機直動型	電動機出力	JIS B 8330	電動機出力
	高効率電動機	JIS C 4212 JIS C 4213	高効率電動機
	電動機直動型	JIS C 9603	消費電力 ※1)

※1) JIS C 9603で規定される消費電力は、電動機効率(0.75)をかけた値を用いることとする。

選択機器名	性能項目	定義	
		規格	項目
ガス給湯機	定格加熱能力	JIS S 2109	出湯能力
	定格消費電力	JIS S 2109	定格消費電力
	定格燃料消費量	JIS S 2109	表示ガス消費量
	定格加熱能力	JIS S 2112	出湯能力
ガス給湯暖房機	定格消費電力	JIS S 2112	定格消費電力
	定格燃料消費量	JIS S 2112	ガス消費量
	定格加熱能力	JIS S 3021	連続給湯出力
温水ボイラ	定格消費電力	HA-022	連続給湯出力
	定格消費電力	JIS S 3021	消費電力
	定格燃料消費量	JIS S 3021	燃料消費量(最大)
	定格燃料消費量	HA-022	燃料消費量(最大)
	定格加熱能力	JIS S 3024	連続給湯出力
石油給湯機(給湯単機機)	定格消費電力	JIS S 3024	消費電力
	定格燃料消費量	JIS S 3024	燃料消費量(最大)
	定格加熱能力	JIS S 3027	連続給湯出力
	定格消費電力	JIS S 3027	消費電力
石油給湯機(給湯機付ふろがま)	定格加熱能力	JIS C 9220	冬期高温加熱能力
	定格消費電力	JIS C 9220	冬期高温消費電力
	定格燃料消費量	-	-
	定格加熱能力	JRA 4060	冬期高温貯湯加熱能力
家庭用ヒートポンプ給湯機	定格消費電力	JRA 4060	冬期高温貯湯消費電力
	定格燃料消費量	-	-
	定格加熱能力	JIS C 9219	消費電力
貯湯式電気温水器	定格消費電力	JIS C 9219	消費電力
	定格燃料消費量	-	-
真空式温水発生機	定格加熱能力	JIS B 8417	熱出力
	定格消費電力	JIS B 8417	消費電力
	定格燃料消費量	JIS B 8417	燃料消費量
無圧式温水発生機	定格加熱能力	JIS B 8418	定格熱出力
	定格消費電力	JIS B 8418	消費電力
定格燃料消費量	JIS B 8418	燃料消費量	

※1) JRAとは、一般社団法人日本冷凍空調工業会により定められた規格をいう。  
※2) HAとは、日本暖房機器工業会により定められた規格をいう。

給湯配管保温仕様は、機器表に示す。













